

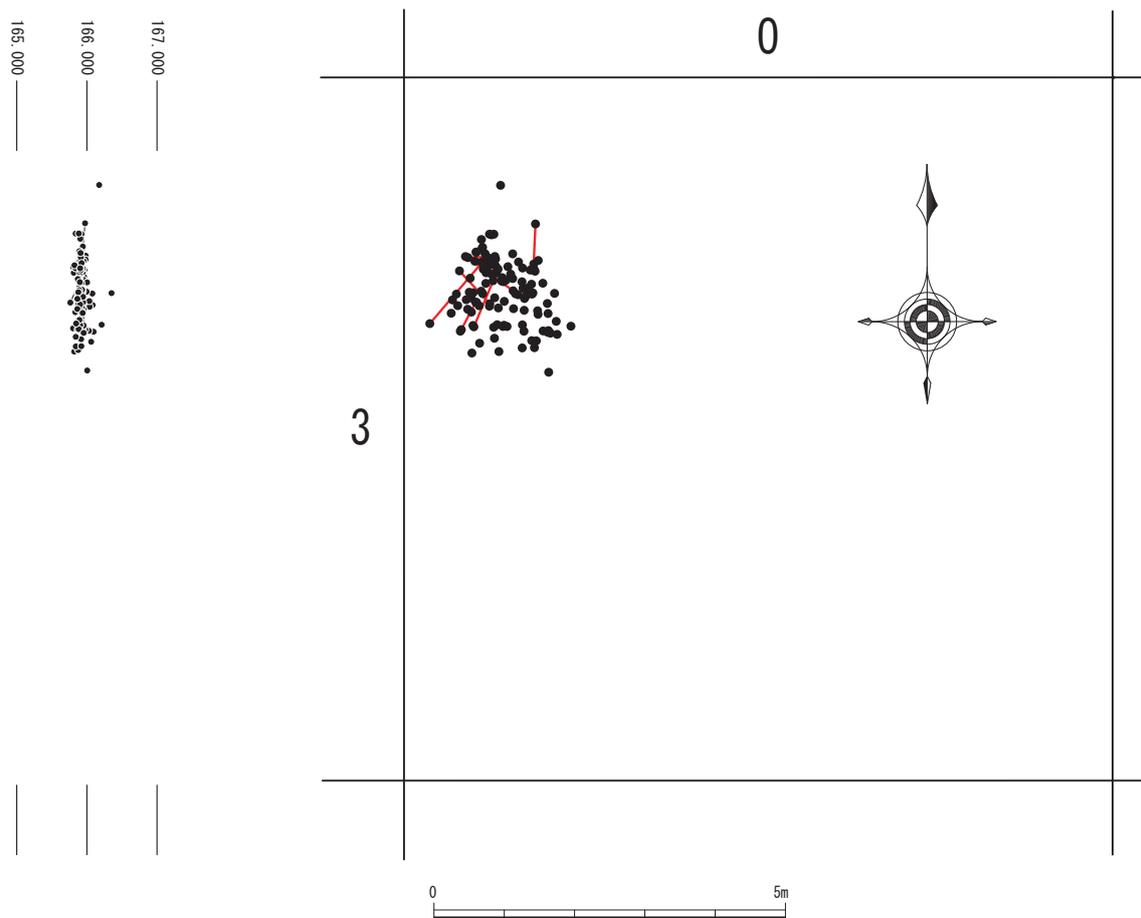
第2章 調査の成果

第1節 アカホヤ火山灰下位の調査

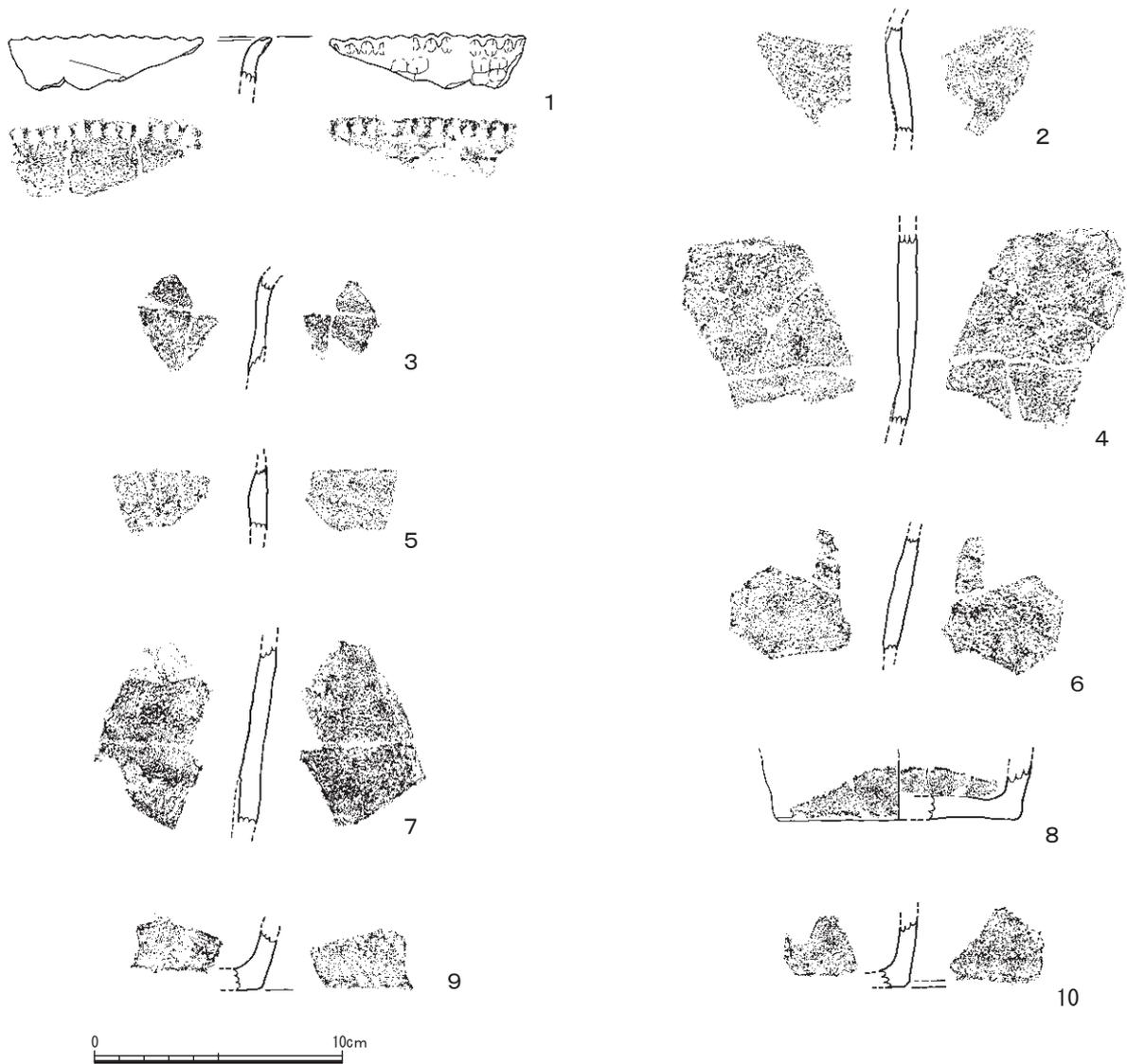
アカホヤ火山灰下位の遺物包含層はXII～XIV層である。遺構検出はXIV層及びXV層で実施したが遺構は検出されなかった。当該層の調査では、縄文時代草創期と早期に比定される遺物が出土した。どちらの時期の遺物も少量の出土であったが。縄文時代草創期の遺物は縄文時代早期の遺物よりやや低い標高での出土を確認した。

1 縄文時代草創期の遺物

XII～XIV層で出土した遺物のうち、縄文時代草創期の時期に相当すると思われる遺物をここで報告する。縄文時代草創期の遺物は127点の土器が出土した。当時期に該当すると思われる石器は確認できなかった。土器の出土地点はすべて1区のO-3グリッドで、標高は165.800mから162.200mまでの間で出土している。直径約2mの範囲でまとまって出土し、サブトレンチを入れて精査を行ったが、明確な遺構の痕跡は確認されなかった。第6図は、出土した土器の位置と接合関係で、接合した破片は多くないが、その分布は北東部



第6図 縄文時代草創期土器出土分布図(S=1/60)



第7図 縄文時代草創期出土土器実測図 (S=1/3)

にやや偏る。出土した土器はほとんどが胴部片で、小・細片が多い。底部片の厚みから、2個体あると思われる。

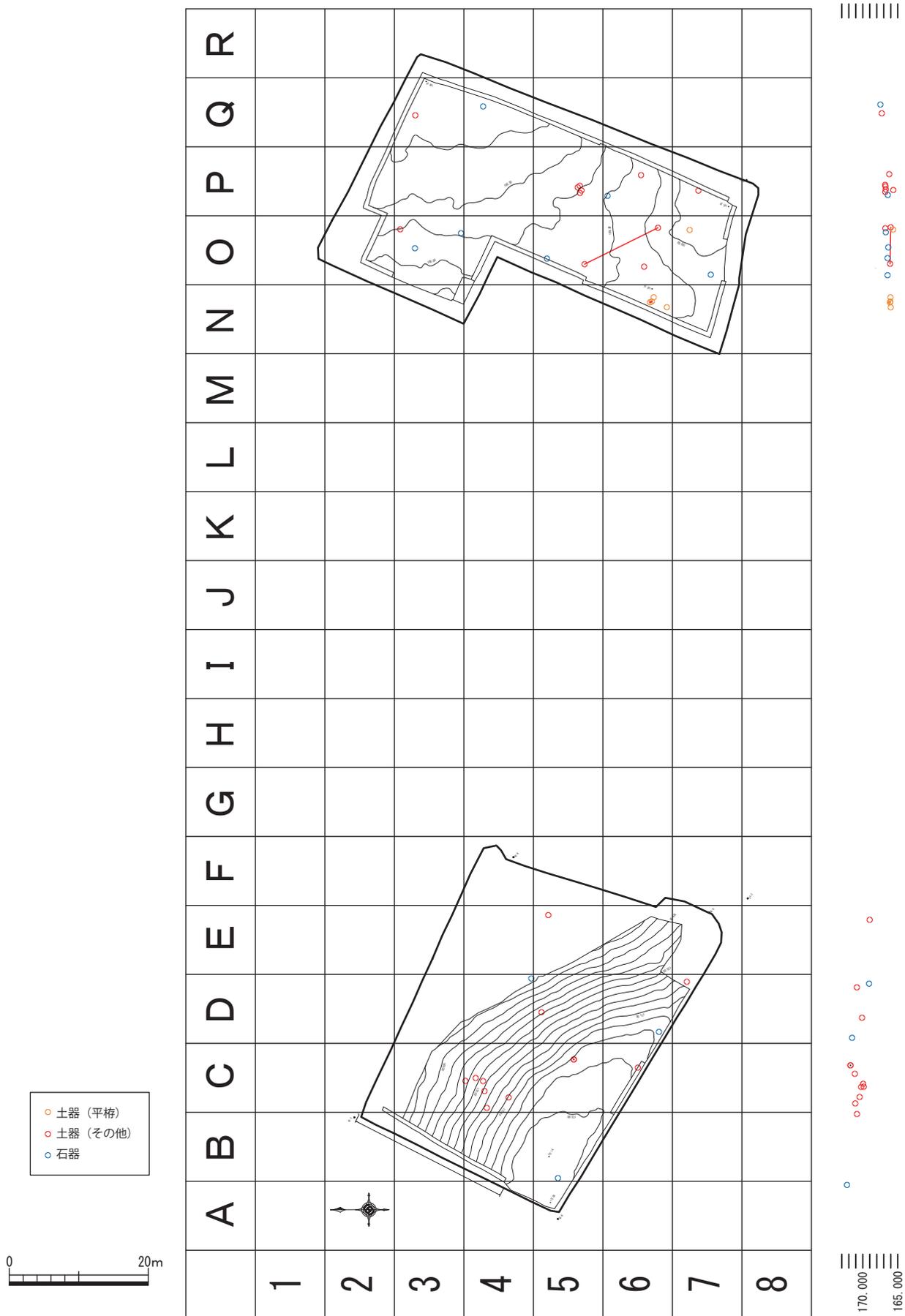
(1) 出土土器について

1は口縁部片で、口縁部は外反させ、内面縁に刺突を施す。外面は内面の刺突の両側を押圧することで縁を波状に成形している。欠損により不明瞭だが、口縁部外面の下側はつまみによる隆起の痕跡が残る。2～4は口縁部付近の破片と思われる。5～7は胴部片で、調整はナデを施す。8～10は底部片で、8の底径は復元で102mmを測る。

第1表 アカホヤ火山灰下位遺構内出土土器観察表

掲載 番号	器種	部位	出土 地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測 No.
				口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	外面	内面	石英	長石	白色 鉱物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色 鉱物	赤色 鉱物	軽石	砂粒	外 面		
1	深鉢	口縁部	O-3	20	-	-	にぶい黄橙 10YR 6/6	にぶい褐 10YR 5/4	3	1	1	1				1			ナデ	ナデ	口唇部にキザミ、刺 突	1
2	深鉢	頸部	O-3	-	-	-	橙 7.5YR 6/6	にぶい橙 7.5YR 6/4	3		1	3							ナデ	ナデ		10
3	深鉢	頸部	O-3	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい褐 7.5YR 6/3	2		2					2			ナデ	ナデ		6
4	深鉢	胴部	O-3	-	-	-	橙 5YR 6/6	にぶい黄橙 10YR 6/4	1							1	1	1	ナデ	ナデ		9
5	深鉢	胴部	O-3	-	-	-	橙 7.5YR 6/6	にぶい橙 7.5YR 6/4	3	2	2	3							ナデ	ナデ		2
6	深鉢	胴部	O-3	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 7/4	1	1	2	1				2			ナデ	ナデ		7
7	深鉢	底部	O-3	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	1		2	1				2			ナデ	ナデ		8
8	深鉢	底部	O-3	25	102	-	にぶい赤褐 YR 5/4	にぶい赤褐 YR 5/4	1	1	1	2				1			ナデ	ナデ		3
9	深鉢	底部	O-3	25	-	-	橙 5YR 7/6	橙 5YR 7/6	3	3						3			ナデ	ナデ		5
10	深鉢	底部	O-3	30	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	3		2	3				2			ナデ	ナデ		4

2 縄文時代早期の遺物



第8図 縄文時代早期土器出土分布及び接合状況 (S=1/800)

土器 28 点、石器 5 点、剥片 6 点、礫 349 点が出土した。出土層位はⅫ～ⅩⅣ層で、1 区は標高 166.100m から 167.300m、2 区は 169.000m ～ 172.300m までの間に遺物が分布していた。遺物出土量が少ないため情報が不足しているが、土器、石器の分布は 1 区ではやや南に偏っており、特に平椀式土器は南側でのみ出土している。一方、礫の分布は 1 区の北側調査区壁にやや密集する傾向があり、土器等との位置的相関関係は認められなかった。

(1) 出土土器について

円筒形土器 (11・12)

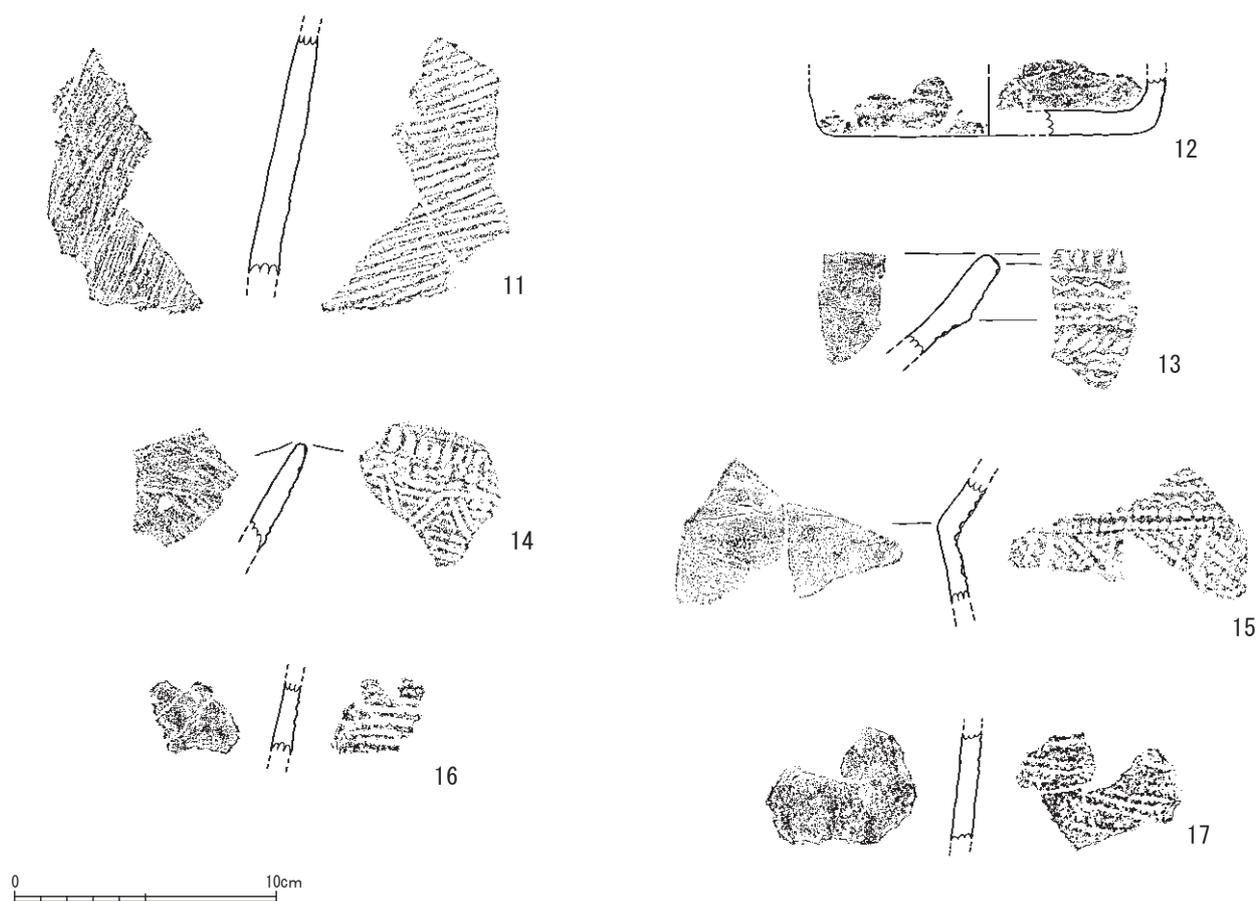
11 は外面に貝殻条痕を施す。12 は底部片である。

平椀式土器 (13～15)

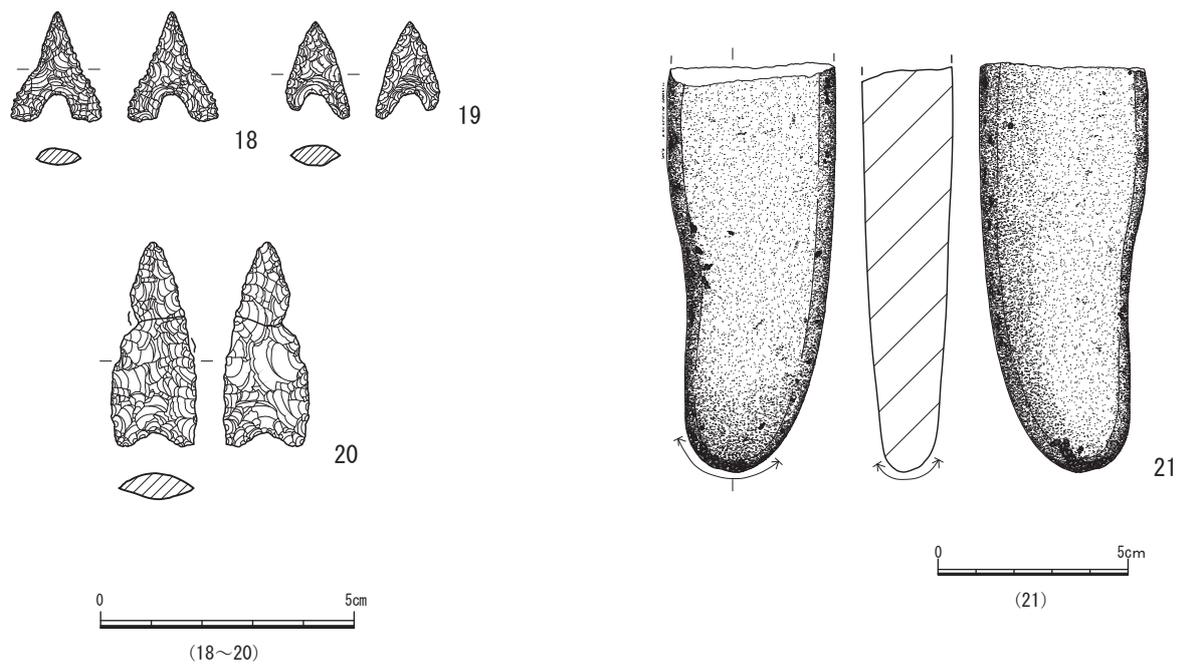
13 は口縁部片で、口縁端部を肥厚させ、連点と沈線を施す。14 は口縁部片で、外面端部に刺突を施す。波状口縁を呈する。15 は頸部に 2 条の連点、胴部は器面に縄文を施文後、結節縄文を施す。直接接合はしないが、13 と同一個体と思われる。

刺突文を持つ土器 (16・17)

16 は櫛状工具で刺突を施す。17 は連続刺突を施す。



第9図 縄文時代早期包含層出土土器実測図 (S=1/3)



第 10 図 縄文時代早期包含層出土石器実測図 (S=1/2、2/3)

(2) 出土石器について

打製石鏃 (18 ~ 20)

18・19 は鏃形鏃で 18 はチャート製、19 は安山岩製である。20 は基部の抉りが浅く、胴下半に最大幅を持ち、そこから屈曲して基部に至る帖地型石鏃で、玉髓製である。

敲石 (21)

21 は敲石である。砂岩製で、欠損しており反対側は不明だが、片端に敲打痕を持つ。

第2節 アカホヤ火山灰上位の調査

アカホヤ火山灰上位の遺物包含層はⅣ～Ⅵ層である。遺構検出はⅦ層で実施した。土坑12基、その他遺構4基が確認できた。遺構の分布は1区は標高167～168.500m付近、2区は169～170mに多く分布しており、また西向きの斜面での検出密度が高くなっている。

遺物は縄文時代中期から古代にかけてのものが出土しているが、その出土状況は同一土層内であり、層位によって遺物を分類することができなかった。そのため、土器についてはこれまでに研究された編年を参考に分類し、掲載順を決定した。当該層で出土した石器についても層位による分類、時期決定ができなかったため、「2 縄文時代中～晩期の遺物」部分でまとめて掲載した。遺構も同様の傾向があったため、埋土内から出土した遺物によって時代を分けて報告する。

1 縄文時代中～晩期の遺構

土坑3基、その他遺構2基を確認した。

(1) 土坑

SC12

検出面はⅣa層で、上層は造成及び現在の樹根によって攪乱を受けており、残存していなかった。埋土の遺構の深さは残存で0.8mである。平面形は楕円形で、1.0×0.75mを測る。底面には逆茂木も見られる小ピットが確認された。陥し穴状遺構と思われる。

自然科学分析の結果、SC12埋土下層では霧島御池テフラの由来するテフラ粒子が含まれており（第3章第3節）、遺構の年代は霧島御池テフラ降下以前と思われる。

SC13

調査区の土砂搬出通路脇で検出された。検出面はⅣa層である。残存で1.0×0.9mを測る。少量の炭化物が出土した。土壌による年代測定では、4322±25年BPの結果が出ている（第3章第2節）

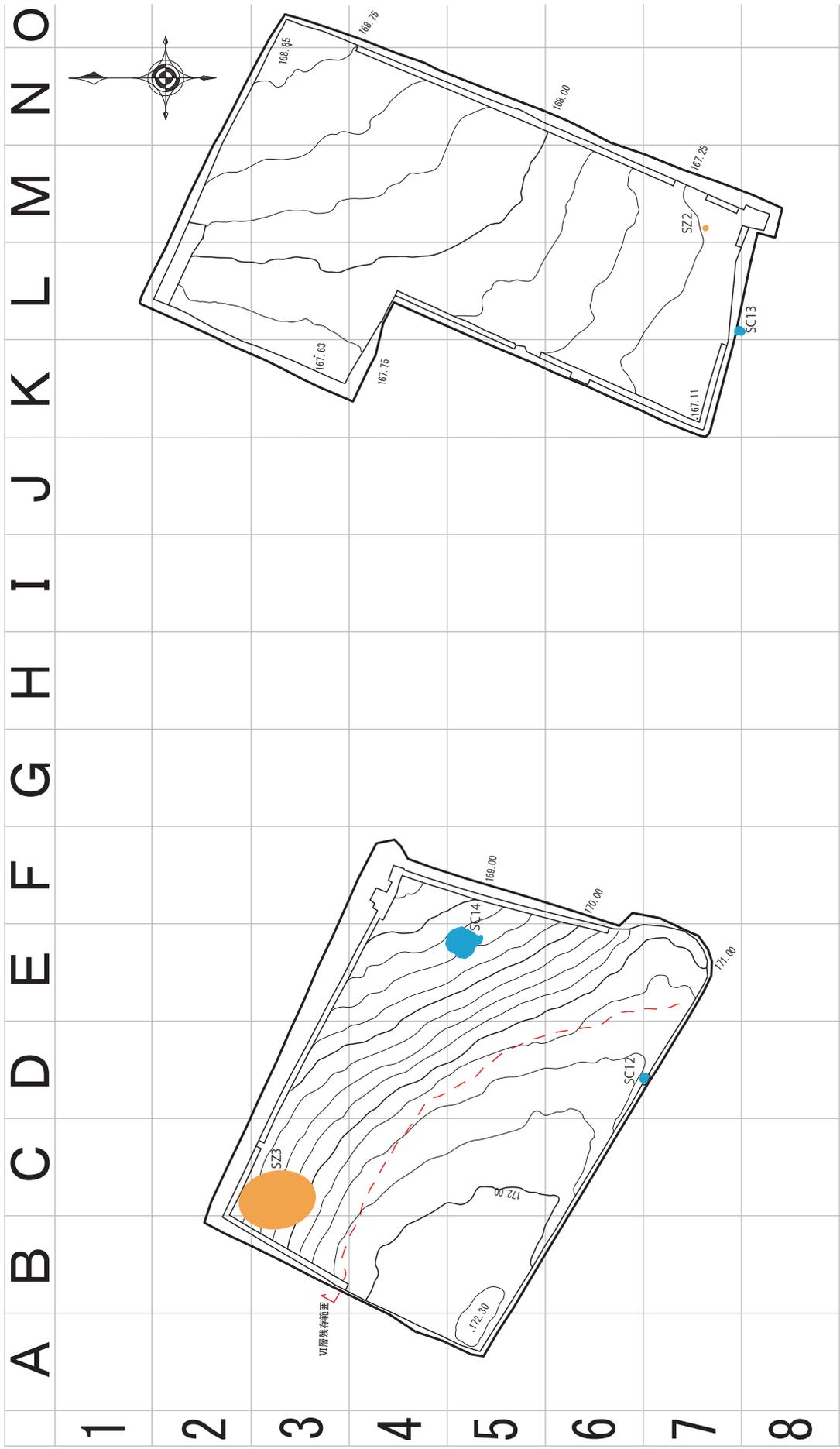
SC14

包含層精査中に検出した。検出面はⅦ層である。埋土中にⅨ・Ⅹ層由来のブロックを含む。平面形は円形で、3.5×3.1mを測る。出土遺物の22は胴～底部片で、内外面ともナデ調整である。SC14の埋土中層から出土した小片と遺構周辺の破片が接合した資料である。

(2) その他遺構

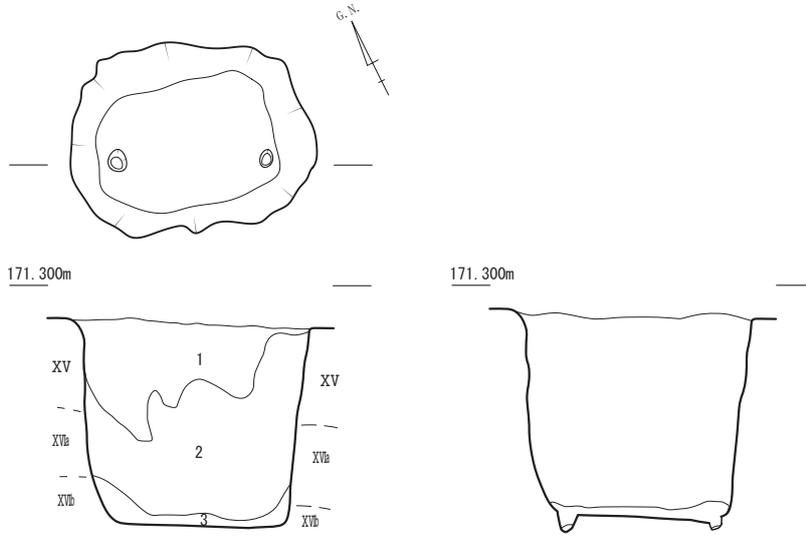
SZ2

周囲から礫や土器がやや多く出土していたことで検出した。検出面はⅥa層である。サブトレンチを入れて確認したが、遺構の痕跡は認められず、遺物出土状況とした。23は口縁～胴部片で丁寧なミガキを施す。口縁部は短く外反し、肩部が張る、浅鉢型土器である。24は口縁部片で、ナデ調整を施す。外面に3mmの球形付着物が残る。25は頸～胴部片で内外面とも横～斜め方向のナデ調整を施す。外面にはススが少量付着する。26は胴部片で内外面とも横～斜め方向のナデ調整を施す。



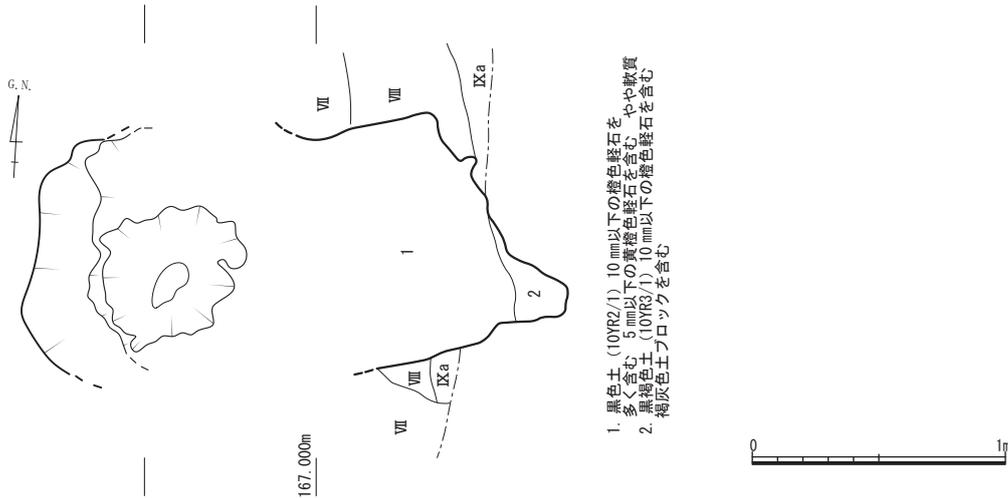
第 11 図 縄文時代中～晩期遺構配置図 (S=1/600)

SC12



1. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR5/4) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む しまり弱い ブロック状
2. 黒色シルト質土 (10YR2/1) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む しまり弱い
3. 黄褐色シルト質土 (2.5Y5/3) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い

SC13



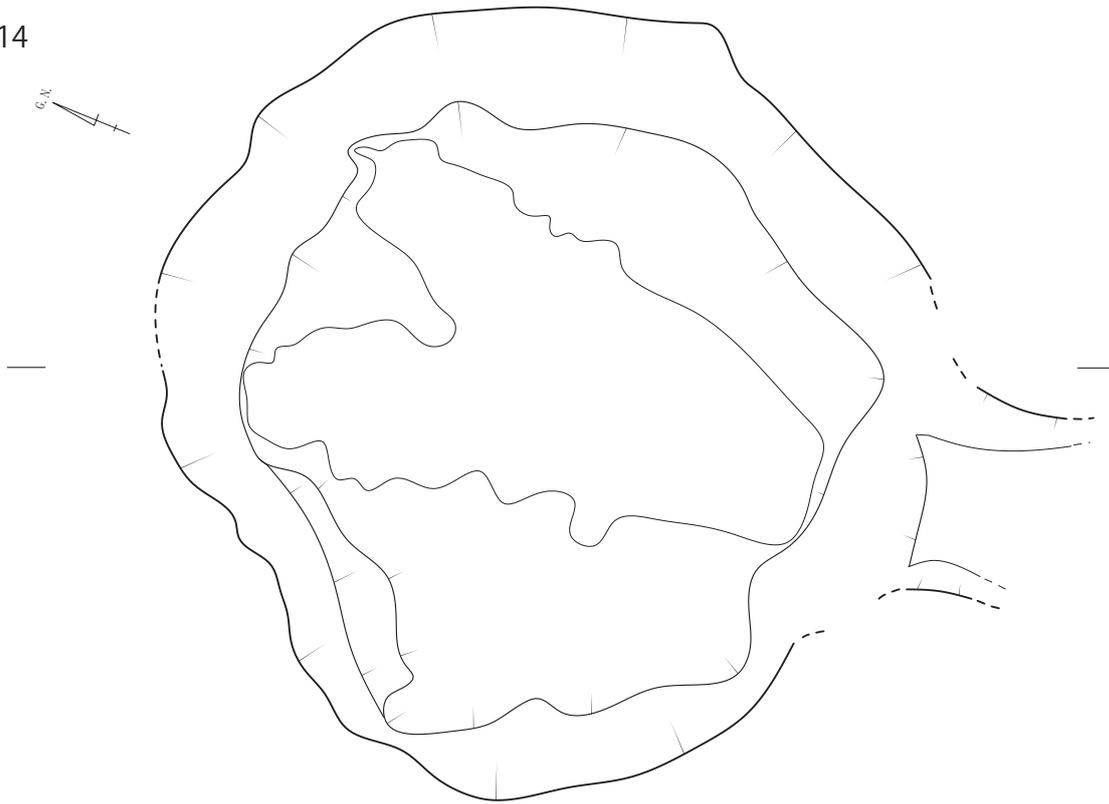
1. 黒色土 (10YR2/1) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む 5 mm以下の黄橙色軽石を含む
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 10 mm以下の黄橙色軽石を含む 縄灰色土ブロックを含む

第 12 図 縄文時代中～晩期検出 SC 実測図① (S=1/30)

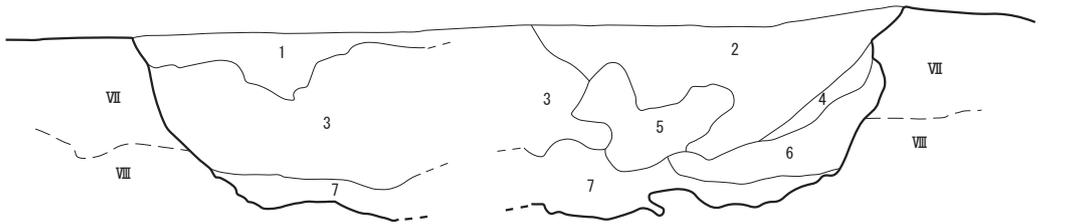
SZ3

Va層で 0.2m 以上の礫が数点出土したことで検出し、さらに精査したところ、礫がやや密集して出土した。周囲と土色が違う範囲でサブトレンチを設定し土層断面を確認したが、掘りこみ等は確認できなかった。周囲では礫、磨石等が出土し、いくつかは接合された。27 は胴～底部片で胴部が大きく開く。内外面とも斜め方向のナデを施す。内面がやや黒変する。底径は復元で 108mm である。28～30 は霧島山系花崗岩製の磨石である。31 はホルンフェルス製の磨石である。32・33 は砂岩製の磨石である。34～37 は SZ 3 内で出土した礫の接合資料で、やや弧状になる磨面を持つ。礫の表面はほとんどが焼けて剥離している。

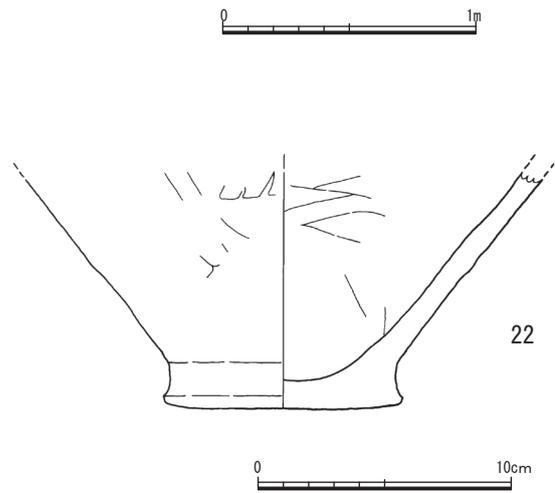
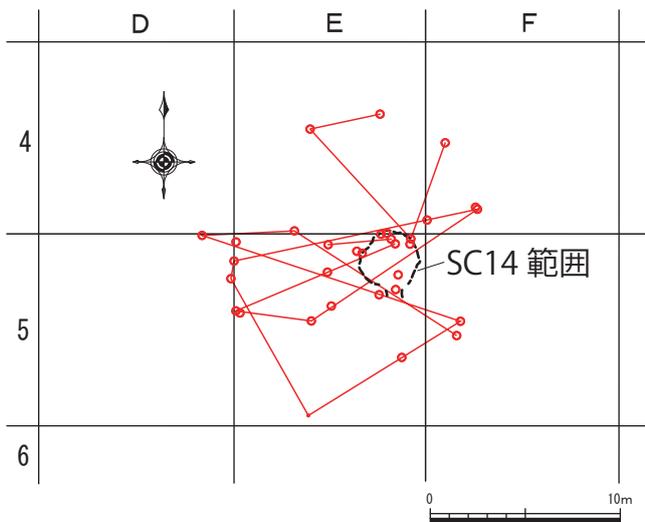
SC14



169.400m



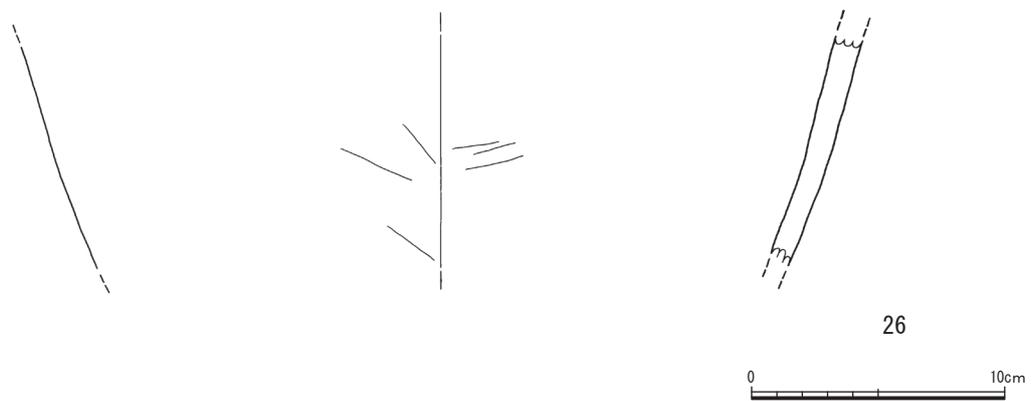
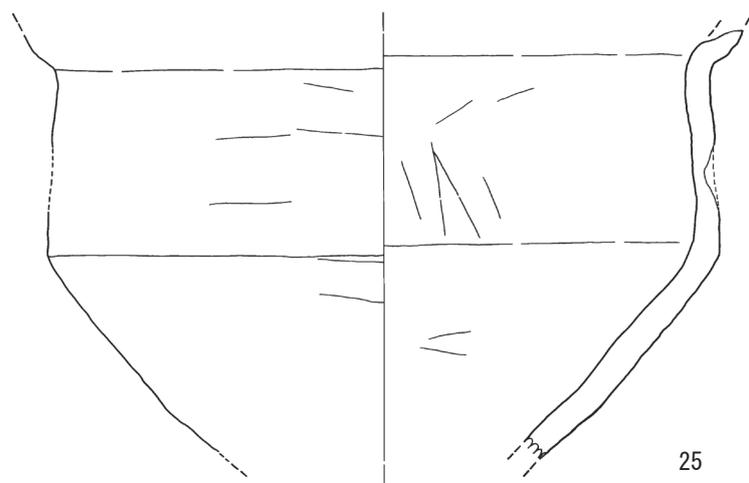
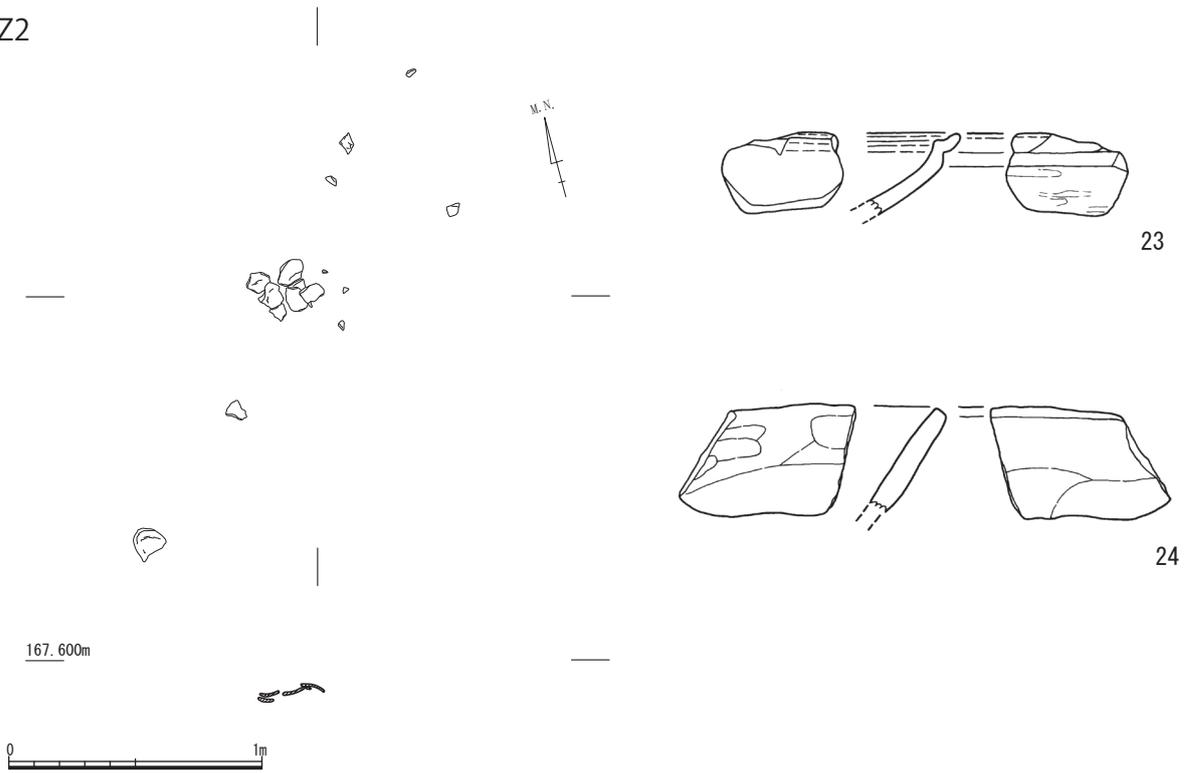
- 1. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR4/3) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い
- 2. 褐色シルト質土 (10YR4/4) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い
- 3. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い
- 4. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い
- 5. 褐色シルト質土 (10YR4/4) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまりあり
黄橙色・褐灰色土ブロックを含む
- 6. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む しまり弱い
- 7. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 5 mm以下の黄橙色軽石を含む
黄橙色・褐灰色土ブロックを含む



SC14 及び周辺出土遺物 接合状況

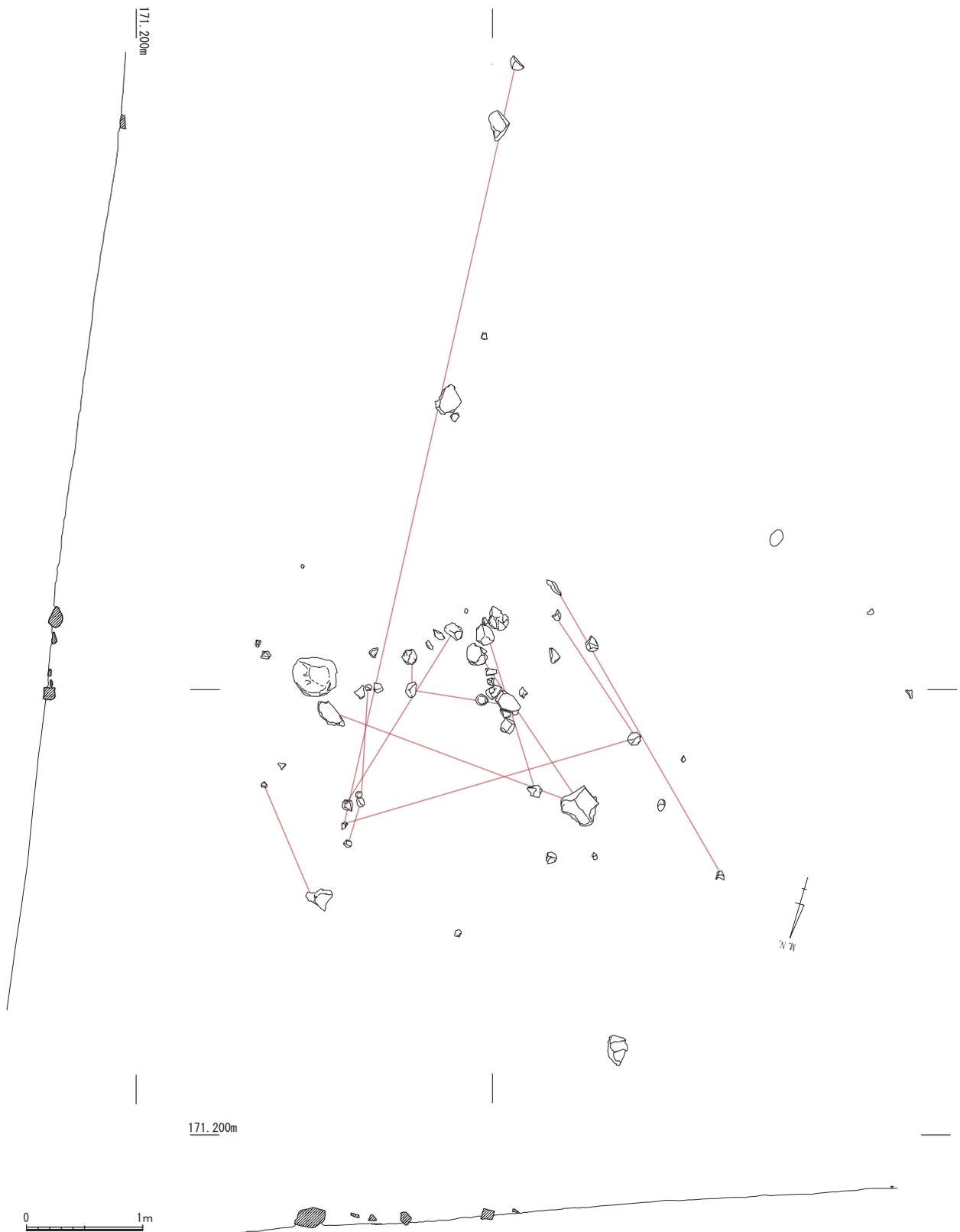
第 13 図 縄文時代中～晩期検出 SC 実測図②及び遺構内出土遺物実測図 (S=1/400、1/30、1/3)

SZ2

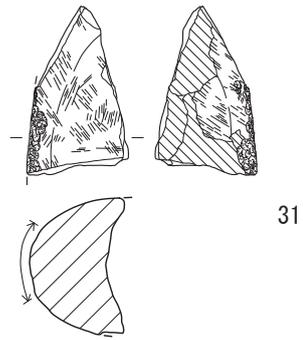
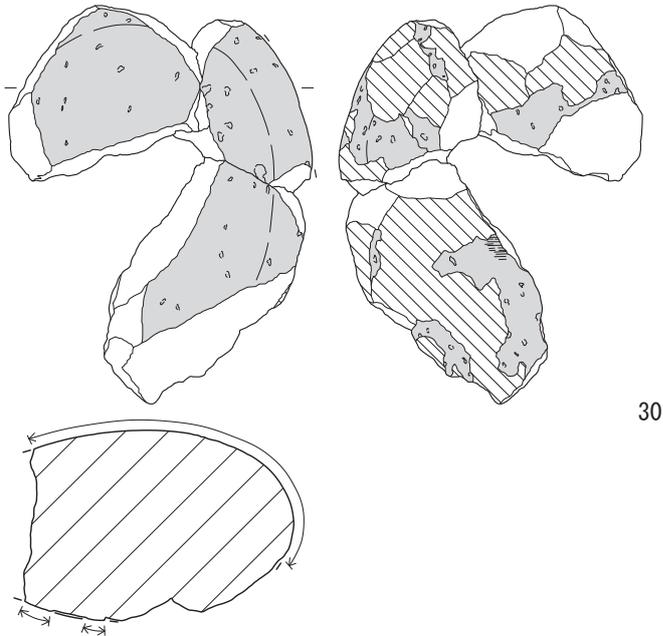
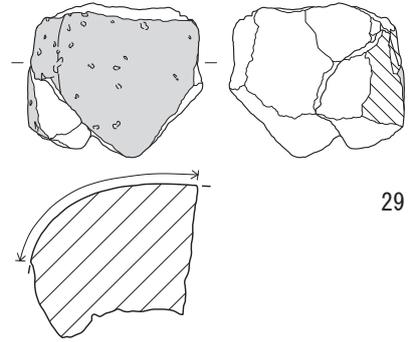
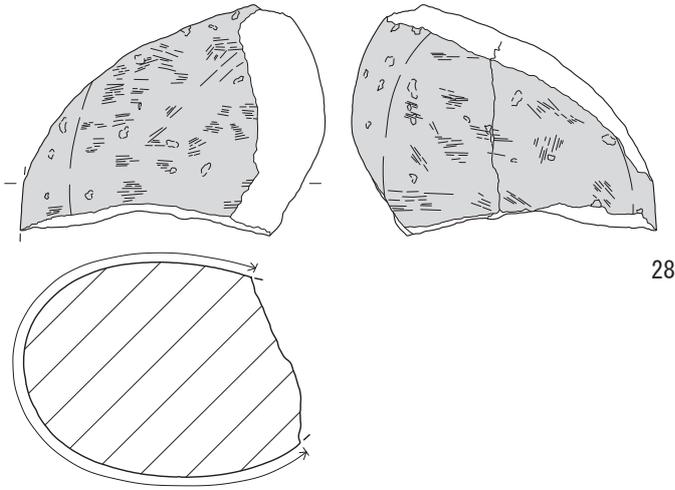
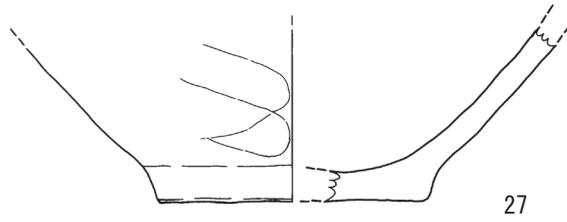


第 14 図 縄文時代中～晩期検出 SZ 実測図①及び遺構内出土遺物実測図 (S=1/30、1/3)

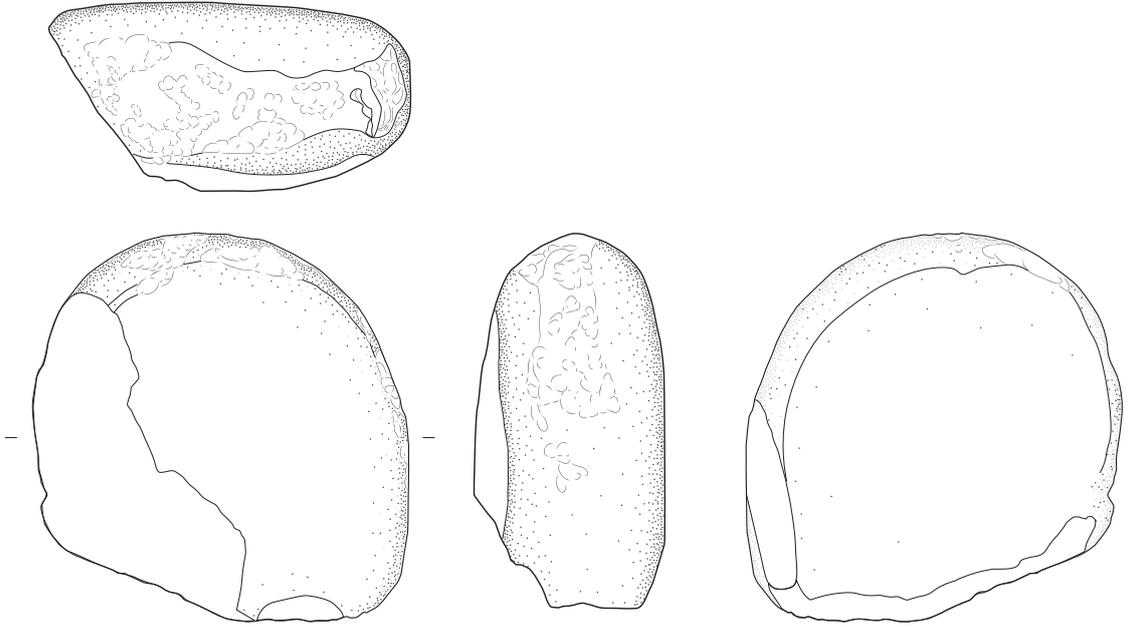
SZ3



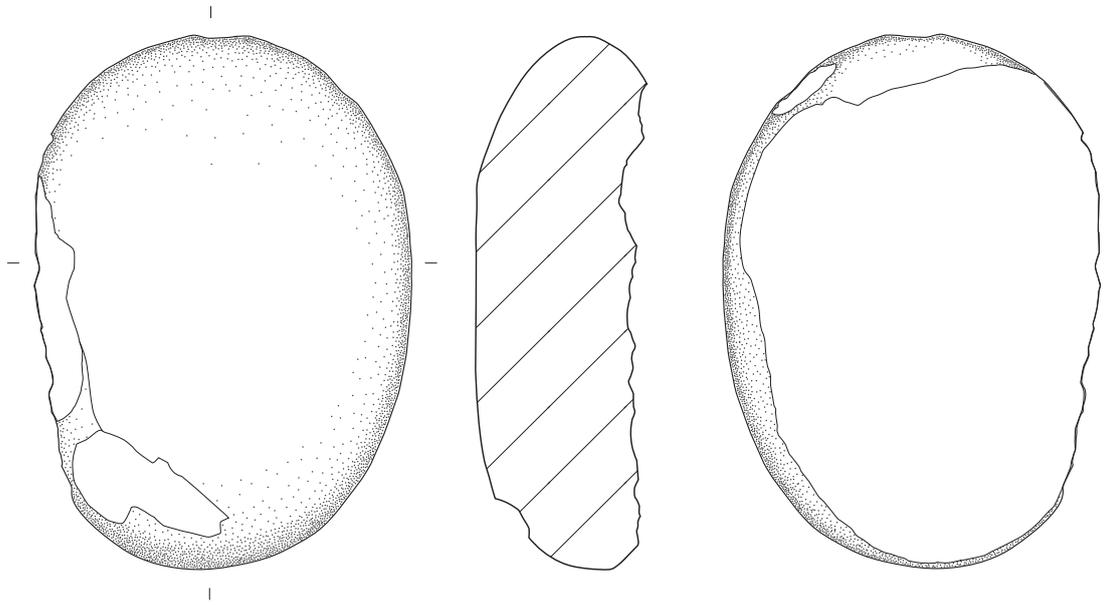
第 15 図 縄文時代中～晩期検出 SZ 実測図②及びび接合関係 (S=1/50)



第 16 图 SZ3 内出土遺物実測図① (S=1/2、1/3)



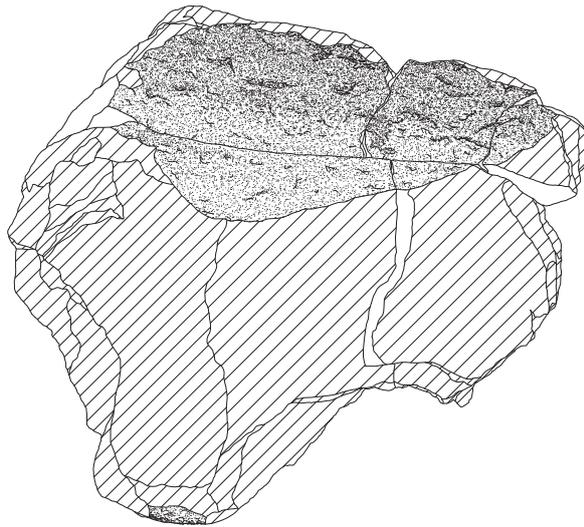
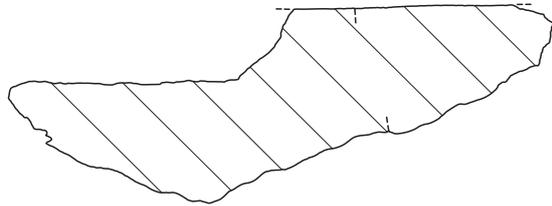
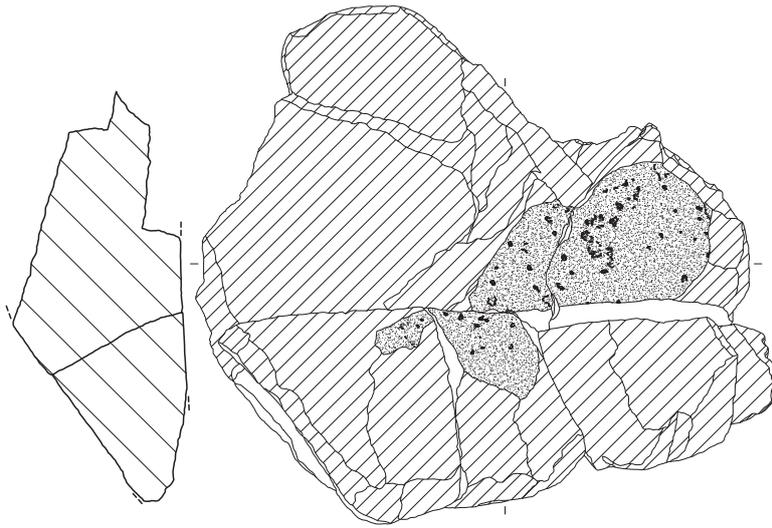
32



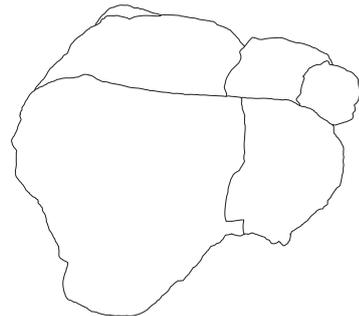
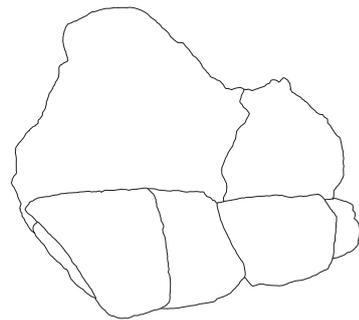
33



第17図 SZ3内出土遺物実測図②(S=1/2)

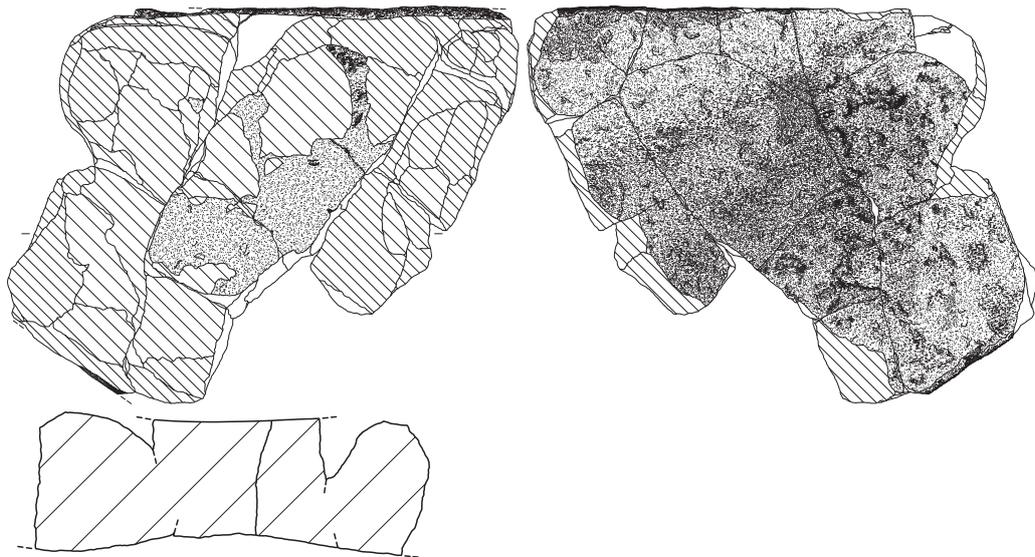


34

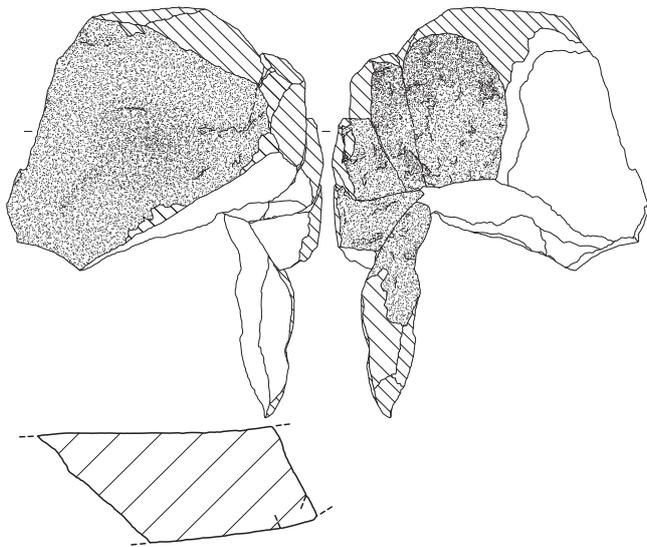
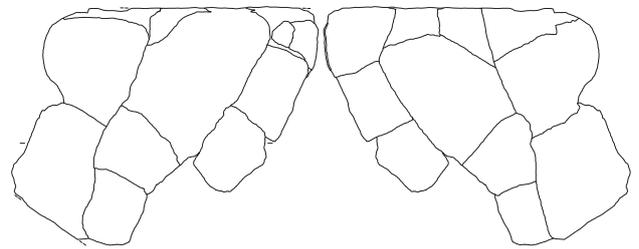


稜実測図 (1/6)
※接合状況は 1/10

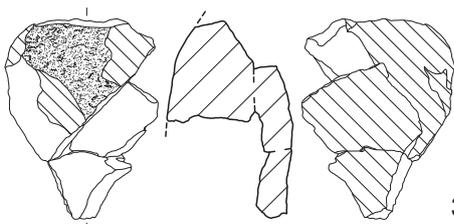
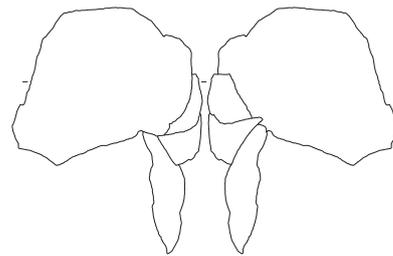
第 18 図 SZ3 内出土接合資料実測図① (S=1/6)



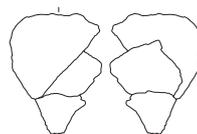
35



36



37



稜実測図 (1/6)
※接合状況は 1/10

第19図 SZ3内出土接合資料実測図② (S=1/6)

第4表 縄文時代中～晩期検出遺構内出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測No.				
				口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面	内面	石英	長石	白色鈹物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鈹物	赤色鈹物	軽石	砂粒	外面			内面			
22	深鉢	底部	SC14 D-5 E-4 E-5 F-4 F-5	93	96	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/3	1		1		1				2						ナデ	工具ナデ		25
23	深鉢	口縁～ 胴部	SZ2	31	—	—	灰褐 7.5YR 4/2	灰褐 7.5YR 5/2	3			2				1						1	ミガキ	ナデ		11
24	深鉢	口縁部	SZ2	41	—	—	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 4/3	2	1	1	3											ナデ	ナデ		15
25	深鉢	頸～底 部	SZ2	—	—	—	橙 7.5YR 7/6	にぶい黄橙 10YR 7/4	2		2						2						ナデ	ナデ	黒変あり、スス付着、 頸部径255mm	16
26	深鉢	胴部	SZ2 P-7	—	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/3	2		2	2					1						ナデ	ナデ	黒変あり	14
27	深鉢	底部	SZ3	68	108	—	にぶい黄橙 7.5YR 6/4	にぶい黄橙 10YR 6/3	3			3											ナデ	ナデ		22

第5表 縄文時代中～晩期検出遺構内出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測No.
28	SZ3	磨石	霧島山系花崗岩	(6.1)	(8.05)	(5.8)	(360.8)		委託 2-3
29	SZ3	磨石	霧島山系花崗岩	(4.1)	(4.6)	(4.5)	(102.0)	被熱痕	委託 2-9
30	SZ3	磨石	霧島山系花崗岩	(10.55)	(8.0)	(5.75)	(426.9)	被熱痕	委託 2-8
31	SZ3	磨石	ホルンフェルス	(4.5)	(2.65)	(3.65)	(44.6)	敲打痕あり	委託 2-10
32	SZ3	磨石	砂岩	(10.5)	(9.6)	5.0	(686.0)		石器 5
33	SZ3	磨石	砂岩	(14.1)	(10.0)	4.2	(878.0)		石器 6
34	SZ3	石皿		(45.95)	(41.25)	16.35	21300		接合 8
35	SZ3	石皿	砂岩	(31.6)	(40.35)	13.65	20100		接合 7
36	SZ3	石皿	砂岩	(32.55)	(25.0)	(10.25)	5200		接合 3
37	SZ3	石皿	砂岩	(16.0)	(12.1)	10.0	1200		接合 2

2 縄文時代中～晩期の遺物

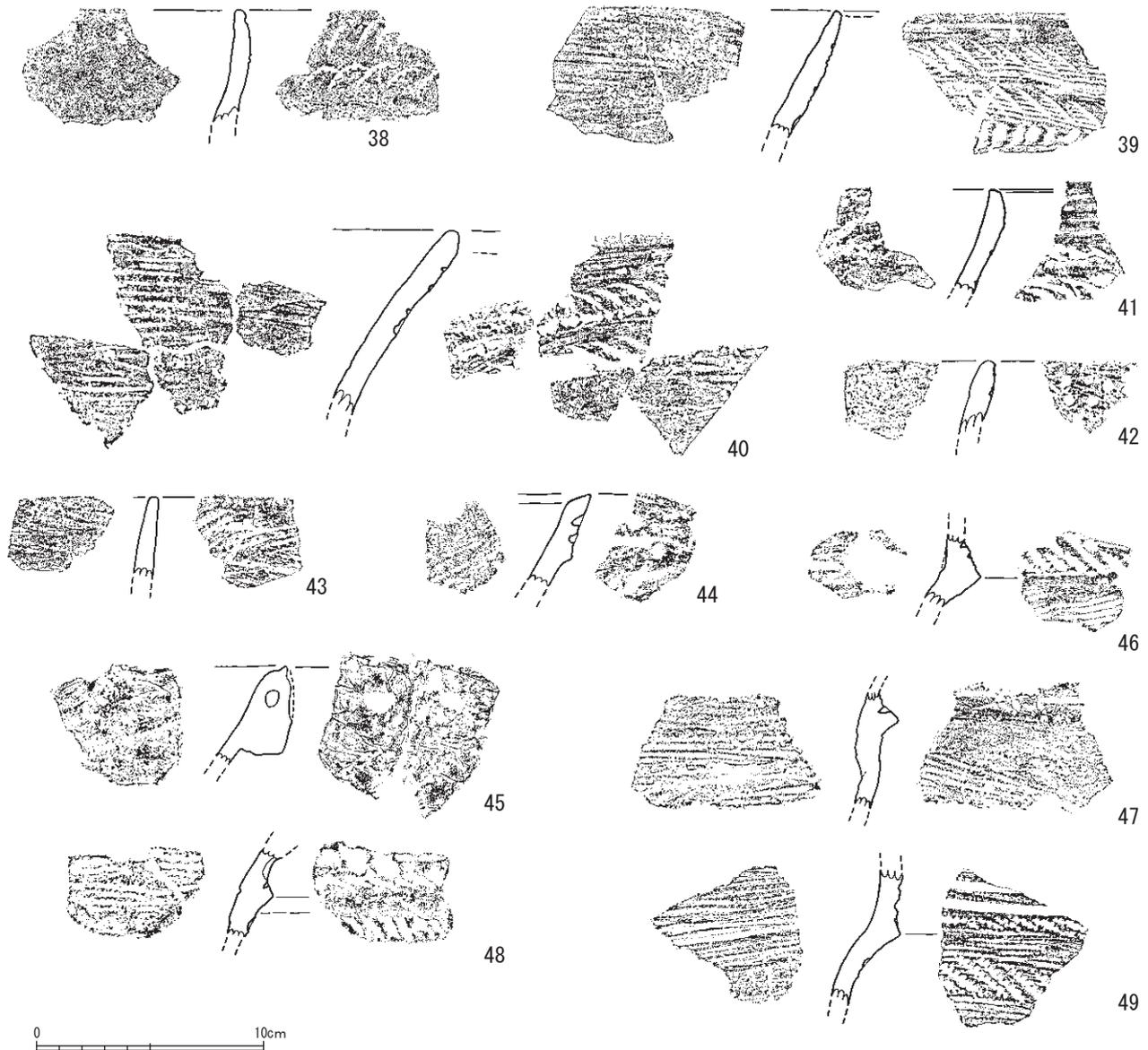
ここではIV～VI層で出土した遺物のうち、当該地域の縄文時代中期から晩期に相当する土器を報告する。

(1) 出土土器について

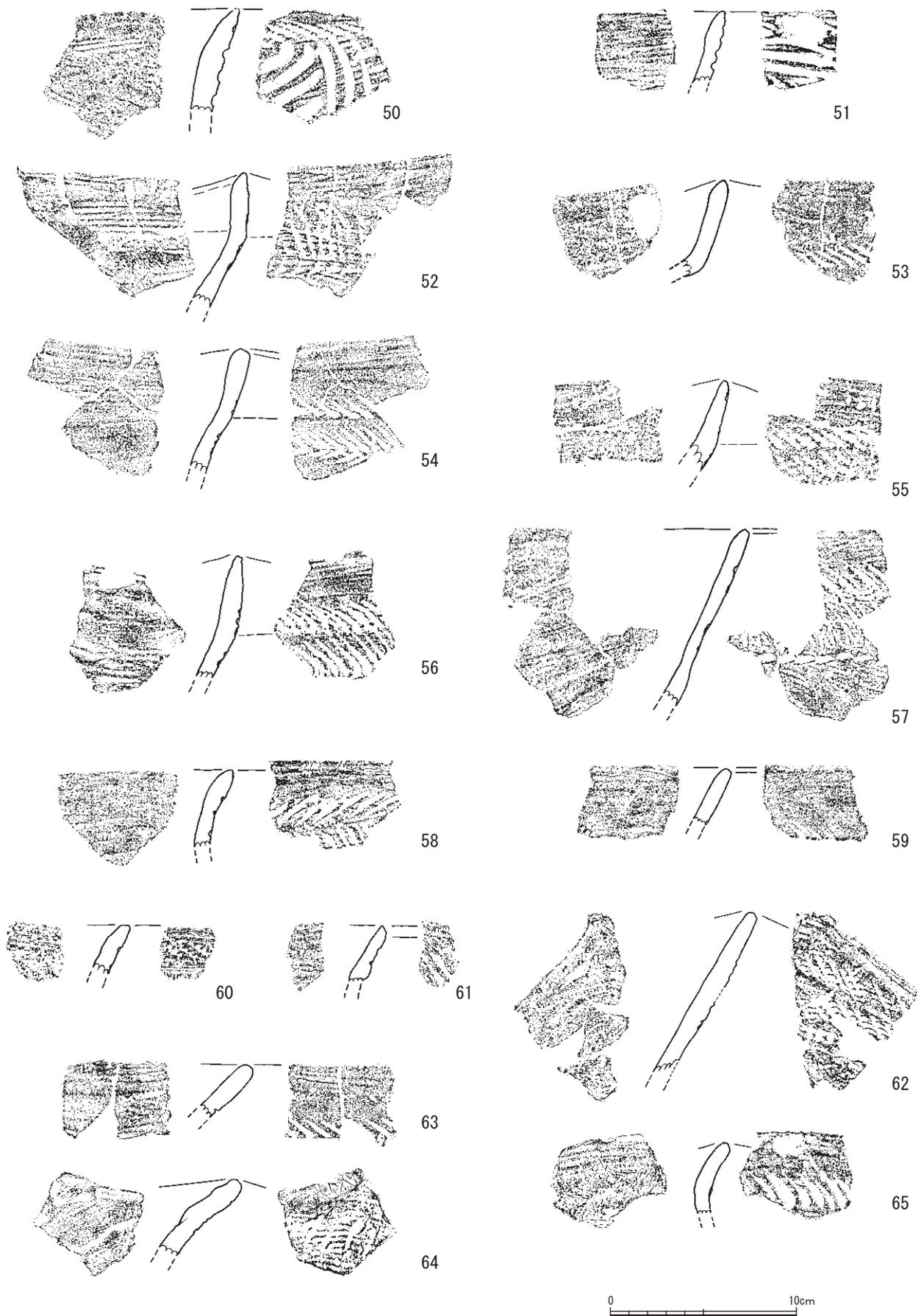
春日式土器 (38～41)

当該期の土器は数点のみ確認された。口縁部が内湾する一群である。

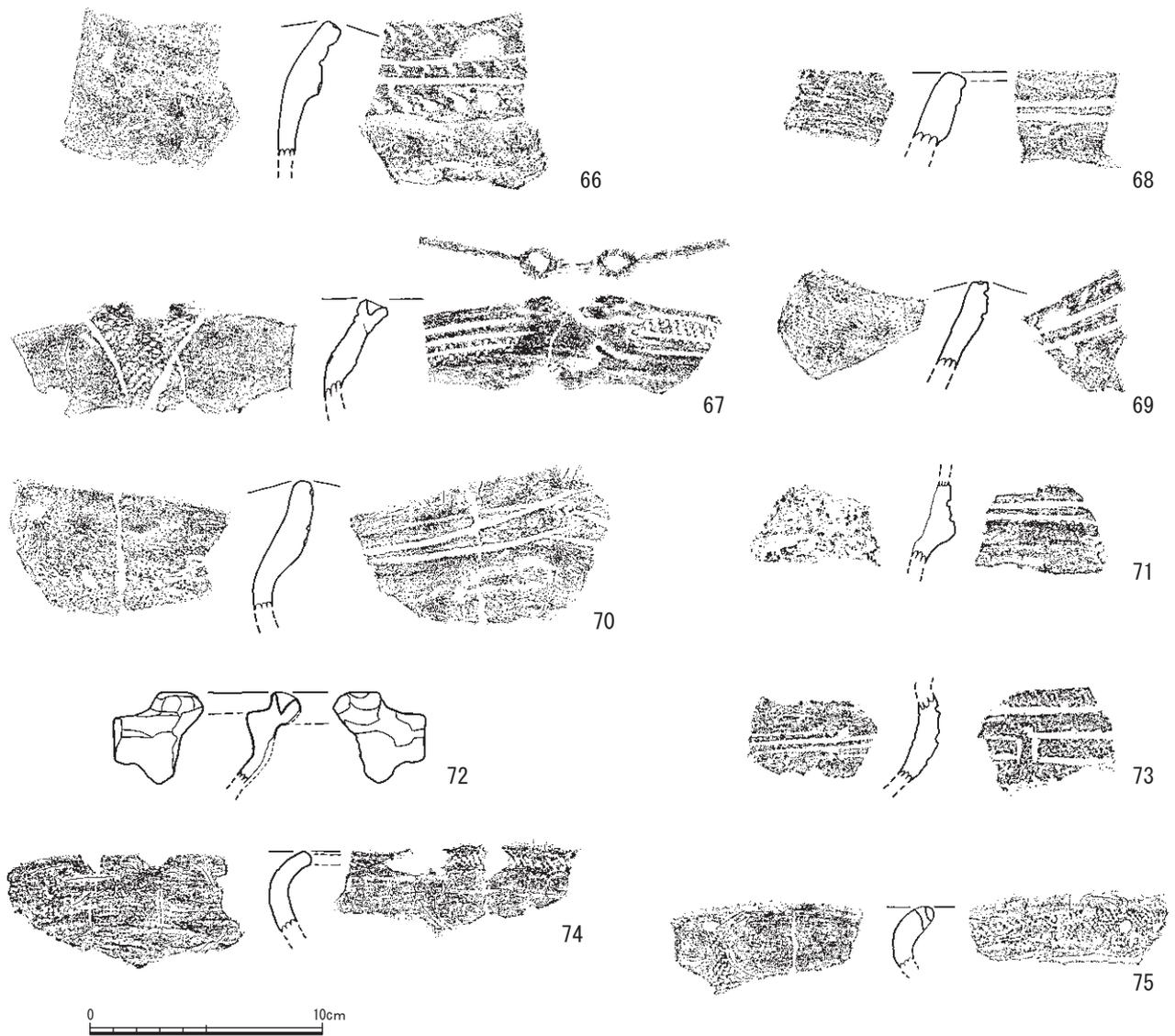
38は口縁部が内湾し、外面に貝殻による刺突を施す。表面はやや摩耗している。39は外面に2条の貝殻押引を施し、その下部に斜め方向から貝殻刺突を施す。内面は貝殻条痕である。口縁部上部付近が黒変している。40はナデ調整後に貝殻による刺突を行っている。内面は貝殻条痕を施す。41は外面に斜方向に貝殻腹縁刺突を施す。口縁部縁外面を横方向にナデを施し成形している。



第20図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第 21 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図② (S=1/3)



第 22 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

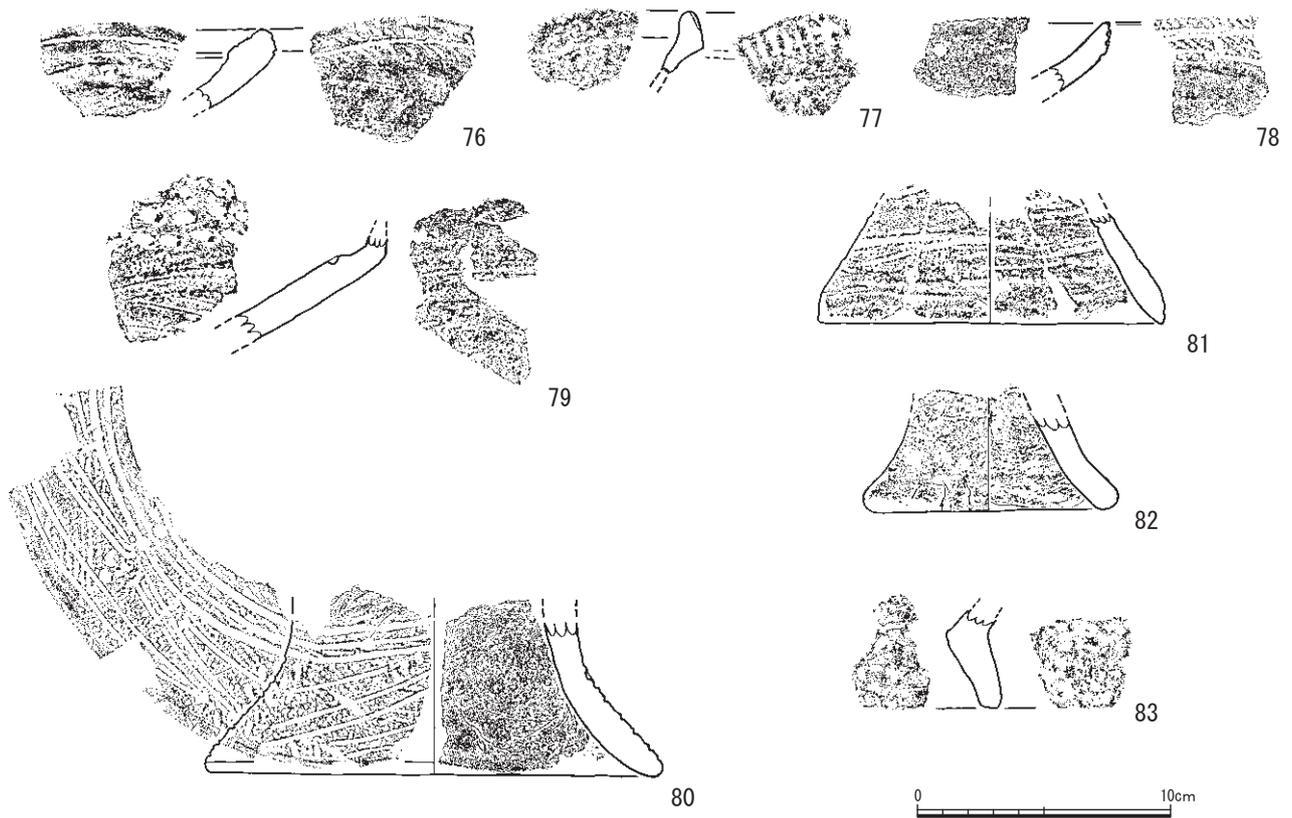
宮之迫式土器 (42)

42 は口縁部外面に竹管状工具で 2 条の刺突文を施す。内面はナデ調整である。小片だが宮之迫式土器に相当すると考えられる。

市来式土器 (43 ~ 50)

三角形状、くの字状に肥厚させた文様帯に、爪形文・沈線文 (凹線文)・貝殻文など単独もしくは組み合わせて施す一群である。

43 は肥厚帯を持たず、内外面とも細い条痕状のナデを施す。44 は口縁部片で、棒状工具ないし竹管状工具で上下に刺突を行っている。肥厚帯形はやや不明瞭であるが市来式系に分類した。45 は内外面ともナデ調整で、三角形の肥厚部に棒状工具での穿孔がある。46 は斜方向から貝殻刺突を施し、その上部に棒状工具で刺突を行う。肥厚帯頂点より下半は横方向に貝殻条痕を施す。内面はナデ調整である。47 は内外面とも器面には貝殻条痕を持ち、外面は肥厚帯上部に棒状工具により沈線と刺突を施す。48 は肥厚帯の上下に貝殻腹縁刺突を施し、その上部に刺突を行う。49 は内外面とも貝殻条痕を施し、くの字状の肥厚帯の上下に貝殻腹縁刺突を施す。上部の貝殻腹縁刺突の上部には横方向に断面三角形状ないし円形工具による沈線を施す。



第 23 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図④ (S=1/3)

丸尾式土器 (50～65)

口縁部がくの字に屈曲し頸部が外反するものもしくは口縁部が外反するもので、口縁部下に貝殻刺突文や多重細沈線を施す一群である。

50 は口縁が外反し、外面口縁部端部に貝殻刺突、その下に斜め及び縦方向の沈線を持つ。貝殻条痕内面は端部付近が貝殻条痕で、その下部はナデ調整を施す。51 は口縁部片で外面端部に貝殻腹縁刺突を施し、その下に沈線を施す。内面は横方向の貝殻条痕である。52 は口縁部がくの字に屈曲した波状口縁で、貝殻刺突を3条施す。53 は口縁部片でくの字に屈曲し、外面に刺突を持つ。54 は緩くくの字状に屈曲した口縁部で、斜め方向の刺突と波状刺突を施す。55 は口縁端部とくの字状屈曲部に貝殻腹縁刺突を持つ。内面は下部が黒変している。56 は波状口縁で、くの字状に屈曲した上下に貝殻腹縁刺突文を施す。57 は緩くくの字状に屈曲した口縁部で、端部はナデ調整、その他器面全体は貝殻条痕後ナデを施す。外面屈曲部はその上から4種の貝殻刺突文を施す。58 は口縁部が外反し、外面に波状の貝殻刺突文を施す。59 は外面に刺突文を持つ。60 は口縁部が外反し、端部に貝殻刺突、その下には横方向の沈線を持つ。61 は外反する口縁部に刺突文を持つ。62 は波状口縁で、内外面ともナデ調整である。外面は貝殻による刺突と押引を施す。口縁端部は内外面とも黒変し、外面縁にはススが付着する。63 は刺突文を持ち、外面は丁寧にナデ調整を施す。64 は波状口縁の山部で、貝殻条痕で器面調整後、貝殻腹縁刺突を施す。内面はナデ調整で、やや粗雑である。65 は外面はナデ調整後刺突を施す。胎土に角閃石を少量含んでいる。

磨消縄文系土器 (66～75)

66 は波状口縁で、口縁部下部が三角形に肥厚する。肥厚部と口縁端部付近は刺突が巡り、上部の刺突は沈線に上下を持つ。内面はナデ調整である。67 はやや肥厚させた口縁部文様帯に縄文施文後に3条の沈線を施す。内面も逆三角形に沈線と縄文を施す。68 は口縁部をやや肥厚させ、口縁端部に2条の沈線を

施す。69 は波状口縁を呈し、口縁外面端部に 2 条の沈線を施す。70 は波状口縁で口縁部を肥厚させている。肥厚部に 2 条の沈線を持つ。外面にススが付着する。71 は口縁部付近の破片で、内面は剥離しているが断面が三角形状を呈する。2 条沈線を巡らせる。72 は口縁部が逆くの字状を呈する。73 は胴部片で球形状の器形に沈線に囲まれた磨消縄文を持つ。内面には条痕を持つ。胎土に微量の金雲母を含む。74 は口縁外面の端部と頸部下部に縄文を施す。内面は横方向に丁寧なナデを施す。胎土に金雲母を含む。75 は口縁部外面端部に縄文を持つ。直径 3 mm の穿孔を持ち、内面の穿孔部分はやや肥厚させ、縦方向に縄文を施す。内面は丁寧なナデで、胎土に金雲母を含む。

台付皿形土器 (76 ~ 84)

台付皿形の土器をここで報告する。

76 は口唇部付近に 1 条の沈線の上下に刺突を持つ。内面はやや肥厚させ、2 条の沈線を持ち、肥厚部の下端部に刺突を施す。77 は外面端部を三角形状に肥厚させ、そこに縦方向の刺突を施す。内外面とも摩耗しているが、内面には粘土の継ぎ目が見える。78 は口縁外面端部に 2 条の沈線とその間に磨消縄文を持つ。口唇部にも縄文を施す。内外面とも丁寧なナデで、内面には赤色顔料が微量残存する。79 は外面はナデ調整で、内面に 2 列の刺突を斜方向から施す。80 は脚部で、縄文施文後に沈線を施し、随所に棒状工具や竹管状工具で刺突を施す。底径は 180mm を測る。81 は脚部で、外面に斜方向に沈線を持つ。底径は 135mm を測る。82 は脚部片で、底径 100mm を測る。調整はナデである。底面と内面に白色物質が付着する。83 は脚部片で、底面を平らに成形する。

精製浅鉢 (84 ~ 104)

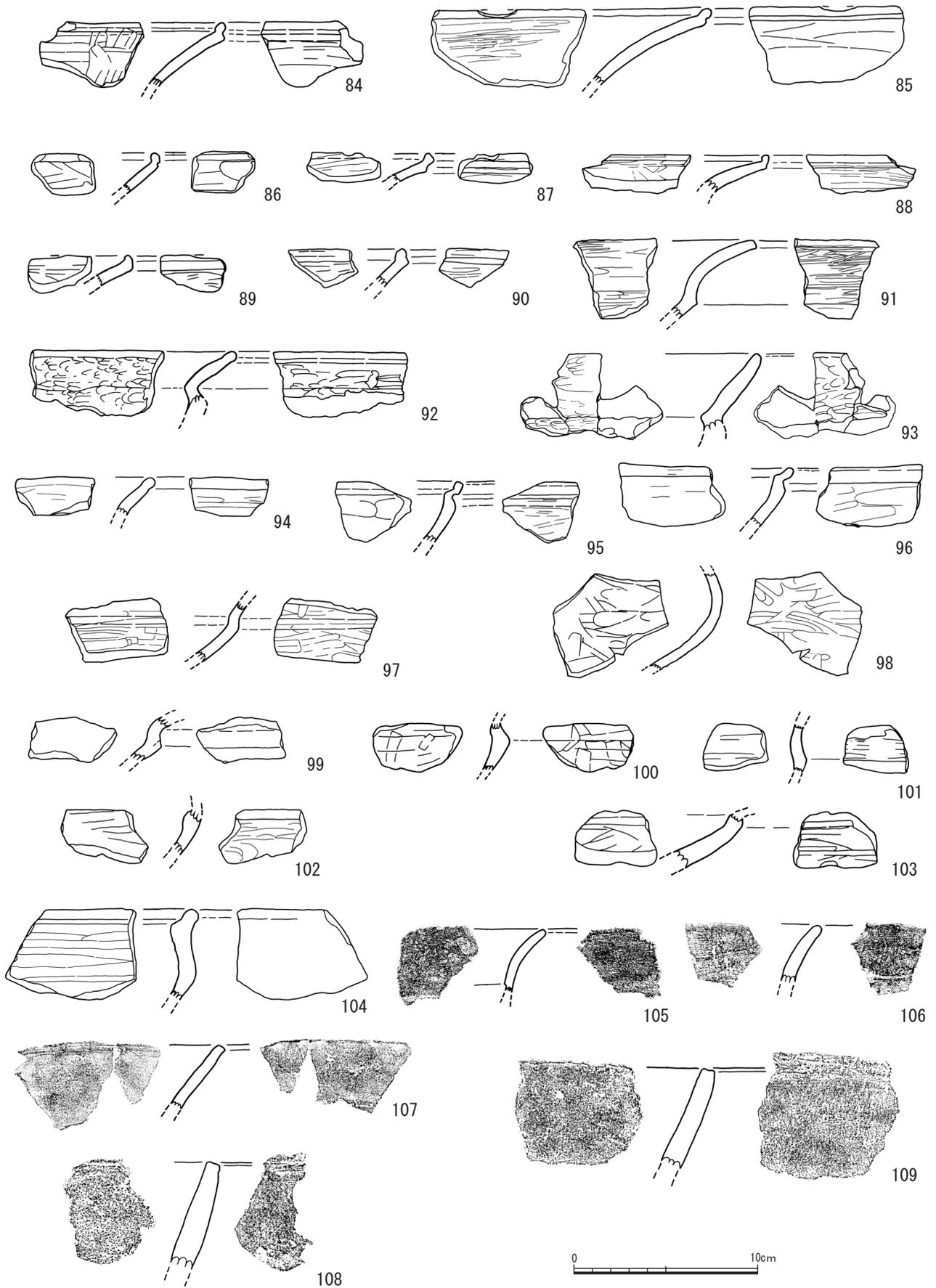
浅鉢のうち、最終調整がミガキのものや器壁の薄いものとして分類した。

84 は口縁部が大きく外反し、口唇部が立ち上がる。内外面ともにミガキで、にぶい赤褐色を呈する。85 は口縁部が大きく外反し、口唇部が立ち上がる。摩耗しているが、内外面はミガキ調整である。86 は口唇部が立ち上がる個体で、口縁部にやや丸みを持つ。87 は口縁部が外反し、くの字状に屈曲する。口唇部は立ち上がる。内外面調整はミガキである。E-4 グリッドで出土した。88 は口縁部が外反し、口唇部は明瞭に屈曲し立ち上がる。立ち上がる口唇部の外面に沈線を持つ。D-4 グリッドで出土した。89 は口縁部片で、口唇部が立ち上がり外面に薄い沈線を持つ。口唇部は膨らまない。90 は口縁部が外反し、口唇部が立ち上がる。内外面に陵を持ち、玉縁状である。91 は胴部がくの字状に屈曲し、口縁部が大きく外反する。胎土に赤色鉱石を含む。92 は口縁部が大きく外反する。口縁端部の内外面に薄い沈線を持つ。胴部に向けて丸く膨らむ様相を呈する。93 は外反する口縁部を持ち胴部が短く屈曲する。94 は口縁部片で、端部内外面に薄い沈線を持ち、玉縁状である。95 は短い口縁部で、内面に沈線を持つ。丸みを帯びた胴部を持つ。96 は短い口縁部で外面をやや平らに調整する。内外面ともにミガキである。97 は胴部片で、胴部がそろばん玉状に屈曲し、口縁部へ向けて外反する様相を呈する。外面頸部付近に少量のススが付着する。98 は胴部片が球体状を呈する破片である。99 ~ 101 はそろばん玉状の胴部である。102 は胴部片で、屈曲部の内面が肥厚する。103 は胴部の最大径下部付近で、屈曲部が内面にやや肥厚している。104 ~ 109 はやや様相の異なる一群である。104 は頸部が短く外反し、頸部が逆くの字に屈曲する。外面は摩耗しているが、内面調整はミガキである。105・106 は口縁部が外反する。内外面ともナデを施す。107 は口縁部が外反し、内外面ともナデ調整である。108 は直立する口縁部を持ち、口唇部を平らに調整する。内外面ともナデ調整を行う。109 は直立する口縁部を持ち、口唇部を平らに調整する。内外面ともナデ調整を行う。

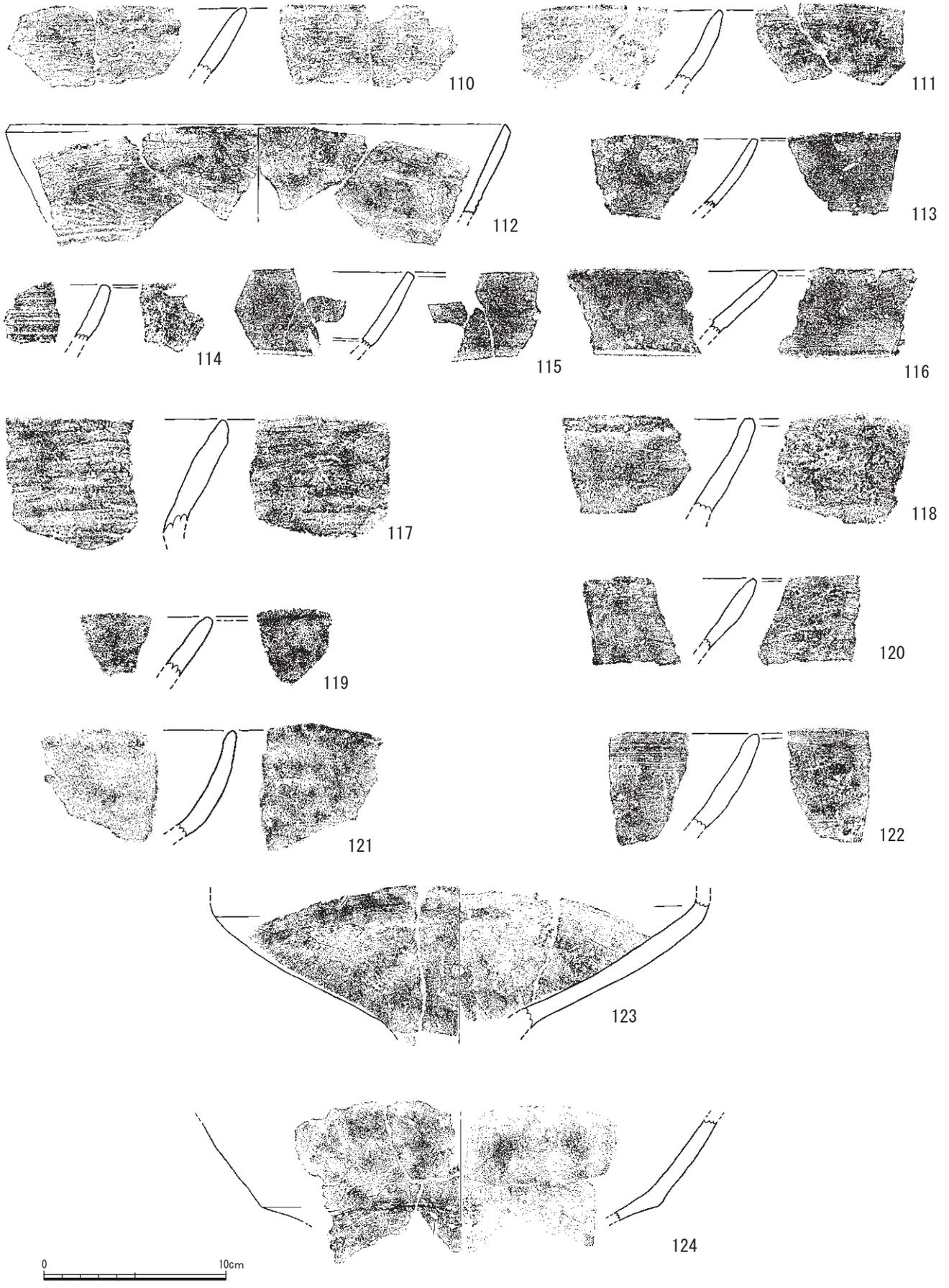
粗製浅鉢 (110 ~ 124)

浅鉢のうち、最終調整がナデのものや器壁が厚いものとした。

110 は口縁部が外傾する。外面の口縁部端部に少量のススが付着する。胎土に赤色鉱物を含む。111 は口



第 24 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)



第 25 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図© (S=1/3)

縁部がボール状に丸みを帯びている。内外面ともナデ調整である。112は口縁部が外傾する。内面は丁寧にナデを施す。113は口縁部がボール状を呈する。内外面とも丁寧なナデ調整である。114は口縁部がボール状を呈する。内外面はナデ調整で、内面は工具痕が残る。115・116は2縁部が外傾する。内面に沈線を持つ。117は内外面とも指頭によるナデ調整を施す。外面には少量のススが前面に付着する。118はやや外傾する口縁部片である。外面端部付近が黒変する。119～122は浅黄橙～橙色を呈する、ボール状の口縁部片である。123は浅鉢の胴部下半～底部付近で、内外面ともナデ調整を施す。胴部の最大径付近に少量のススが付着する。124は浅鉢の胴部付近で、外面は明瞭な陵を持ち屈曲する。器面は丁寧にナデ調整を行う。

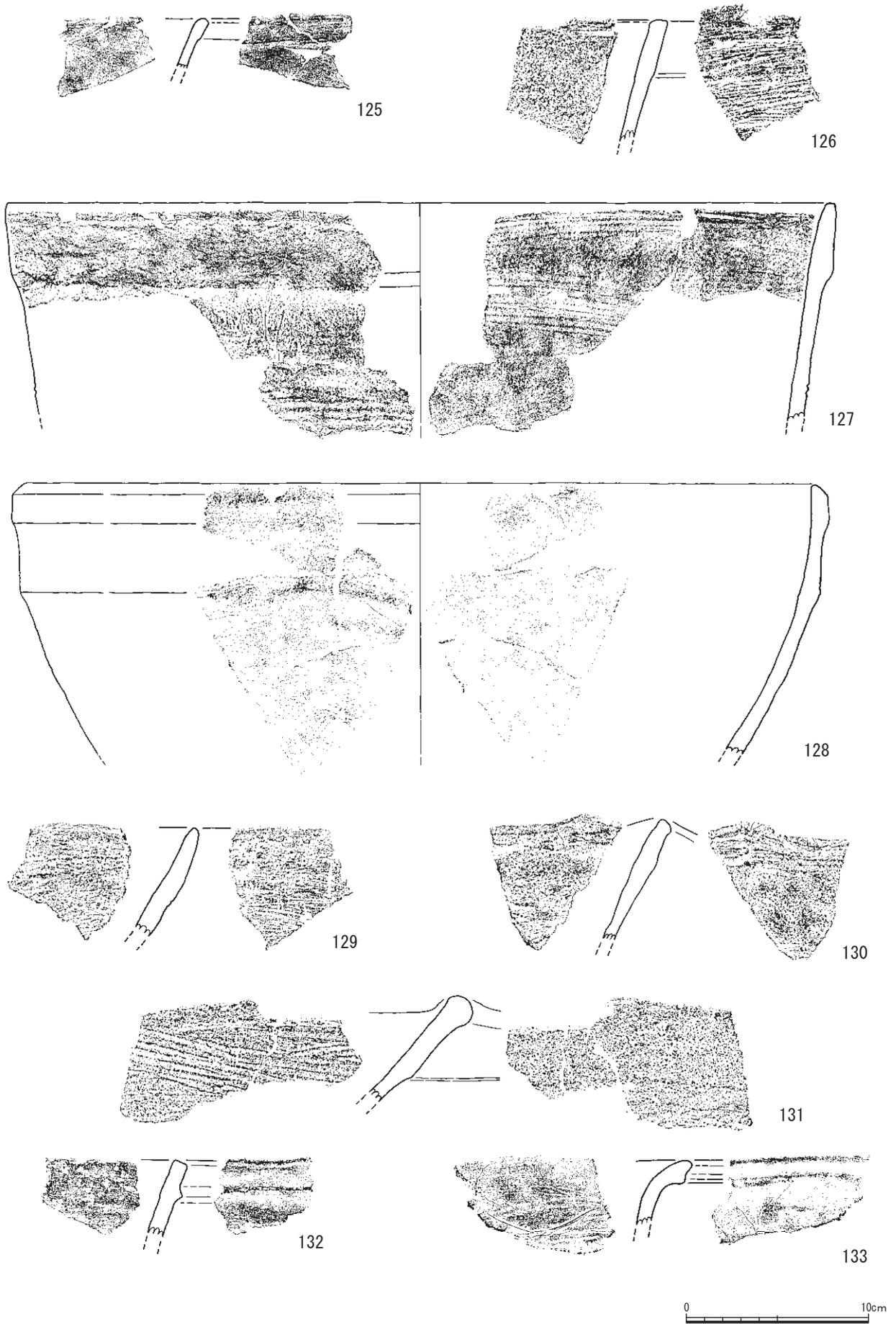
深鉢（125～150）

縄文時代晩期の深鉢のうち、125～133が肥厚する口縁部を持つもの、133～142が口縁部が肥厚しないもの、143～150が深鉢の胴部である。

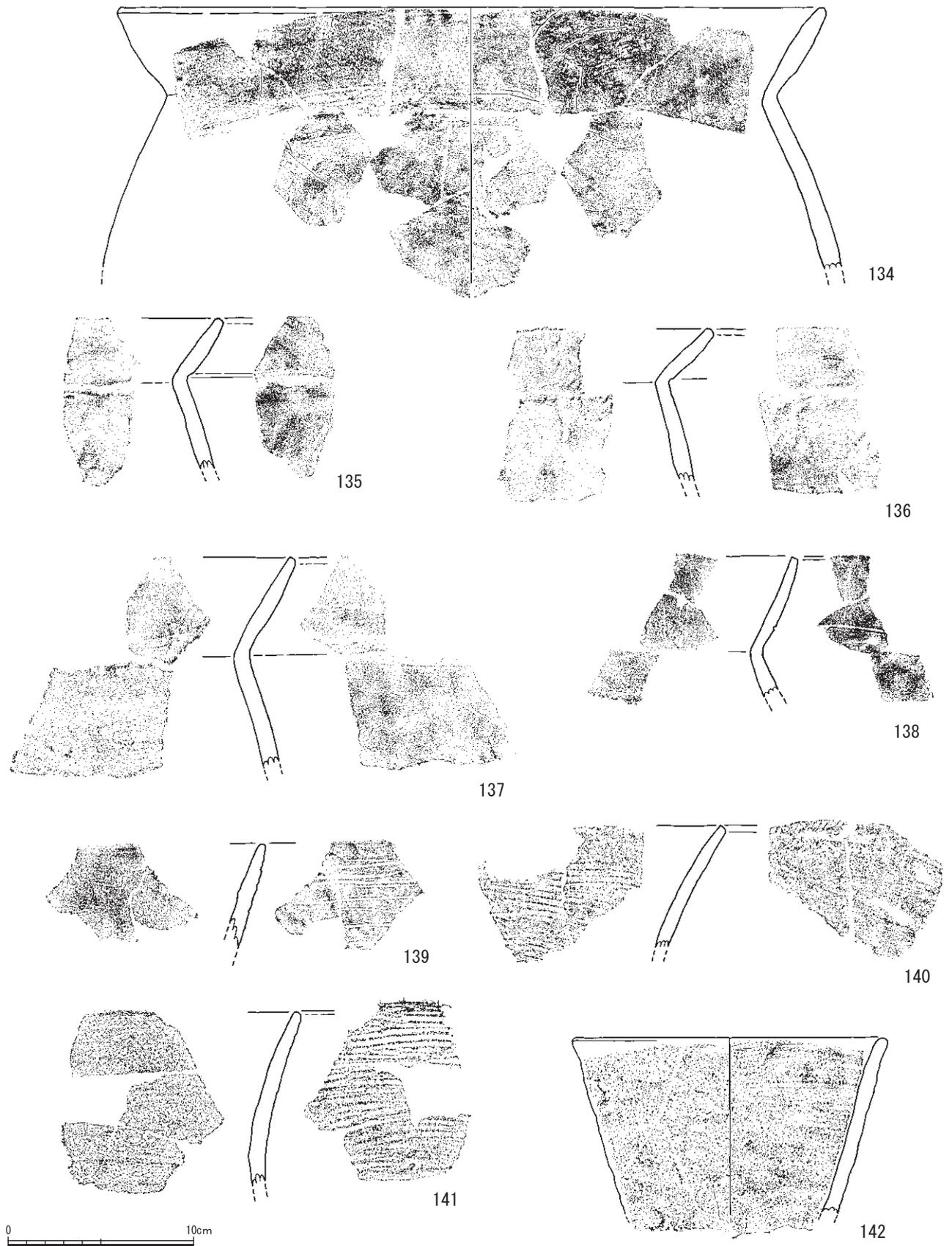
125は口縁部縁が肥厚する。内面は丁寧にナデである。外面端部が黒変する。126は口縁部が肥厚し、端部に板状の突起が付帯する。内外面はナデ調整である。内面全体には微量のススが付着している。127は口縁部が肥厚し、ほぼ直立する。内外面ともにナデ調整である。口径は復元で444mmを測る。内面の下半付近に微量のススが付着する。128は直立した口縁部が肥厚し、胴部にかけてはボール状を呈する。口径は復元で442mmを測る。内外面とも黒変が見られ、外面口縁端部には薄くススが付着する。129は外面が僅かに肥厚し、口縁端部に鱗状の突起を持つ。口縁部端部付近にススが付着する。130は外面が僅かに肥厚し、口縁端部に鱗状の突起を持つ。外面全面にススが付着する。131は口縁部が肥厚する。口縁部に鱗状の突起を持つ。内面には工具によるナデ調整の痕跡がある。132は口縁部は直立し、端部に断面三角形型の突帯を持つ。133は口縁部が外反し、端部に断面三角形型を呈する突帯を持つ。突帯下部に微量のススが付着する。穿孔を持つ。134は頸部からくの字状に屈曲し、口縁部が肥厚する。内外面ともにナデ調整で、屈曲した頸部から上部が黒変する。内外面ともナデ調整である。口径は復元で、378mmを測る。135は頸部がくの字状に屈曲し、口縁部が肥厚する。口縁部付近に微量のススが付着する。調整はナデである。136は口縁部が僅かに肥厚し、内面口縁部付近は丁寧にナデを施す。内外面とも頸部より上は黒変し、外面にはススが微かに付着する。137は口縁部が僅かに肥厚する。頸部からくの字状に屈曲するが、屈曲がやや丸みを帯びる。胴部に少量のススが付着する。138は頸部がくの字状に屈曲し、口縁部が僅かに内湾する。頸部外面上に沈線を持つ。139は口縁部片で、外傾する口縁部の外面に横方向に沈線を持つ。140は外反する口縁部で、内面に条痕を施し、上部はナデ調整を行う。口唇部に縄文を施文する。141は外傾する口縁部を持ち、口縁部端部は外面は条痕、内面は丁寧にナデを施す。下部は内外面とも黒変する。142は外傾する口縁部片である。内外面ともススが微量付着する。口径は復元で168mmである。143は胴部片で、くの字状に屈曲する。内外面ともに微量のススが付着する。144はくの字状に屈曲する胴部片で、外面にススが付着する。内外面ともナデ調整で、内面には指オサエの痕跡が残る。胎土に角閃石を含む。145はくの字状に屈曲し、内面はやや丸みを持つ。工具によるナデを内外面に施す。146は胴部片で、頸部付近と胴部最大径部が緩く屈曲する。内外面に微量ススが付着する。147は胴～底部付近と見られる。胴部最大径241mmを測り、最大径部より下部にはススが付着する。148は胴部下半付近の破片で、内外面ともナデ調整を施す。149は胴部片で、全面に条痕を持つ。内面上部に微量のススが付着する。150は胴部片で外面を肥厚させ段を作りだす。内外面とも丁寧にナデを施す。

孔列文を持つ一群（151～154）

151は若干内湾する口縁部がやや肥厚し、その下部が屈曲する。調整はナデ調整である。152はやや肥厚し外傾する口縁部で、外面には条痕を持つ。153はやや肥厚し外傾する口縁部である。外面は指で調整している。また外面には少量のススが付着する。154は口縁～胴部片で、内外面とも横方向にナデ調整を施す。貫通しない孔列を持つ。



第 26 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図㉗ (S=1/3)

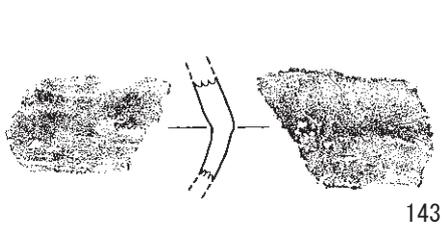


第 27 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)

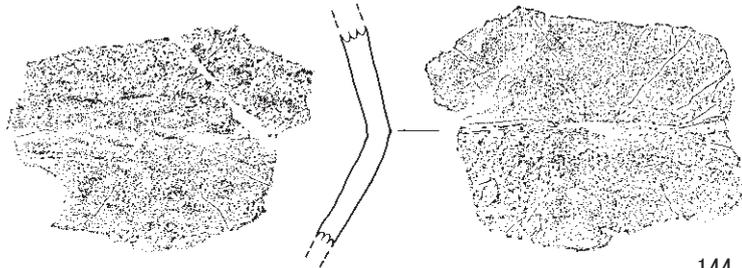
縄文晩期土器の底部 (155 ~ 160)

155 ~ 160 は縄文晩期に相当する土器の底部である。

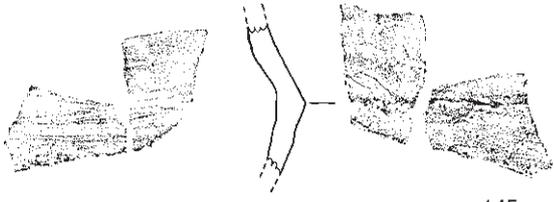
155 は底部片で、内外面とも丁寧なナデ調整を行う。156 は底径は 98mm を測り、ナデで調整を行う。外部



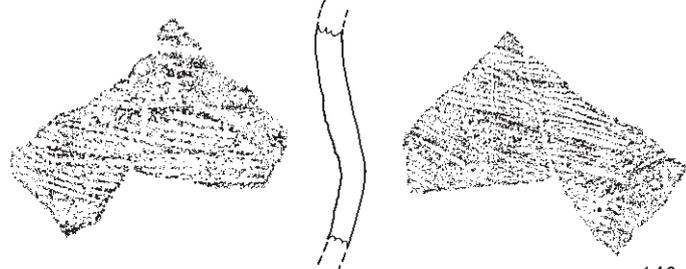
143



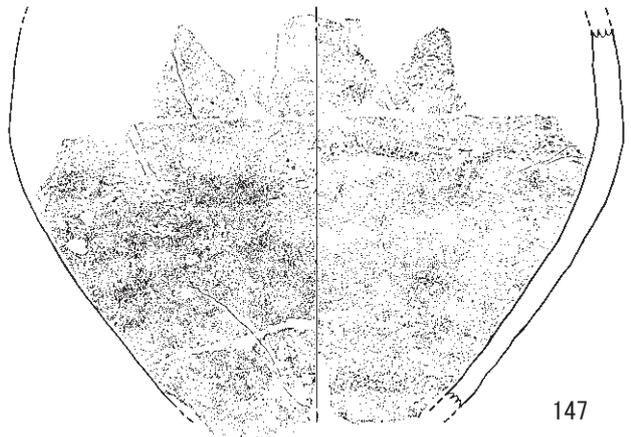
144



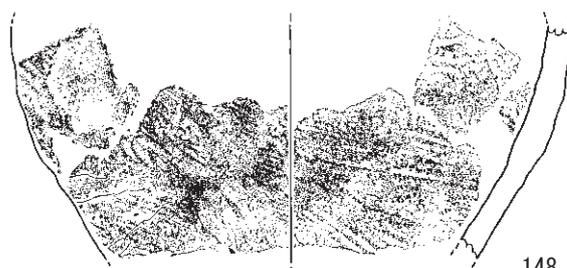
145



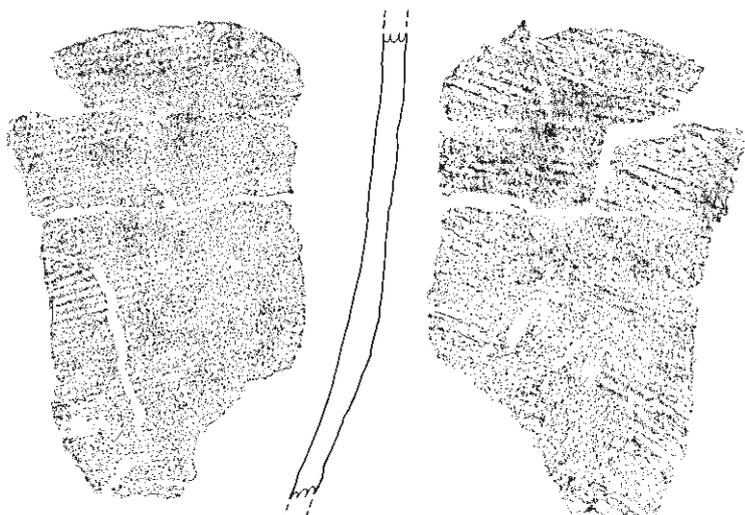
146



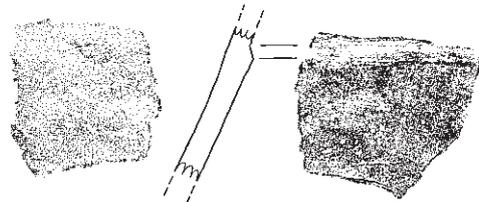
147



148



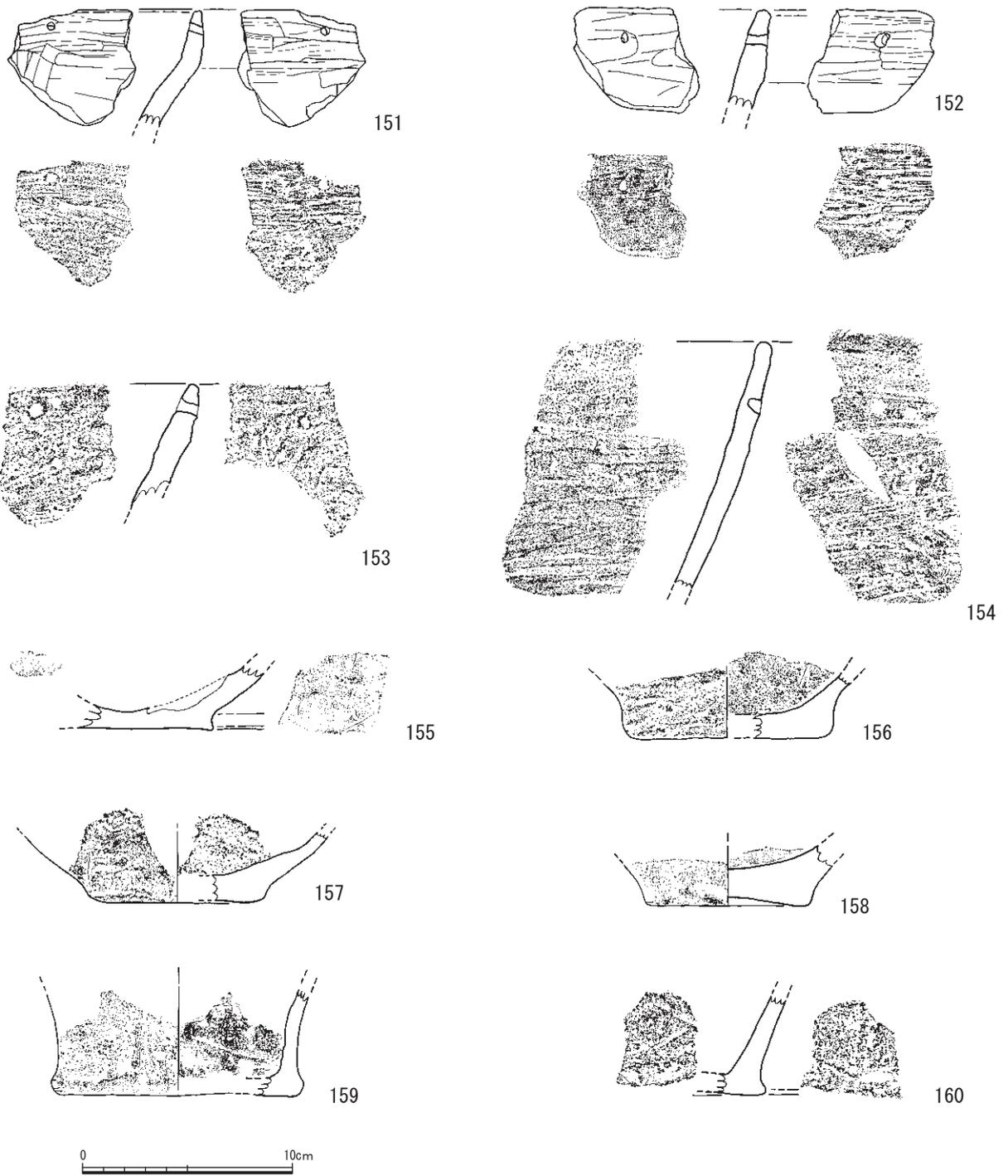
149



150

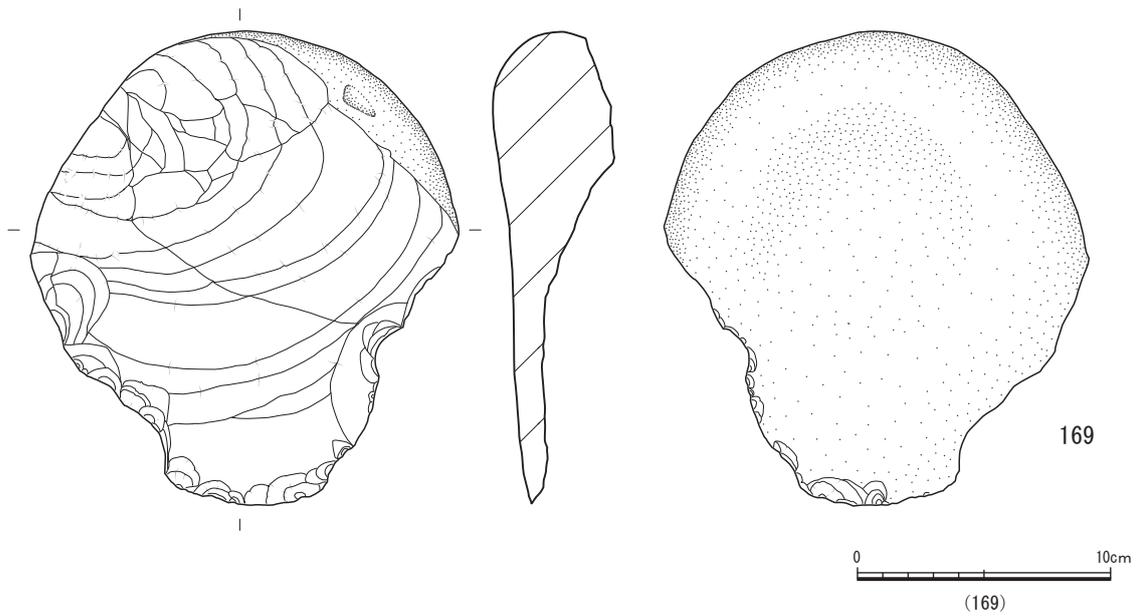
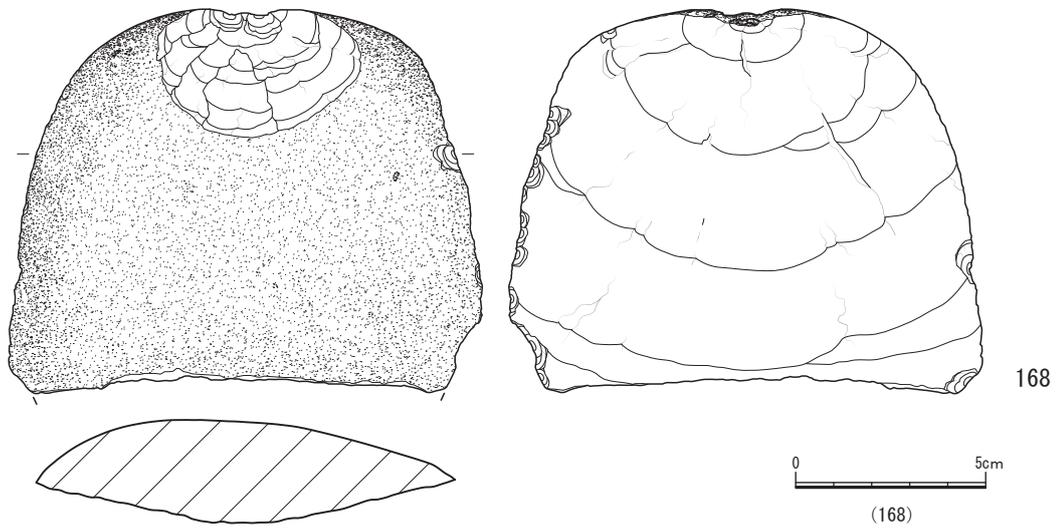
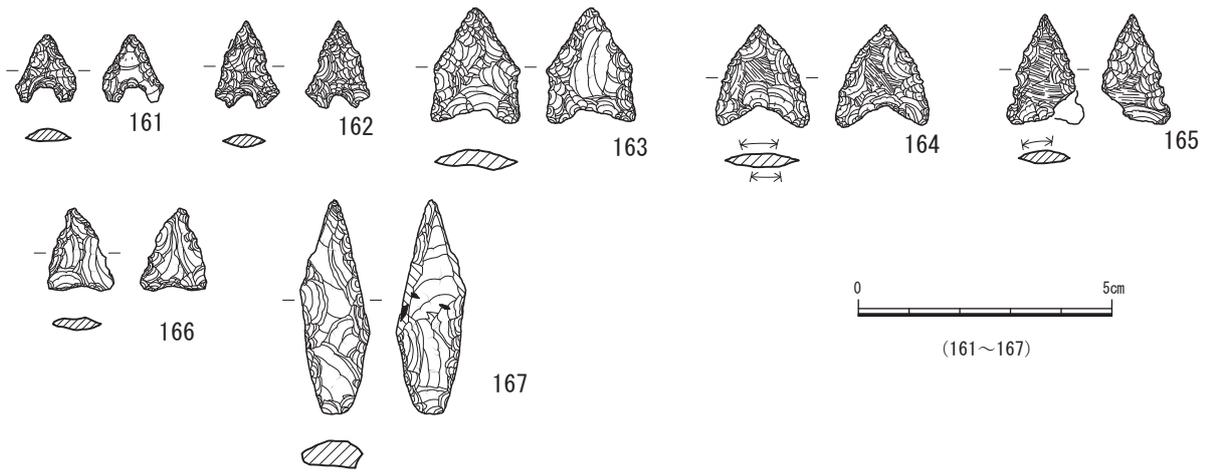


第 28 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図㊟ (S=1/3)

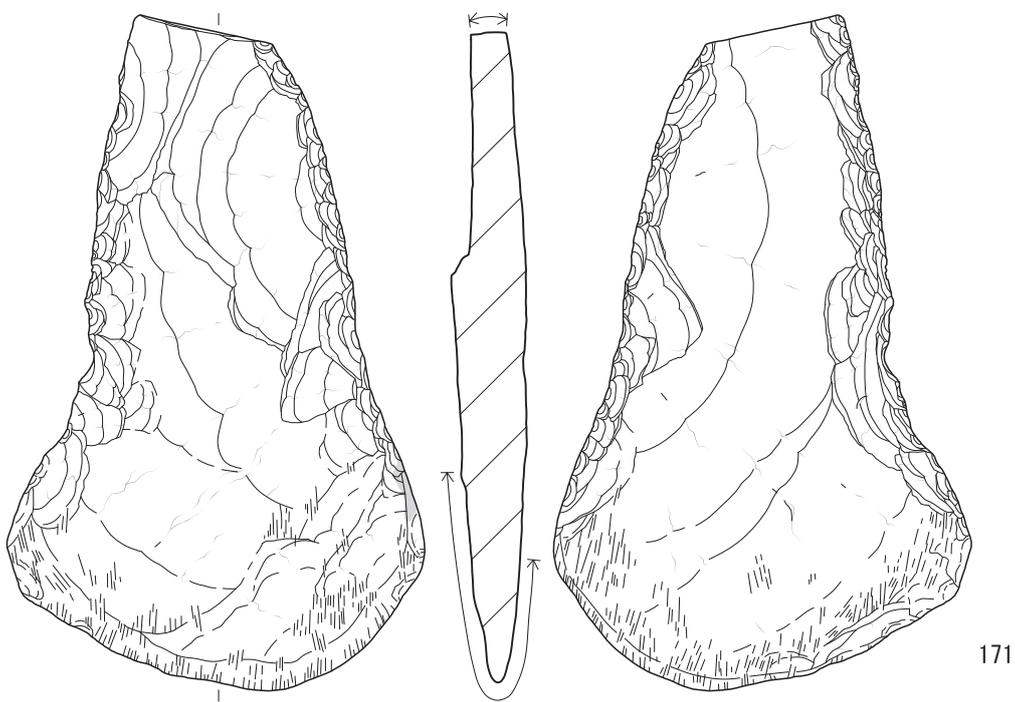
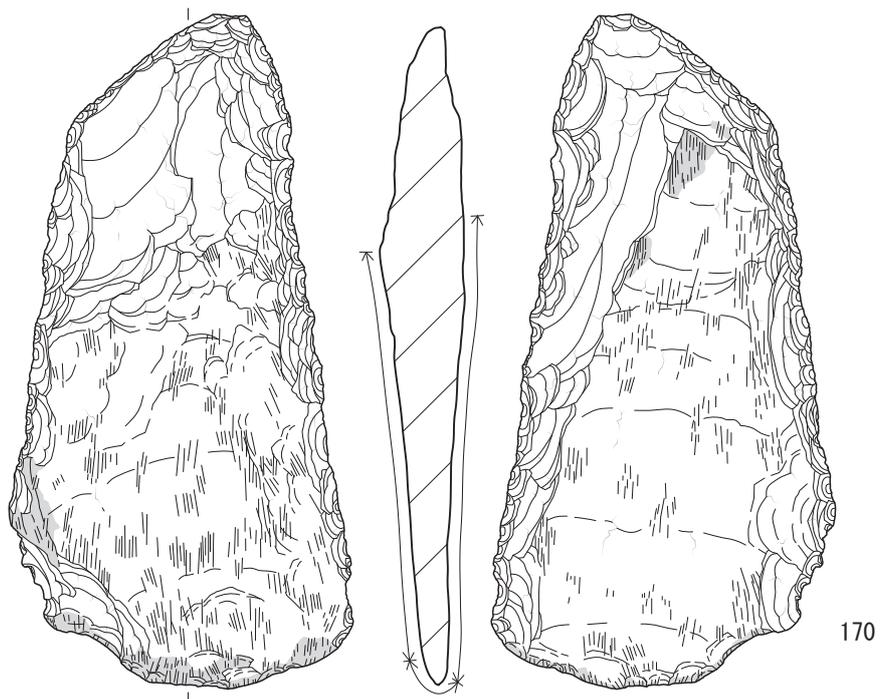


第 29 図 縄文時代中～晩期包含層出土土器実測図⑩ (S=1/3)

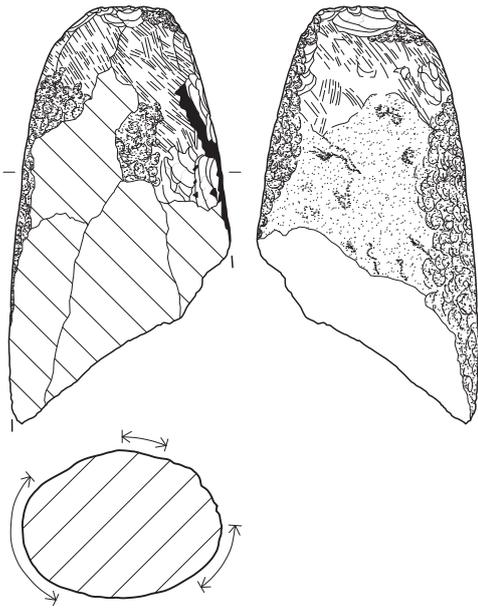
底面が僅かに白色物質が付着する。157は底径は復元で83mmを測る。内外面ともナデ調整で、外面に微量のススが付着する。158は底径は78mmを測り、底面は上げ底である。159は底部片で、外面の底部は僅かに白色物質が付着する。底径は復元で114mmを測る。160は底部片で、外面の底部は僅かに白色物質が付着する。



第 30 図 縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図① (S=2/3、1/2、1/3)



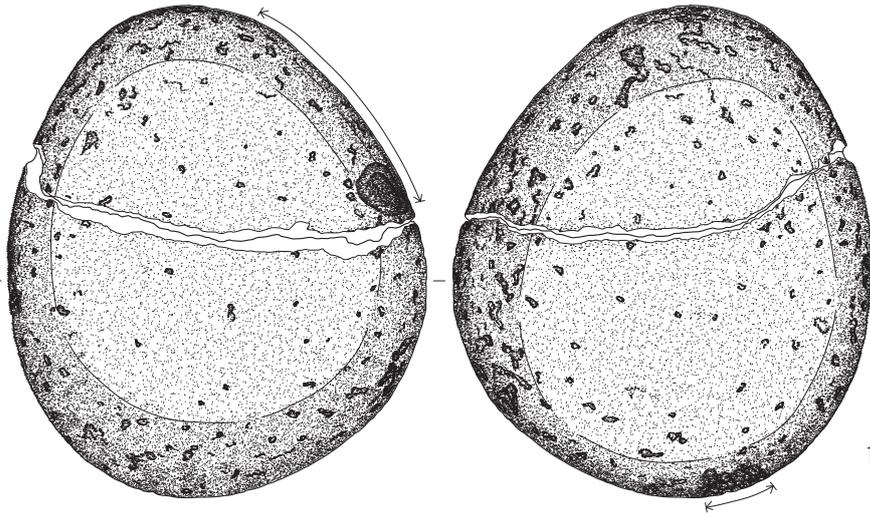
第 31 図 縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図② (S=2/3)



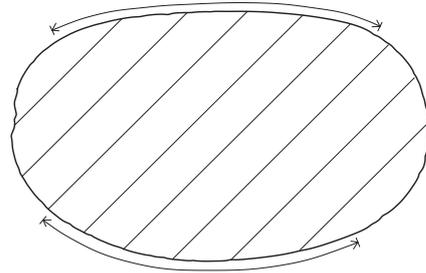
172



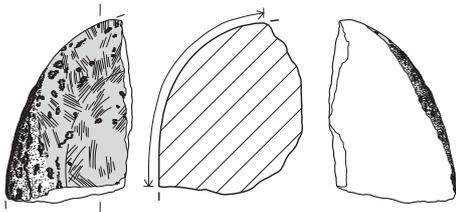
(172)



173

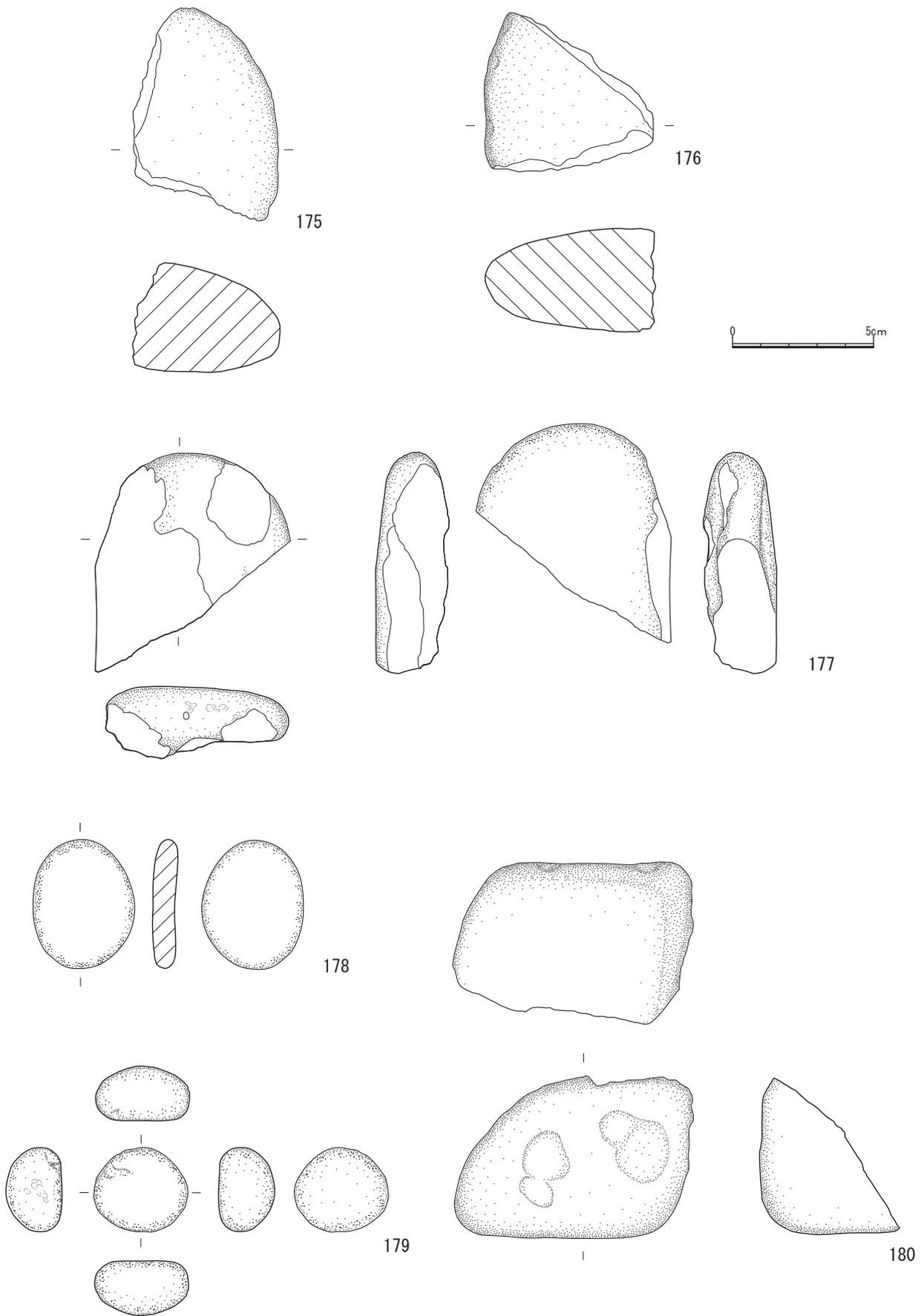


(173 · 174)

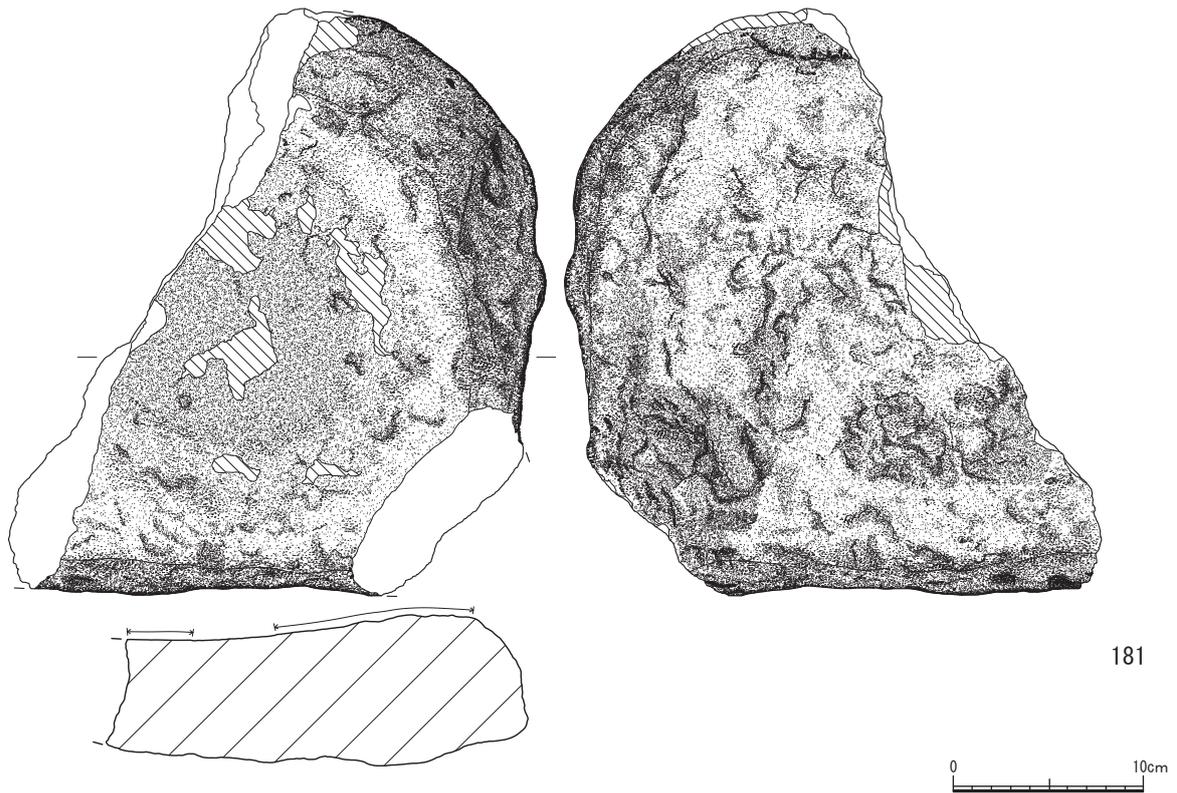


174

第 32 図 縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図③ (S=2/3、1/2)



第 33 図 縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図④ (S=1/2)



第 34 図 縄文時代中～晩期包含層出土石器実測図⑤ (S=1/4)

(2) 出土石器について

石鏃・石鏃未製品 (161～167)

161は安山岩製の凹基鏃である。162はチャート製の五角形鏃である。163はチャート製の五角形鏃である。164は安山岩製の局部磨製石鏃である。165は頁岩製の局部磨製石鏃である。166は石鏃未製品で、チャート製である。167は石鏃未製品で、頁岩製である。

スクレイパー (168・169)

168・169はスクレイパーで砂岩製である。

石斧 (170～172)

170はホルンフェルス製の打製石斧で刃部等に光沢面を持つ。171はホルンフェルス製での打製石斧で、刃部を中心に擦痕を持つ。一部に光沢面を持つ。172はホルンフェルス製で敲打痕を持つ。

磨石・凹み石・石皿 (173～181)

173は霧島山系花崗岩製で、側面に敲打痕を持つ。174は霧島山系花崗岩製で、光沢面を持つ。175・176は礫石製の磨石である。177は砂岩製の磨石若しくは凹み石である。178は砂岩製の磨石で、中央付近に使用痕がある。179は砂岩製の磨石である。180は砂岩製の磨石若しくは凹み石である。181は砂岩製の石皿である。表面が薄く剥離する。

第6表 縄文時代中～晩期包含層出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測No.	
				口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面	内面	石英	長石	白色鉱物	珪石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鉱物	赤色鉱物	軽石	砂粒	外面			内面
38	深鉢	口縁部	P-4	46	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/3	にぶい褐 7.5YR 5/4	1		2	1					3			刺突、ナデ	ナデ		142
39	深鉢	口縁部	O-7	59	-	-	にぶい赤褐 5YR 5/4	にぶい赤褐 5YR 5/4	1		1					1			ナデ、貝殻押し	貝殻条痕	外面黒変	53	
40	深鉢	口縁部	E-4 E-5 F-4	64	-	-	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	2						1	1	2	ナデ、貝殻、刺 突	貝殻条痕		208		
41	深鉢	口縁部	E-5	45	-	-	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6			1				2		2	ナデ、貝殻、刺 突	ナデ		201		
42	深鉢	口縁部	P-7	33	-	-	灰黄褐 10YR 6/2	褐 10YR 4/1	1		1						1	刺突、ナデ	ナデ	黒変あり	149		
43	深鉢	口縁部	Q-4	37	-	-	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	3	1	1				1		1	ナデ	ナデ		113		
44	深鉢	口縁部	O-6	42	-	-	明赤褐 5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	2		1	1						刺突、ナデ	ナデ		44		
45	深鉢	口縁部	O-6	43	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/3	にぶい橙 5YR 6/4	2									ナデ	ナデ	穿孔あり、剥離あり	146		
46	深鉢	頸部	O-5	-	-	-	橙 7.5YR 6/6	にぶい橙 7.5YR 6/4	2									刺突、貝殻刺突、 貝殻条痕	ナデ		42		
47	深鉢	頸部	O-2	-	-	-	明赤褐 2.5YR 5/6	明赤褐 2.5YR 5/6	3		1					1	1	沈線、刺突、突 帯、貝殻条痕	貝殻条痕	黒変あり	233		
48	深鉢	頸部	P-5	-	-	-	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	3	3					3			貝殻刺突、刺突	ナデ		43		
49	深鉢	頸部	P-5	-	-	-	赤褐 5YR 4/6	赤褐 5YR 4/6	3			2			1			貝殻条痕、貝殻 刺突、沈線	貝殻条痕	黒変あり	45		
50	深鉢	口縁部	Q-3	57	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 5/6	1		1				1			貝殻刺突、沈線	貝殻条痕		50		
51	深鉢	口縁部	P-2	39	-	-	にぶい橙 5YR 7/4	橙 5YR 6/6	1		1				2		1	ナデ、貝殻刺突、 沈線	貝殻条痕		49		
52	深鉢	口縁部	O-2 O-3	72	-	-	褐 7.5YR 4/6	褐 7.5YR 4/6	1			1						ナデ、貝殻刺突、 貝殻条痕	ナデ、貝 殻条痕		47		
53	深鉢	口縁部	O-3	56	-	-	明赤褐 5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	2		1	2				1		ナデ、刺突	ナデ		33		
54	深鉢	口縁部	O-3	67	-	-	赤褐 5YR 4/6	赤褐 5YR 4/6	2								1	ナデ、刺突	ナデ	波状口縁、黒変あり	35		
55	深鉢	口縁部	O-6 P-7	49	-	-	にぶい赤褐 5YR 5/4	にぶい赤褐 5YR 5/6	2		1				1		1	貝殻刺突、ナデ	ナデ	黒変あり、波状口縁	32		
56	深鉢	口縁部	R-3	63	-	-	褐 7.5YR 4/6	褐 7.5YR 4/3	1		1				1		1	貝殻刺突、ナデ	ナデ	黒変あり、波状口縁	30		
57	深鉢	口縁部	O-7 Q-6	95	-	-	褐 7.5YR 4/6	明赤褐 2.5YR 5/6	1						1			貝殻刺突、ナデ、 貝殻条痕	ナデ、貝 殻条痕		48		
58	深鉢	口縁部	O-3	41	-	-	灰褐 5YR 5/2	灰赤 2.5YR 4/2	3	3					2			貝殻刺突	ナデ		37		
59	深鉢	口縁部	O-3	35	-	-	明赤褐 7.5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	2		1	2						ナデ、刺突	ナデ		36		
60	深鉢	口縁部	P-4	26	-	-	にぶい赤褐 5YR 5/4	にぶい赤褐 5YR 5/6	2						1		1	貝殻刺突、沈線、 ナデ	ナデ		40		
61	深鉢	口縁部	O-6	32	-	-	黒 7.5YR 2/2	暗褐 7.5YR 3/4	1		1	1						ナデ、刺突	ナデ		39		
62	深鉢	口縁部	P-3 Q-3	87	-	-	灰褐 7.5YR 4/2	明赤褐 5YR 5/6	2						1		1	貝殻刺突、貝殻 押し、ナデ	ナデ	波状口縁ス付き	51		
63	深鉢	口縁部	O-2 P-3	28	-	-	橙 2.5YR 6/6	橙 2.5YR 6/6	3	3					2			刺突、ナデ	ナデ		34		
64	深鉢	口縁部	N-6	40	-	-	にぶい赤褐 5YR 5/3	にぶい赤褐 5YR 5/3	3	3					3			貝殻、貝殻条痕、 ナデ	ナデ	波状口縁	31		
65	深鉢	口縁部	O-4	38	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/4	灰褐 7.5YR 4/2	3		2	1	1				3	ナデ、刺突	貝殻条痕、 ナデ		38		
66	深鉢	口縁部	Q-5	55	-	-	明赤褐 5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	2		1				1		1	沈線、刺突、ナ デ	ナデ		234		
67	浅鉢	口縁部	O-5	44	-	-	にぶい黄褐 10YR 5/3	灰黄褐 10YR 4/2	1		2				1			縄文、沈線、ナ デ	縄文、沈 線、ナデ	口縁部に穴あり	65		
68	浅鉢	口縁部	O-2	32	-	-	明赤褐 5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	3			2			2		1	沈線、ナデ	ナデ		235		
69	浅鉢	口縁部	O-7	37	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/4	黒褐 7.5YR 3/1	1						1		1	沈線、ナデ	ナデ		55		
70	浅鉢	口縁部	O-3	55	-	-	明赤褐 5YR 5/6	明赤褐 5YR 5/6	1		3	3						沈線、ナデ	ナデ	波状口縁ス付き	52		
71	浅鉢	口縁部	Q-6	-	-	-	明褐 7.5YR 5/6	にぶい黄褐 10YR 5/3	1						1	1		沈線、ナデ	沈線、ナ デ		54		
72	浅鉢	口縁部	-	39	-	-	にぶい黄褐 10YR 5/4	にぶい黄褐 10YR 5/4	2		2							ナデ	ナデ	口唇部に突起	66		
73	浅鉢	胴部	F-4	-	-	-	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/3	2		2	2			1		2	沈線、ナデ	貝殻条痕、 ナデ		199		
74	浅鉢	口縁部	N-7 O-7	38	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/3	にぶい橙 7.5YR 6/4	1		1				1	1	1	ナデ、縄文	ナデ		56		
75	浅鉢	口縁部	N-7	27	-	-	にぶい橙 5YR 6/4	にぶい橙 5YR 6/4	3	3		1		3	1			縄文、ナデ	縄文、ナ デ	口縁部に穿孔あり	57		
76	台付皿	口縁部	N-7	30	-	-	にぶい赤褐 2.5YR 5/4	明赤褐 2.5YR 3/3	3		2	1						沈線、ナデ、刺 突	ナデ、刺 突、沈線		46		
77	台付皿	口縁部	P-6	26	-	-	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	1		3	1						刺突、ナデ	ナデ	黒変あり	59		
78	台付皿	口縁部	E-3	27	-	-	橙 5YR 6/6	にぶい褐 .5YR 5/4	2		1				1	1		縄文、沈線、刺 突、ナデ	ナデ	内面赤色顔料	198		
79	台付皿	皿部	P-6	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい黄橙 10YR 6/3	3			1					1	ナデ	ナデ、刺 突		58		
80	台付皿	脚部	E-4 E-5	60	180	-	にぶい赤褐 5YR 5/4	灰褐 7.5YR 4/2	1		1	1						縄文、沈線、刺 突、ナデ	ナデ		197		
81	台付皿	脚部	D-3 E-3	41	135	-	明赤褐色 2.5YR 5/6	明赤褐色 2.5YR 5/6	3			2					2	沈線、ナデ	工具ナデ		200		

掲載番号	器種	部位	出土地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測No.							
				口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面	内面	石英	長石	白色珪物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色珪物	赤色珪物	軽石	砂粒	外面			内面						
82	台付皿	脚部	O-7	36	100	-	にぶい褐色 7.5 YR 5/4	明赤褐 2.5YR 5/6	2		1					2								ナデ	ナデ		61		
83	台付皿	脚部	O-6	39	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/4	橙 2.5YR 6/6	3	3						3									ナデ	ナデ		62	
84	浅鉢	口縁部	P-7	35	-	-	にぶい赤褐 5YR 5/4	にぶい赤褐 5YR 5/4	3		1							1	2					ミガキ	ミガキ		152		
85	浅鉢	口縁部	P-3	41	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/4	灰褐 10YR 4/2	1									2							ミガキ	ミガキ	黒変あり	151	
86	浅鉢	口縁部	P-6	23	-	-	灰黄褐 10YR 6/2	灰黄褐 10YR 6/2	1		2	1												-	-		154		
87	浅鉢	口縁部	E-4	15	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	1		1	1													ミガキ	ミガキ	黒変あり	215	
88	浅鉢	口縁部	D-4	20	-	-	黒褐 0YR 3/1	黒 10YR 2/1	3										2						ミガキ	ミガキ	スス付着(口縁外側)	212	
89	浅鉢	口縁部	E-3	16	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	2		2	1					1								ミガキ	ミガキ		206	
90	浅鉢	口縁部	P-3	21	-	-	灰黄褐 10YR 4/2	にぶい褐 7.5YR 5/4	1									1							ナデ、ミガキ	ナデ		155	
91	浅鉢	口縁部	P-7	43	-	-	にぶい黄橙 10YR 6/3	灰黄褐 10YR 5/2	1			1				1	1		1						ミガキ	ミガキ		161	
92	浅鉢	口縁部	P-2	35	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	3		2	2				1									ナデ	ナデ		153	
93	浅鉢	口縁部	P-6	40	-	-	灰黄褐 10YR 6/2	灰黄褐 10YR 6/2	3			1						1							ミガキ	ミガキ		78	
94	浅鉢	口縁部	P-2	21	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/3	にぶい橙 7.5YR 7/3	3	3		1													ミガキ	ミガキ		156	
95	浅鉢	口縁部	O-6	33	-	-	にぶい黄橙 10YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	1			1						1							ミガキ	ナデ		70	
96	浅鉢	口縁部	P-6	32	-	-	橙 7.5YR 6/6	橙 5YR 6/6	2		2	1			1			1							ミガキ	ミガキ		71	
97	浅鉢	胴部	P-3	-	-	-	黒褐 7.5YR 3/1	灰褐 7.5YR 4/2	2							1		1							ミガキ	ミガキ		160	
98	浅鉢	胴部	E-4	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	3		2					1									ミガキ	ナデ		211	
99	浅鉢	胴部	P-2	-	-	-	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/4	1			1												-	-		158		
100	浅鉢	胴部	P-2	-	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	3							1			1						ナデ	ナデ		159	
101	浅鉢	胴部	P-7	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	2		1	1				1									ナデ	ナデ		157	
102	浅鉢	胴部	P-6	-	-	-	灰褐 10YR 4/1	灰黄褐 10YR 5/2	1		1					2									ミガキ	ナデ		73	
103	浅鉢	胴部	P-7	-	-	-	灰黄褐 10YR 5/2	灰黄褐 10YR 5/2	2		2	1						1							ナデ	ナデ、ミガキ		162	
104	浅鉢	口縁部	Q-6	48	-	-	橙 7.5YR 6/6	黒褐 10YR 3/1	2		1	1						1							ナデ	ミガキ		76	
105	浅鉢	口縁部	P-6	35	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	3	1		2							2						ナデ	ナデ		169	
106	浅鉢	口縁部	N-7	30	-	-	にぶい橙 10YR 7/4	にぶい橙 10YR 7/4	1			1				1	1									ナデ	ナデ		165
107	浅鉢	口縁部	O-7	34	-	-	褐灰 10YR 5/2	にぶい黄褐 10YR 5/4	2		1	1				1									ナデ	ナデ		168	
108	浅鉢	口縁部	P-6	58	-	-	灰黄褐 10YR 6/2	にぶい黄橙 10YR 6/3	1							2			1						ナデ	ナデ		90	
109	浅鉢	口縁部	P-7	55	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/3	にぶい黄橙 10YR 7/3	2	1	3	2													ナデ	ナデ	黒変あり	91	
110	浅鉢	口縁部	P-7	37	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/3	2		1	1				2									ナデ	ナデ		81	
111	浅鉢	口縁部	P-7	38	-	-	橙 7.5YR 7/6	にぶい橙 7.5YR 7/6	2	1	2					2									ナデ	ナデ		82	
112	浅鉢	口縁部	P-6	49	-	27	にぶい褐 7.5YR 6/3	褐灰 7.5YR 4/1	2		1					1									工具ナデ	ナデ		100	
113	浅鉢	口縁部	O-3	38	-	-	にぶい黄橙 10YR 7/3	にぶい黄橙 10YR 7/3	2	1		1						1							ナデ	ナデ		163	
114	浅鉢	口縁部	O-7	31	-	-	黒褐 2.5Y 3/1	にぶい橙 7.5YR 6/4	1		1					1									ナデ	工具ナデ	黒変あり	83	
115	浅鉢	口縁部	E-5	42	-	-	褐灰 10YR 4/1	褐灰 10YR 5/1	1		2	1													ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	黒変あり	213	
116	浅鉢	口縁部	P-6	34	-	-	黄灰褐 10YR 6/2	黄灰褐 10YR 6/2	3		2	3													ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ		104	
117	浅鉢	口縁部	O-6	62	-	-	にぶい褐 7.5YR 5/3	橙 7.5YR 6/6	3			1				2			2						ナデ	ナデ		84	
118	浅鉢	口縁部	P-7	53	-	-	橙 7.5YR 7/6	橙 7.5YR 7/6	2		1					2									ナデ	ナデ		94	
119	浅鉢	口縁部	Q-4	33	-	-	橙 7.5YR 7/6	橙 7.5YR 7/6	3		1	2				2			2						ナデ	ナデ		130	
120	浅鉢	口縁部	P-6	41	-	-	橙 7.5YR 7/6	橙 7.5YR 6/6	1		1	1													ナデ	ナデ		129	
121	浅鉢	口縁部	Q-4	60	-	-	浅黄橙 10YR 8/4	浅黄橙 7.5YR 8/4	1							1			1						ナデ	ナデ		131	
122	浅鉢	口縁部	Q-4	53	-	-	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 6/4	2		1					1									ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ		128	
123	浅鉢	胴部	P-6	-	-	-	にぶい橙 7.5YR 6/4	橙 7.5YR 6/4	1	1	1	2													ナデ	ナデ	口唇部に突起	67	
124	浅鉢	胴部	O-3	-	-	-	にぶい橙 5YR 6/4	にぶい橙 7.5YR 7/3	2	1			2				2								ナデ	ナデ	表面に黒変あり	170	
125	深鉢	口縁部	B-3	27	-	-	にぶい黄橙 10YR 4/2	灰黄褐 10YR 4/2	1			1													ナデ	ナデ	黒変あり	210	
126	深鉢	口縁部	P-6	70	-	-	橙 7.5YR 7/6	橙 7.5YR 7/6	2										3						工具ナデ	工具ナデ	黒変あり、スス付着	148	
127	深鉢	口縁部	P-5	119	-	444	にぶい黄橙 10YR 7/4	褐灰 10YR 4/1			1					1			3	1					ナデ	工具ナデ		132	

掲載 番号	器種	部 位	出土 地点	法 量			色 調		胎 土										文様及び調整		備 考	実測 No.	
				口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)	外 面	内 面	石英	長石	白色 鉱物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色 鉱物	赤色 鉱物	軽石	砂粒	外 面			内 面
128	深鉢	口縁部	P-6	149	—	442	橙 5YR 6/6	にぶい 褐 7.5YR 5/4	2	1						2				ナデ	工具ナデ		86
129	深鉢	口縁部	Q-4	60	—	—	にぶい赤褐 5YR 5/4	にぶい赤褐 7.5YR 5/3	2	1	2	1					1			ナデ	ナデ	スス付着	122
130	深鉢	口縁部	O-6	66	—	—	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい 7.5YR 6/4			1	1							1	ナデ、工具ナデ	ナデ	黒変あり	145
131	深鉢	口縁部	P-5 Q-5	58	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/4	にぶい黄橙 10YR 6/4	1										1	ナデ	工具ナデ、 ハケメ		134
132	深鉢	口縁部	Q-4	41	—	—	灰黄褐 10YR 4/2	にぶい黄橙 10YR 6/4	1	1						1				ナデ	ナデ	黒変あり	118
133	深鉢	口縁部	E-5	35	—	—	にぶい橙 7.5YR 7/3	灰褐 7.5YR 4/2	2	1	2					2		2	ナデ	ハケメ、 ナデ	外面ススあり	214	
134	深鉢	口縁～ 胴部	P-7	141	—	378	にぶい橙 5YR 7/4	にぶい橙 5YR 7/4	3	3						3			ナデ	ナデ	内外面ともに黒変あり	18	
135	深鉢	口縁～ 頸部	P-6	81	—	—	にぶい橙 10YR 7/2	にぶい橙 10YR 7/2	3		2							1	ナデ	ナデ		166	
136	深鉢	口縁～ 頸部	P-6	82	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 7/4	2	1	1					1			ナデ	ナデ		167	
137	深鉢	口縁～ 頸部	O-6 P-6	114	—	—	にぶい褐 7.5YR 5/4	明褐 7.5YR 5/6	3	1		1				2			工具ナデ	ナデ	うすい黒変あり	17	
138	深鉢	口縁～ 頸部	O-6 O-7	76	—	—	にぶい褐 7.5YR 5/4	橙 7.5YR 6/6	2	2	1	1							ナデ	ナデ		85	
139	深鉢	口縁部	Q-3	57	—	—	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 7/4	2		2								沈線、ナデ	ナデ		236	
140	深鉢	口縁部	P-2	65	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい赤褐 5YR 5/3	3							2	1	1	ナデ	条痕、ナ デ		137	
141	深鉢	口縁部	P-6	94	—	—	黒褐 7.5YR 3/2	橙 2.5YR 6/8	3	1							1		条痕、ナデ	ナデ	黒変あり	143	
142	深鉢	口縁～ 胴部	O-2	95	—	168	にぶい橙 7.5YR 6/4	にぶい褐 7.5YR 5/3	1	1								1	ナデ	条痕、ナ デ		140	
143	深鉢	胴部	Q-2	—	—	—	灰黄褐 10YR 6/2	灰黄褐 10YR 6/2	3		1	1						1	ナデ	ナデ	黒変あり	89	
144	深鉢	胴部	D-4	—	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/4	1		2	1						1	ナデ	ナデ、指 オサエ		205	
145	深鉢	胴部	O-4 P-4	—	—	—	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 7/2	1	2						1			工具ナデ	工具ナデ		72	
146	深鉢	胴部	O-3	—	—	—	褐 7.5YR 4/4	明赤褐 5YR 5/6	2	3	1					1			条痕	ナデ	外面スス付着	144	
147	深鉢	胴部	P-6 P-7	—	—	—	灰黄褐 10YR 6/2	にぶい黄橙 10YR 6/4	3		2					2	1	1	工具ナデ	工具ナデ	黒変あり、スス付着、 胴部最大径 241mm	95	
148	深鉢	胴部	D-4 E-4	—	—	—	橙 5YR 6/6	にぶい橙 7.5YR 6/4	3	1						3			ナデ	ナデ		204	
149	深鉢	胴部	P-5	—	—	—	橙 7.5YR 6/6	橙 7.5YR 6/2	1	1	1							4	工具ナデ	工具ナデ	黒変あり	133	
150	深鉢	胴部	P-6	—	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/3	にぶい黄橙 10YR 6/3	1		1							1	ナデ	ナデ		105	
151	深鉢	口縁部	P-2	55	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/3	3		2					1		1	条痕	ナデ	黒変あり、穿孔	101	
152	深鉢	口縁部	P-3	48	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	にぶい黄橙 10YR 6/3	1	1	1							1	条痕、ナデ	ナデ	黒変あり、穿孔	102	
153	深鉢	口縁部	Q-3	60	—	—	にぶい橙 7.5YR 6/4	橙 7.5YR 7/6	4	4	2					4			ナデ	ナデ	穿孔 2カ所、穿孔周 り指ナデ	123	
154	深鉢	口縁部	O-7	118	—	—	にぶい橙 5YR 6/3	にぶい橙 5YR 6/4	2	2							3	3	工具ナデ	工具ナデ		141	
155	深鉢	底部	C-3	30	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/3	にぶい黄橙 10YR 7/3	3	2	2								ナデ	ナデ		220	
156	深鉢	底部	P-6	31	98	—	橙 5YR 6/6	にぶい黄褐 10YR 5/4	1	1	1	1							ナデ	ナデ		79	
157	深鉢	底部	C-3	34	83	—	にぶい橙 7.5YR 7/3	にぶい橙 10YR 7/3	3	3	3					3		2	ナデ	ナデ		207	
158	深鉢	底部	P-4 P-6	29	78	—	にぶい橙 7.5YR 6/4	灰褐 7.5YR 6/2	3	3	2					3			ナデ	ナデ		68	
159	深鉢	底部	O-7	50	114	—	赤褐 5YR 4/6	暗赤褐 5YR 3/2	2							1		1	ナデ	ナデ、工 具ナデ		93	
160	深鉢	底部	O-4	46	—	—	赤褐 2.5YR 4/6	にぶい褐 7.5YR 5/4	3		2					1	1		ナデ	工具ナデ	スス付着あり	92	

第7表 縄文時代中～晩期包含層出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
161	O-6	打製石鏃	安山岩	1.35	1.2	0.25	0.3		委託 1-3
162	D-4	打製石鏃	チャート	1.75	1.25	0.3	(0.4)		委託 1-2
163	O-9	打製石鏃	チャート	2.3	1.75	0.4	1.4		委託 1-9
164	P-2	局部磨製石鏃	安山岩	2.05	1.85	0.3	0.9		委託 1-6
165	O-8	局部磨製石鏃	頁岩	(2.15)	(1.35)	0.3	(0.7)		委託 1-8
166	O-7	石鏃未成品	チャート	1.65	1.3	0.4	0.6		委託 1-5
167	C-3	石鏃未成品	頁岩	4.25	1.35	0.55	3.1		委託 1-4
168	F-4	スクレイパー	砂岩	(7.65)	9.35	2.1	(166.3)		委託 2-11
169	N-7	礫器	砂岩	18.7	16.8	3.2	1200		石器 10
170	P-6	打製石斧	ホルンフェルス	13.5	6.8	1.75	151.4	光沢面あり	委託 2-6
171	O-6	打製石斧	ホルンフェルス	13.45	8.25	1.5	169.6	光沢面あり	委託 2-7
172	C-3	石斧	ホルンフェルス	(8.3)	(4.35)	(3.2)	(121.6)		委託 2-2
173	P-6	磨石	霧島山系花崗岩	13.5	11.0	6.8	1386.1		委託 1-13
174	B3	磨石	霧島山系花崗岩	(4.85)	(3.35)	(4.0)	(78.3)		委託 2-4
175		磨石	礫岩	(7.6)	(5.0)	4.0	(154.0)		石器 8
176		礫器	砂岩	(6.0)	(5.8)	3.7	(118.0)		石器 7
177		磨石	砂岩	(8.0)	(6.9)	2.9	(150.0)		石器 4
178	P-6	磨石	砂岩	4.7	3.6	1.0	21.0		石器 2
179	Q-5	磨石	砂岩	3.1	3.2	2.0	24.0		石器 1
180		凹み石	砂岩	(5.4)	(8.6)	(5.0)	(313.0)		石器 9
181	P-7	石皿	砂岩	(31.15)	(28.25)	(9.35)	(8900.0)		委託 2-12

3 古墳時代～古代の遺構

土坑9基、その他遺構2基を報告する。

(1) 土坑

SC 1

調査区東壁に沿って、先行トレンチを掘削したところ、調査区南端のトレンチ底面にて、黒色土の落ち込みを確認したことで検出した。検出面はⅦ層上面である。調査区壁の土層で確認したところ、Ⅵa層より上層の遺構際は不明瞭であるが、植物珪酸体分析の結果、Ⅴ層もしくはⅤ層上位層準で掘削されたと推定されている（第3章第1節）。規模は検出面で1.4×0.7m、底面は1.3×0.4m、深さは1.8mを測る。下端は上端よりも1m程北に位置している。遺構の形状や堆積状況から粘土採掘穴の可能性あるが、性格不明の土坑とした。出土した土器は2点で、182はⅩ層と同レベルで出土した。内面はにぶい褐色を呈し、工具によるナデ調整を行う。183はⅥa層にて出土しており、流れ込みと思われる。内外面ともナデ調整である。

SC2

調査区西壁の先行トレンチ掘削中に検出した。検出面はⅤb層である。埋土はほとんどが黒色土で、底面付近にやや砂質土が堆積していた。平面は楕円状で、下端は斜めに入る。規模は1.9×0.8mを測る。平面形は楕円状で、下端は南側に寄っている。

SC3

先行トレンチ掘削中に、検出した。検出面はⅦ層で、Ⅸ層まで掘りこんでいる。平面形は長円形で、1.25×1.0mを測る。

SC4

Ⅵ層精査中に検出した。円状の黒色土を確認したため、半截したところⅦ層まで掘りこんでいた。平面形は円形で、0.9×0.85mを測る。

SC5

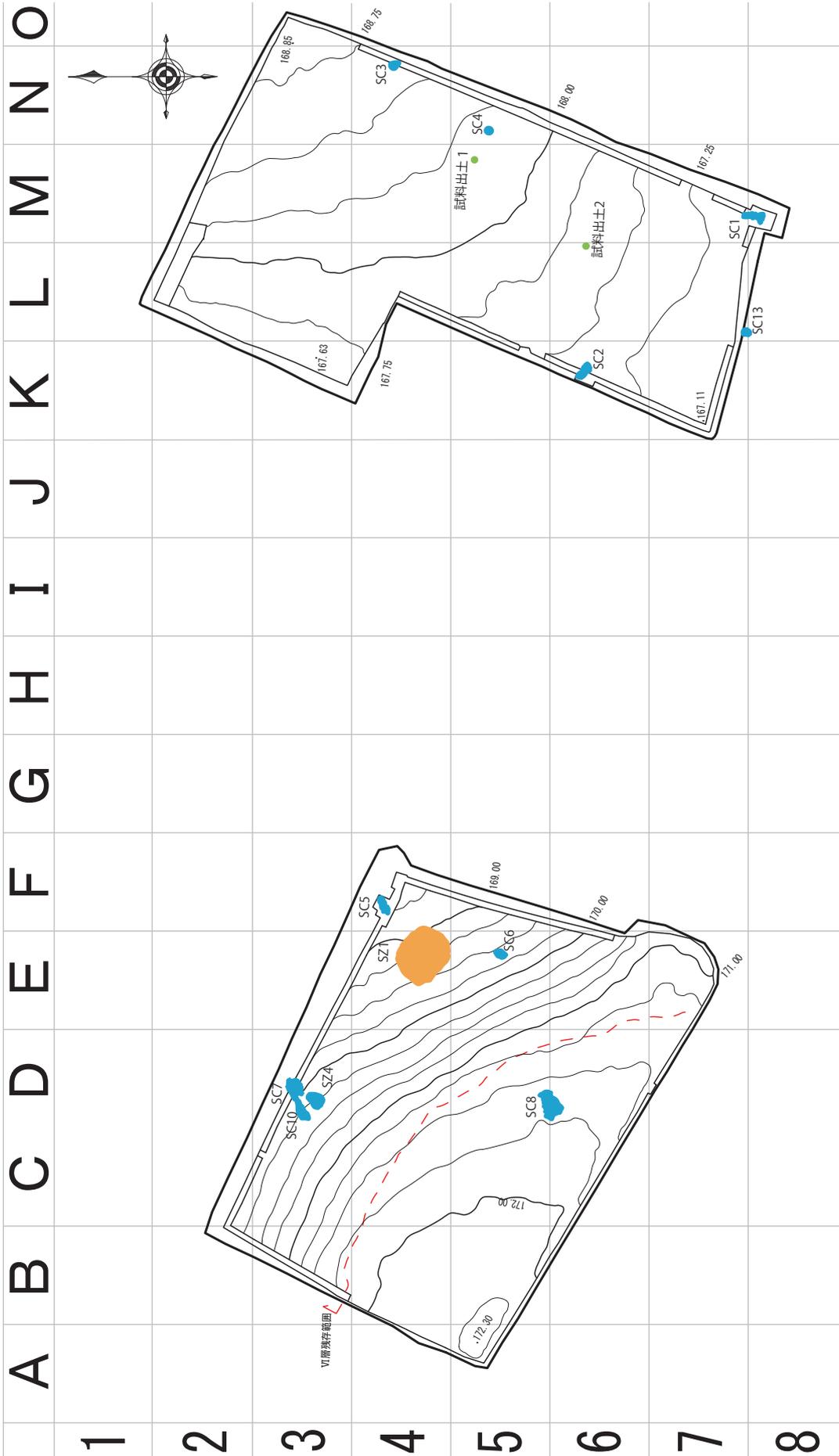
先行トレンチ掘削中に焼土と炭化物を含む落ち込みを確認したことで検出した。土層断面を作成後、Ⅵa層上面で平面の遺構検出を行った。平面形は1.5×0.8mの楕円形である。北西から南東に向かって傾斜し、遺構短軸断面に沿ってU字状に炭化物を含む。一部炭化物の上面に焼土を伴う。遺構の南東壁には鉄分が付着していた。U字状に含まれる炭化物について、自然科学分析を行ったところ、トネリコ属で1821±23年BPの値が得られている（第3章第1節）。

SC6

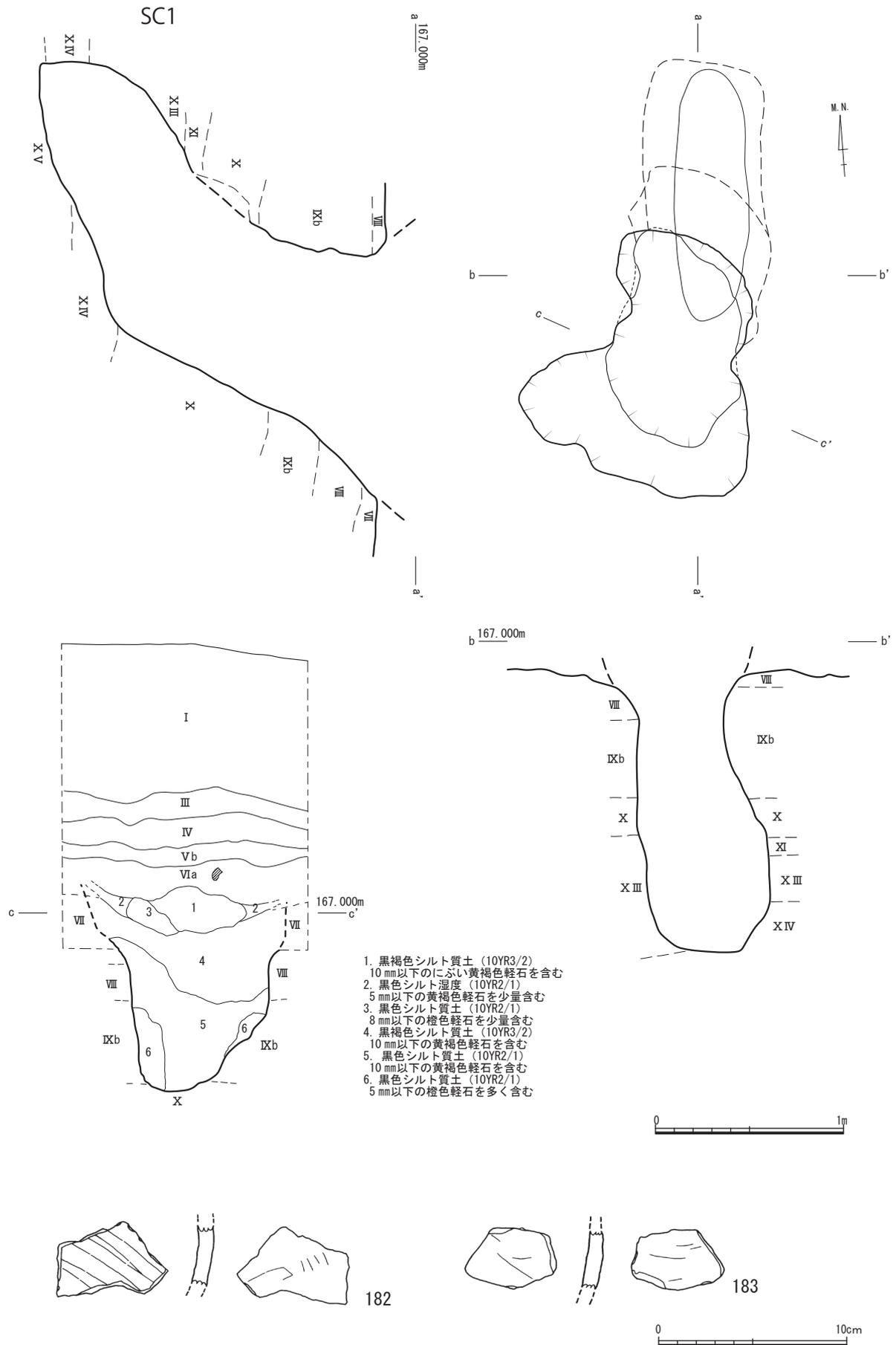
Ⅵa層上面で検出した。平面形はやや不定形の楕円形で、1.4×0.9mを測る。埋土は単層で、灰黄褐色を呈する。

SC7

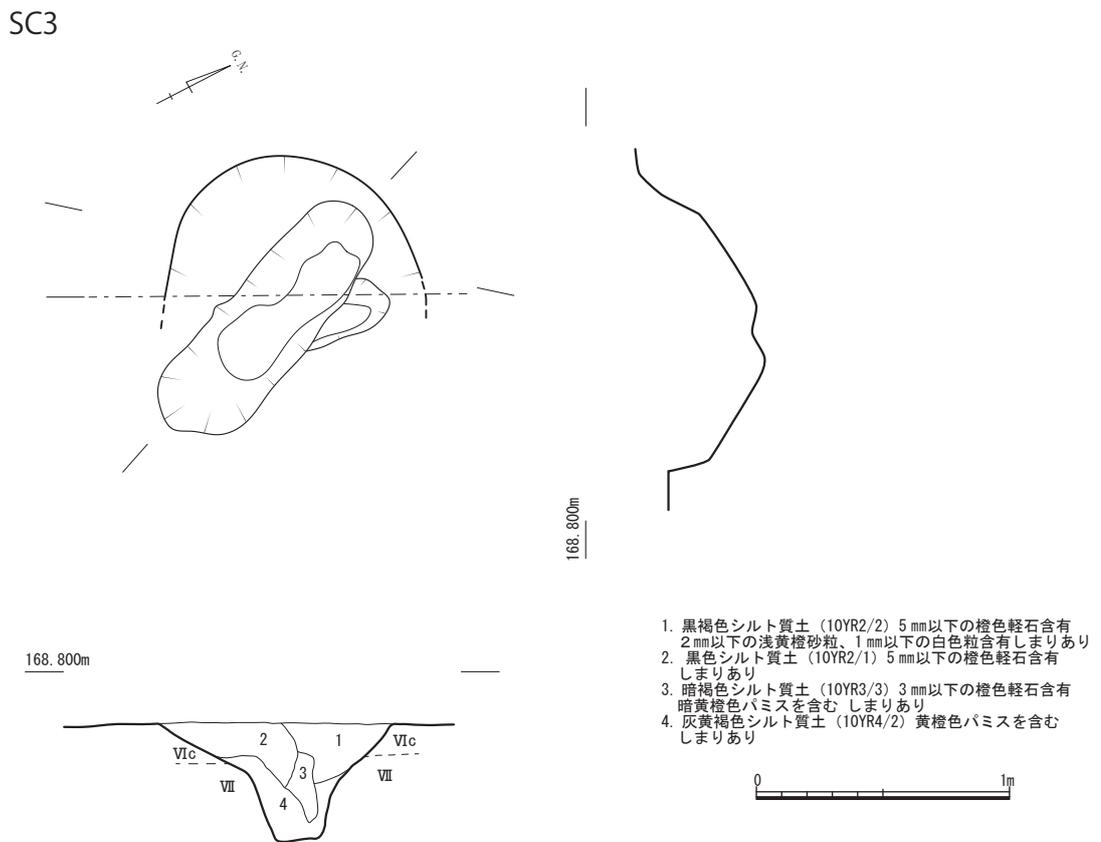
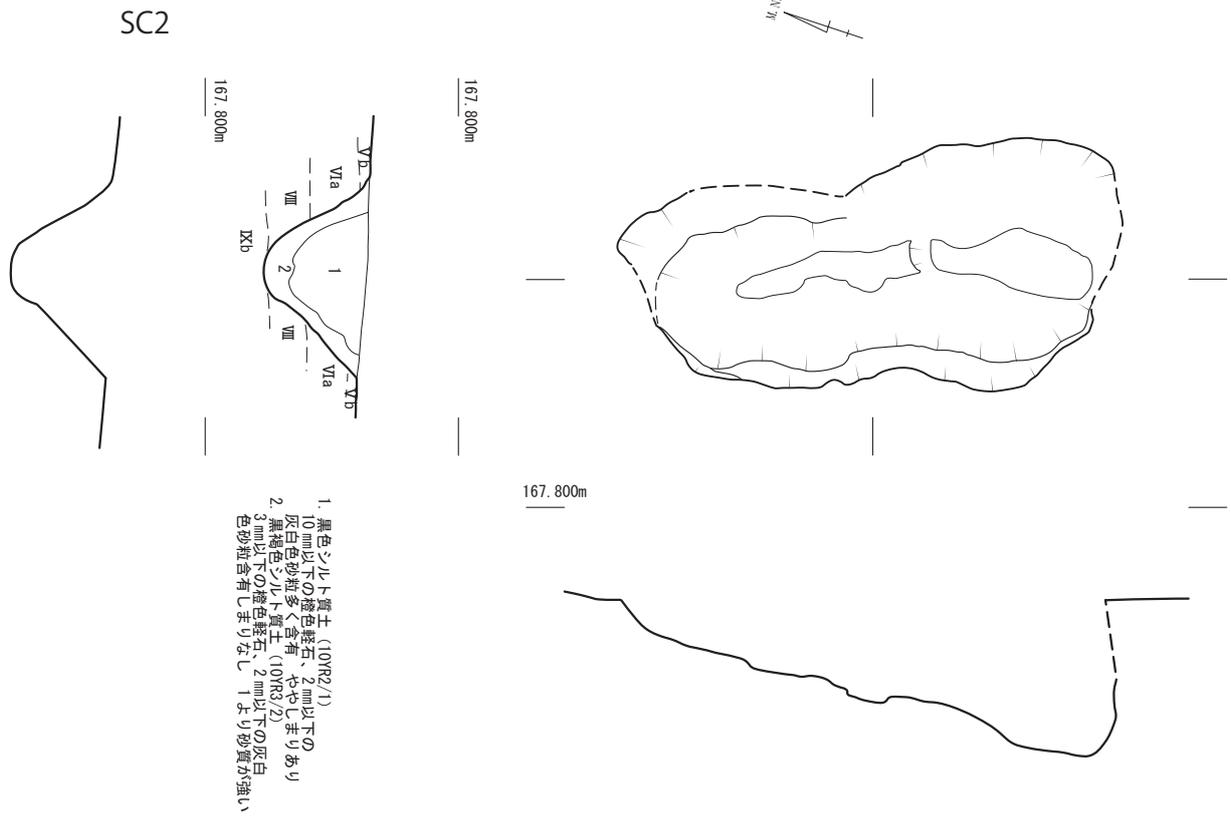
先行トレンチを掘削中に、ブロック状の埋土を確認したことで検出した。平面での検出はⅦ層で行った。規模は2.3×1.75mで、隅丸方形状である。埋土は基本的にブロック状になっており、直径15cmほどのブロックが多い。Ⅸ層やⅩ層の崩落と思われる埋土も含まれる。調査区壁で確認したところ、ブロック状の土はⅤ層まで巻き上げるような形で堆積していることから人為的痕跡ではない可能性もある（遺構図内c-c'、SC7



第 35 図 古墳時代～古代遺構配置図 (S=1/600)

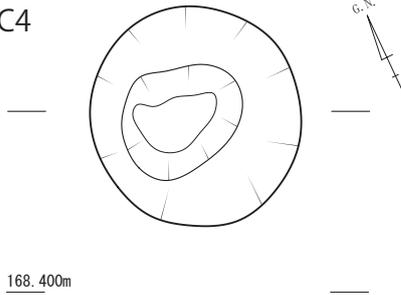


第36図 古墳時代～古代検出 SC 実測図①及び遺構内出土遺物実測図 (S=1/30、1/3)

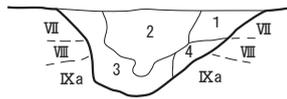


第 37 図 古墳時代～古代検出 SC 実測図② (S=1/30)

SC4

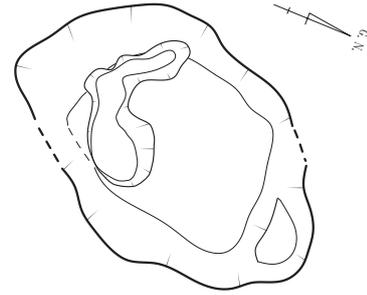


168.400m

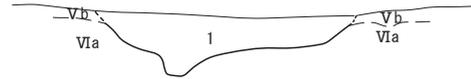


1. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 2 mm以下の浅黄橙砂粒を微量含有
しまりあり
2. 黒色シルト質土 (10YR2/1) 6 mm以下の黄橙色軽石を多く含有
2 mm以下の浅黄橙砂粒を多く含有 ややしまる
3. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 3 mm以下の黄橙色軽石を含有
2 mm以下の橙色軽石を微量含有 しまりやや弱い にぶい黄褐土ブロック含む
4. にぶい黄褐粘土質 (10YR4/3) 1 mm以下の橙色軽石を微量含有
しまりあり

SC6

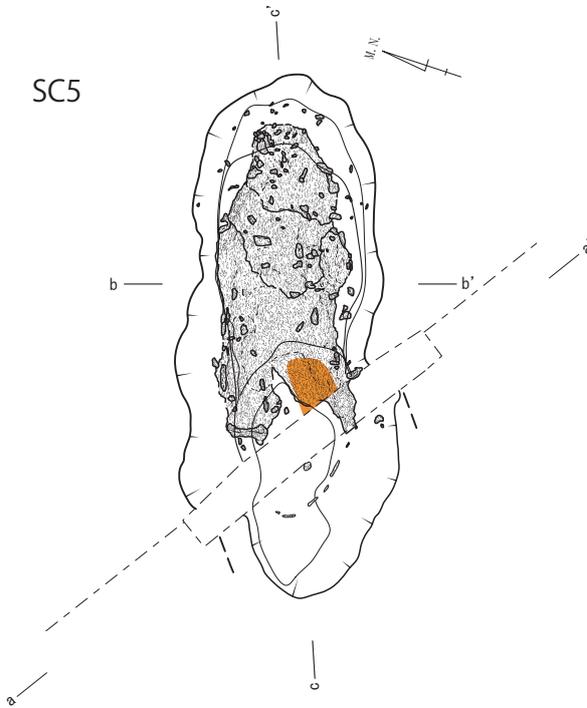


169.700m

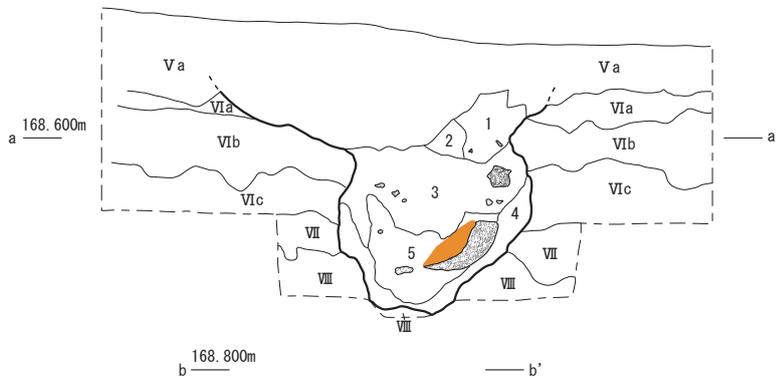


1. 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2)
10 mm以下の黄橙色軽石含む。しまり弱い

SC5



168.800m



168.800m

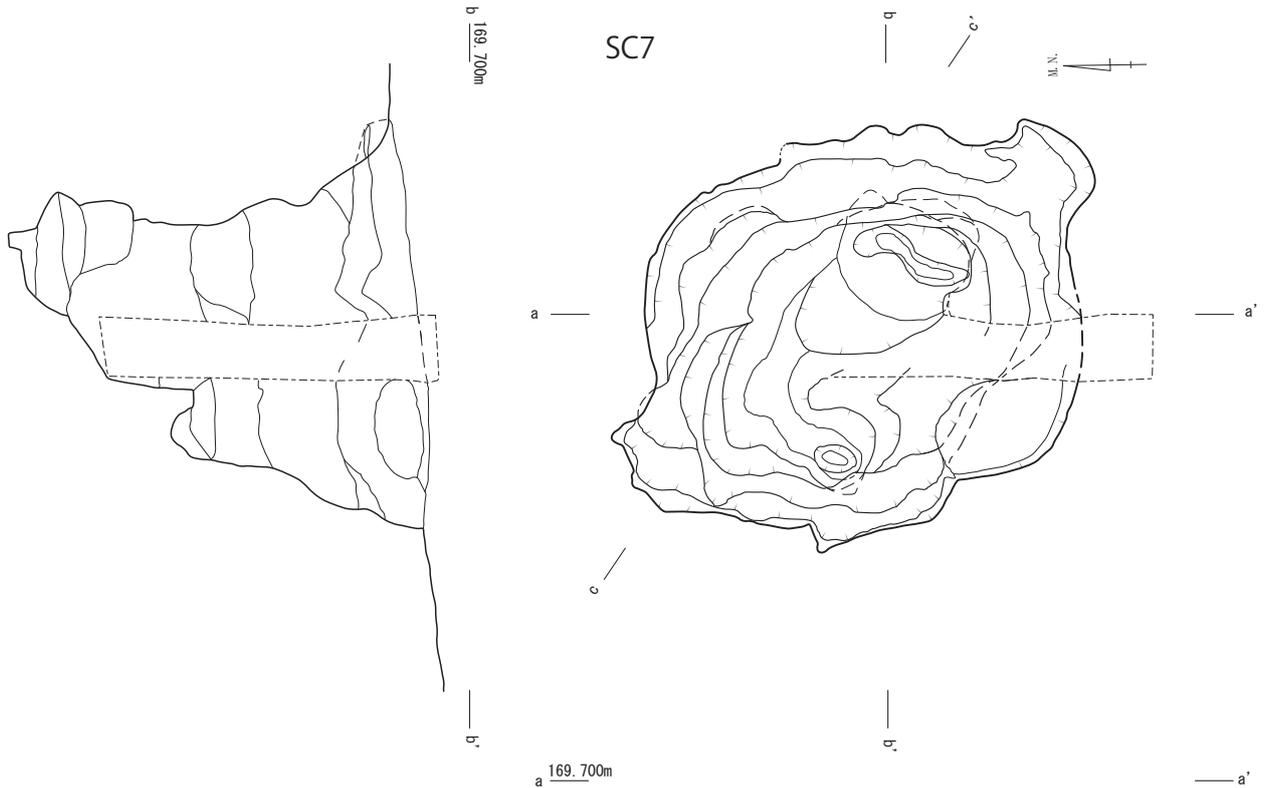
1. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 10 mm以下の黄橙色軽石含有
ややしまりあり 炭化物含有
2. 灰黄褐色シルト質土 (10YR4/2) 3 mm以下の黄橙色軽石含有
3よりしまりやや強い 炭化物含有
3. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄橙色・橙色軽石
を多く含有 しまり弱い 粒状
4. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 2 mm以下の黄橙色・橙色軽石
を微量含有 しまりあり 粒子細かい
5. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 明黄褐色粒子 (~3 mm) を
多量に含有 しまりとても弱い 粒状

●●● 焼土範囲

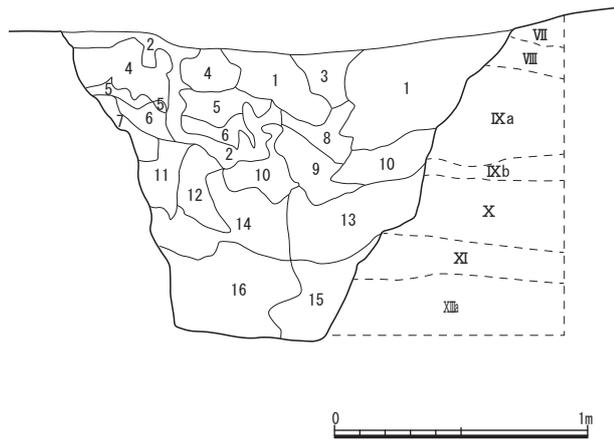


1. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 黄橙色軽石を含む 軟質
2. 黒色シルト質土 (10YR2/1) 黄橙色軽石を含む やや軟質
3. 黒褐色シルト質土 (10YR2/2) 黄橙色軽石を含む 軟質
4. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 黄橙色軽石を含む 橙色焼土含む 軟質
炭化物を多く含む

第38図 古墳時代~古代検出 SC 実測図③ (S=1/30)

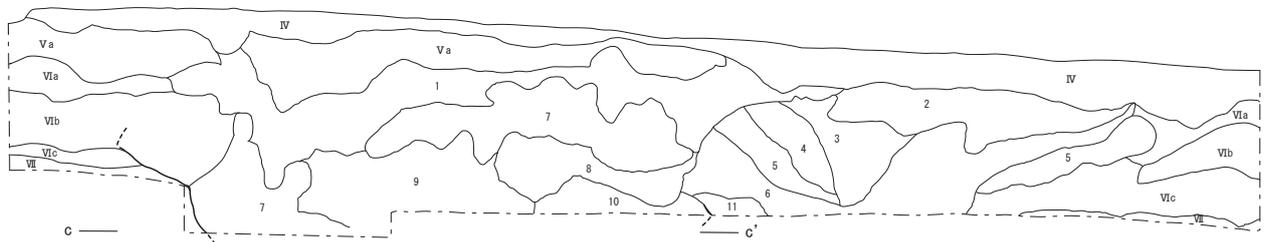


1. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 3~5 cmから 20 cmほどの黄橙色・黄灰色・灰黄褐色土ブロックを少量含む 1 cm以下の黄橙色軽石を多く含む ややしりあり
2. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 灰黄褐色 (10YR4/2) ブロックを少量含む ややしりあり
3. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR6/3) 3~5 cmの黄橙色ブロック・黄灰色土ブロックを含むやしりあり
4. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR6/3) 5 mm以下の橙色軽石を少量含むブロック しりあり
5. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR6/4) ブロック しりあり
6. 黄褐色シルト質土 (10YR7/8) しりあり
7. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 灰黄褐色 (10YR4/2) ブロックを少量含む やや軟質
8. にぶい黄褐色シルト質土 (10YR6/3) 黒褐色 (10YR3/1) ブロックを含む ややしりあり
9. 黒褐色粘質土 (10YR2/2) 約 15 cmの黄灰色土ブロックを多く含む しりあり
10. 黄褐色シルト質土 (2.5Y4/1) 砂粒状 しり弱い
11. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 砂粒状の黄褐色シルト質土を多く含む しり弱い
12. 黄褐色シルト質土 (2.5Y4/1) ブロック状 しりあり
13. 黄灰色シルト質土 (2.5Y4/1) 約 10 cmのブロック しり弱い
14. 黄灰色シルト質土 (2.5Y4/1) 約 20 cmのブロック ややしりあり
15. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 5 mm以下の橙色軽石を含む ブロック状 しり弱い
16. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 5 mm以下の橙色軽石を含む 亀裂が多く入る しりややあり



170.300m

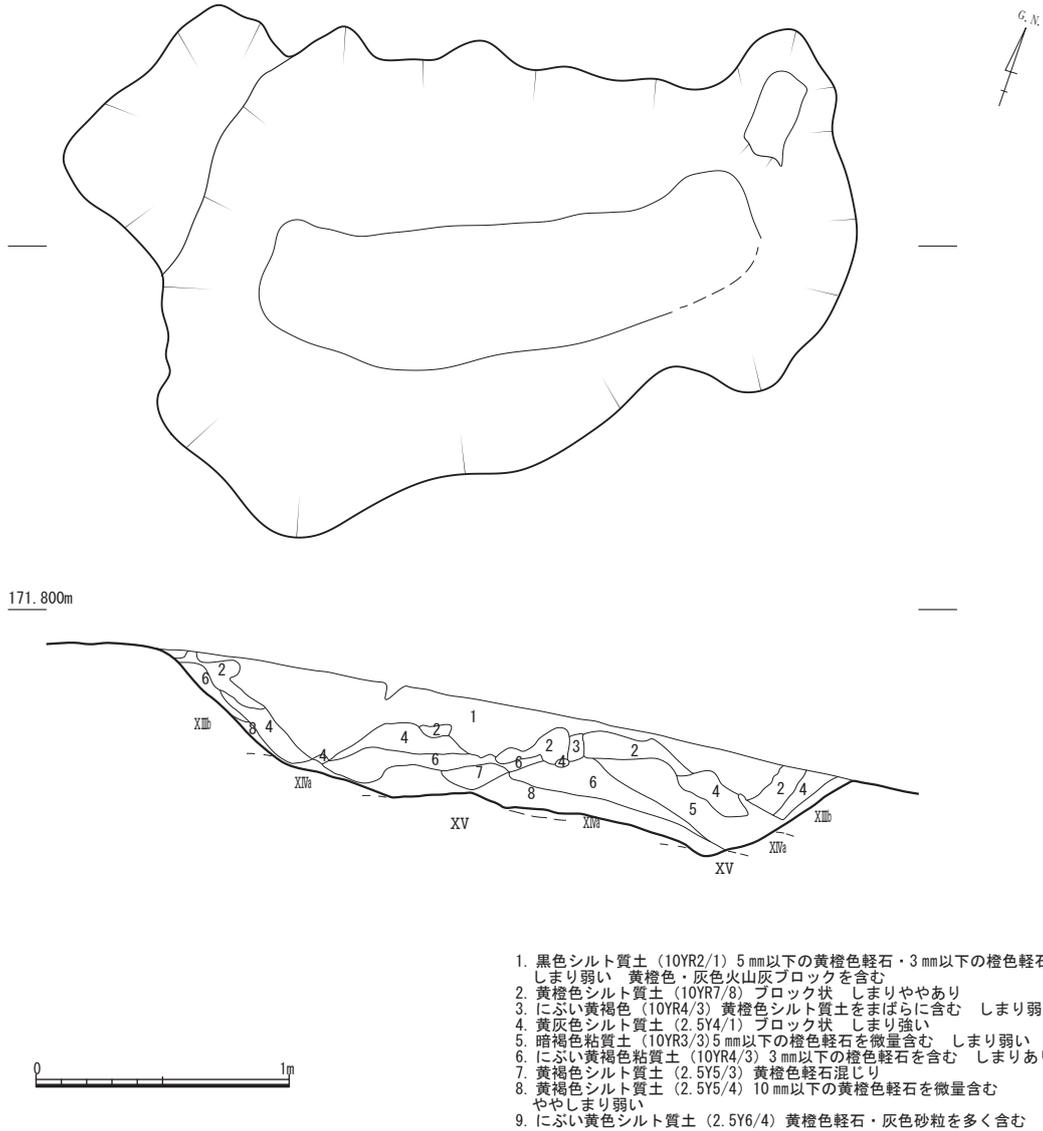
SC7 検出面上層土層断面



- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 暗褐色シルト質土 (10YR3/3) 5 mm以下の黄褐色軽石を含むしり弱い 2. 暗褐色シルト質土 (10YR3/3) 黄褐色ブロックを含む (10 mm以下) 一部分のみに含む 3. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む しり弱い 4. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む しり弱い 5. 黒褐色シルト質土 (10YR2/1) 5 mm以下の黄褐色軽石を含む ややしり強い 6. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 2 mm以下の黄褐色軽石を少量含む ややしり強い | <ol style="list-style-type: none"> 7. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 100 mm以下の黄褐色、褐灰色ブロックを含む ややしり弱い。黄褐色土、黄灰色土をブロック状に含む 上図注記1と同様 8. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む 灰黄褐色土ブロック (10 mm以下) を含む 9. 黒褐色シルト質土 (10YR2/1) 10 mm以下の黄褐色軽石を多く含む 灰黄褐色土ブロック (10 mm以下) を含む 10. 黄褐色粘質土 (2.5YR5/4) ブロック状 11. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 2 mm以下の黄褐色軽石を少量含む |
|--|--|

第 39 図 古墳時代~古代検出 SC 実測図④ (S=1/30)

SC8



第 40 図 古墳時代～古代検出 SC 実測図⑤ (S=1/30)

検出面上層土層断面)。性格不明の土坑とした。

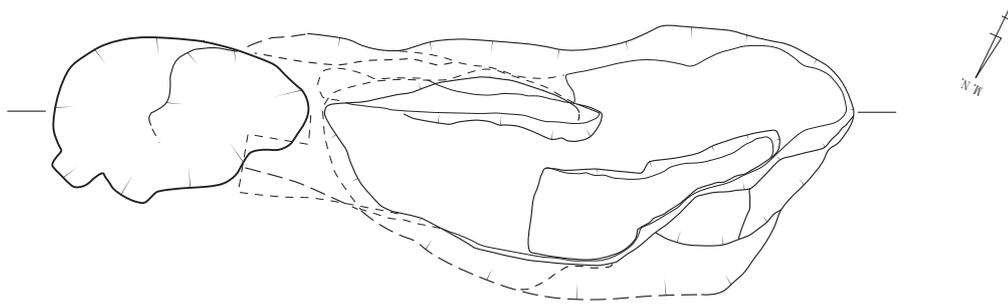
SC8

平面形が不定形の楕円形で、 $2.7 \times 1.6\text{m}$ を測る。XIIIb層で検出した。IX層とX層由来の埋土がレンズ状堆積をしていた。

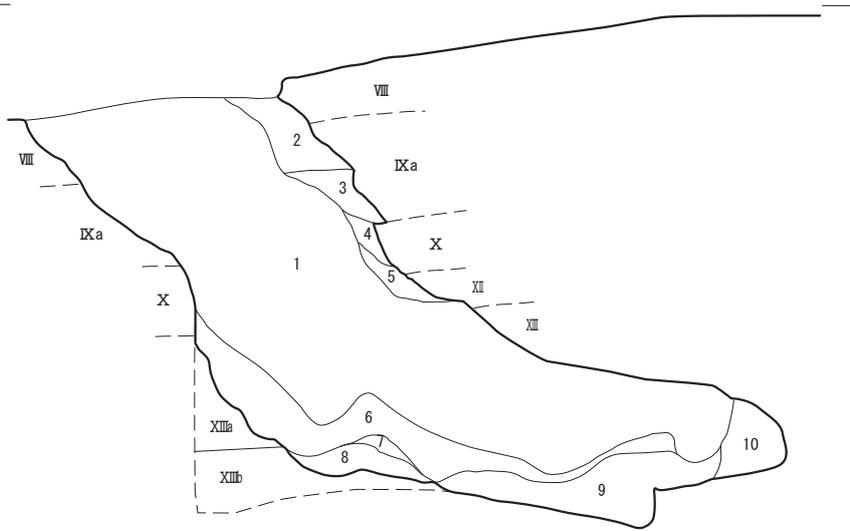
SC10

VII層上面で検出した。平面形は楕円形で上端は $1.0 \times 0.5\text{m}$ 、下端は $2.0 \times 0.8\text{m}$ を測る。検出面からの深さは 1.8m で、上端から西方向に斜めに下がり、その後横方向に進んでいる。下端は上端から 1.9m 西側に入る。埋土は黒色土が大部分を占め、最奥部では鉄分を多く含んでいた。一部遺構壁面の崩落と思われる痕跡も確認した。SC1 と同様、粘土採掘穴と思われる不明土坑である。

SC10

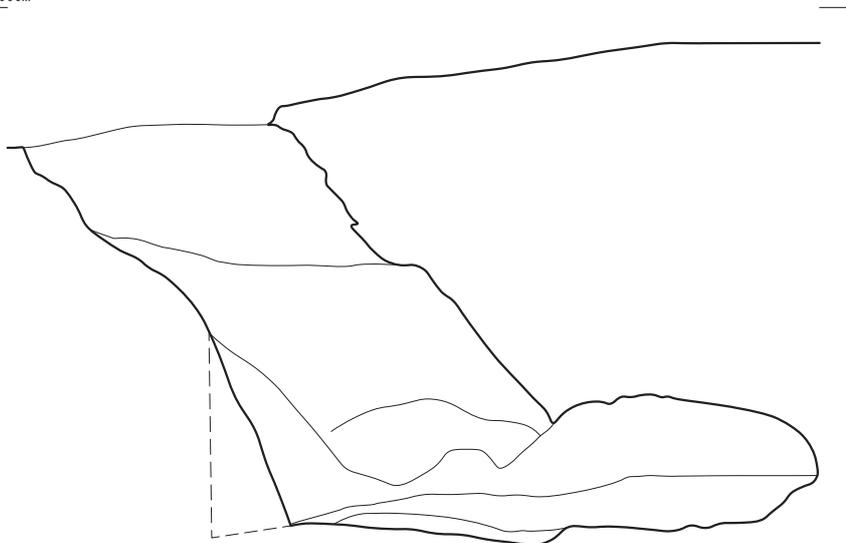


170.000m

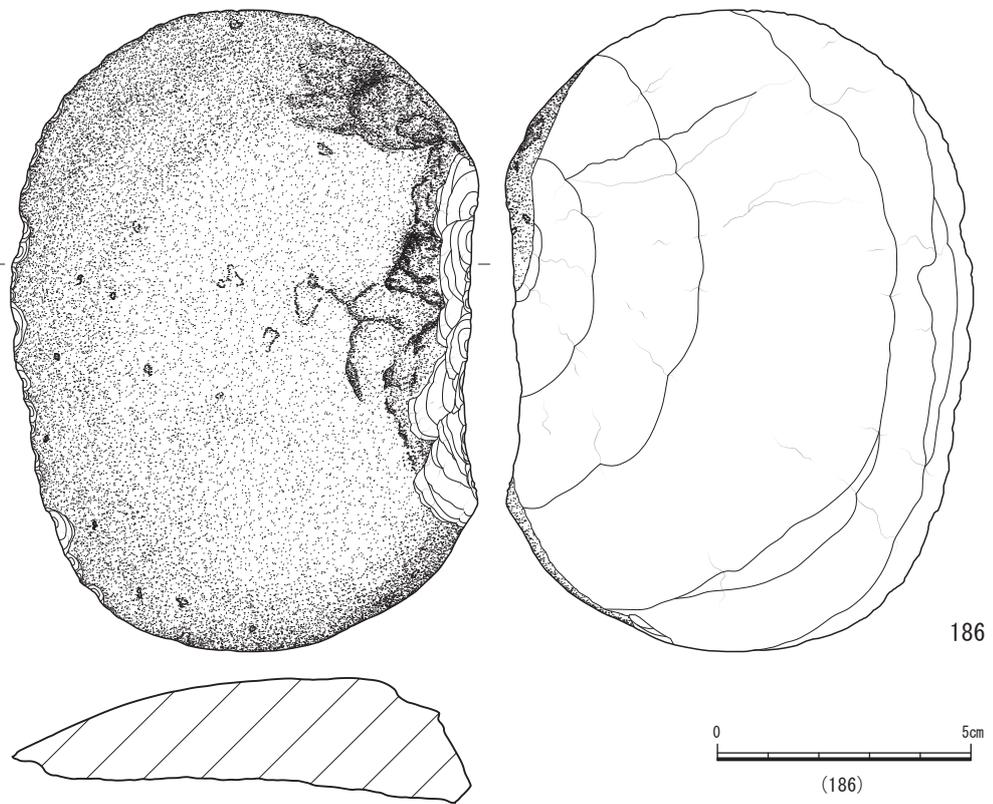
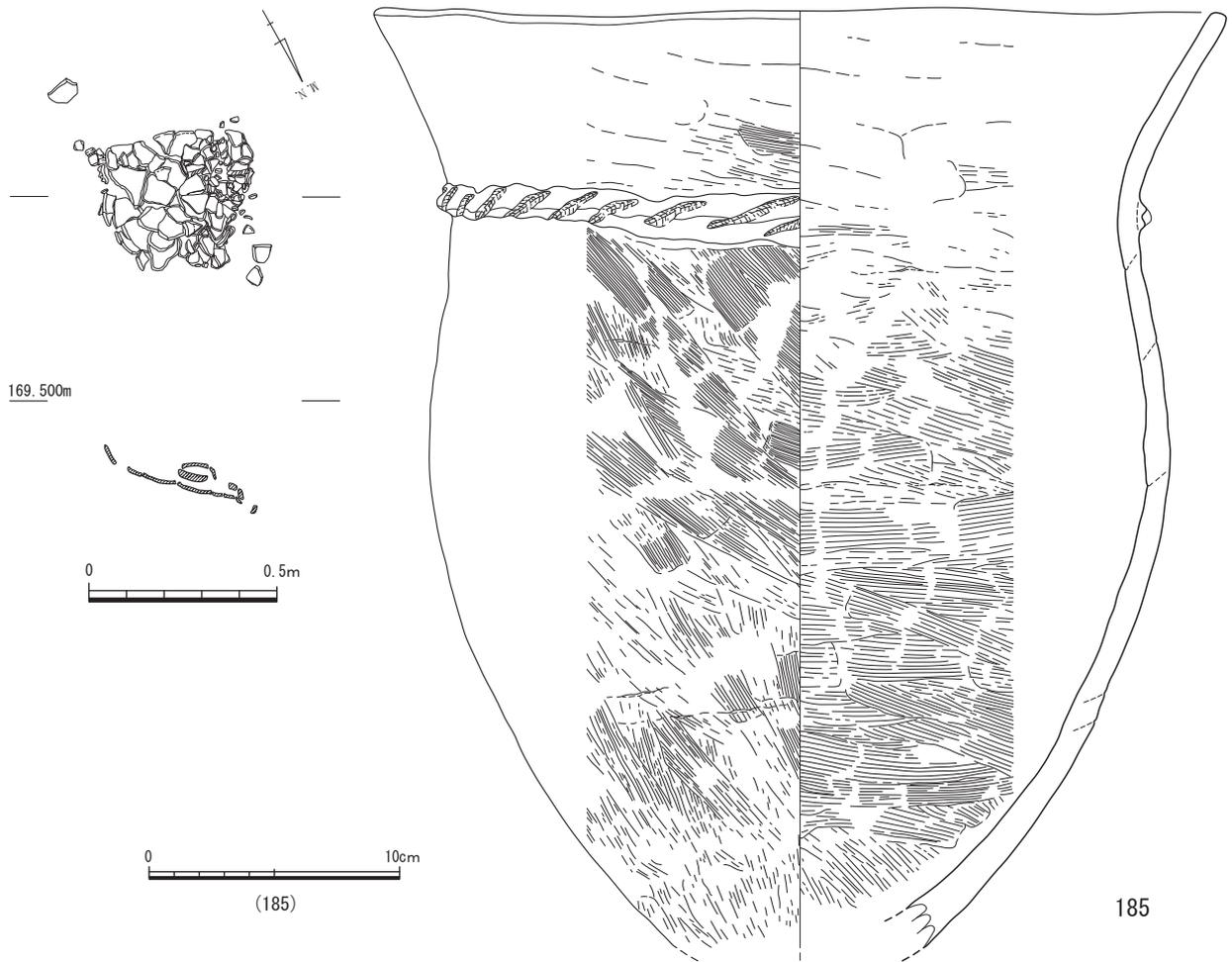


- | | |
|--|---|
| <p>1. 黒色シルト質土 (10YR2/1) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む
しまり弱い</p> <p>2. 黒色シルト質土 (10YR2/1) 10 mm以下の黄橙色軽石を多く含む
黒褐色土ブロックを含む。(Φ20 mm程度) しまり弱い</p> <p>3. 黄橙色シルト質土 (10YR7/8) しまり弱い</p> <p>4. 黄灰色シルト質土 (2.5Y4/1) しまり弱い ブロック状</p> <p>5. 黒色粘質土 (10YR2/1)</p> | <p>6. 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 5 mm以下の橙色軽石を含む
ブロック状</p> <p>7. 褐灰色シルト質土 (10YR4/1) 3 mm以下の橙色軽石を含む</p> <p>8. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 8 mm以下の黄橙色軽石を含む
鉄分を含む</p> <p>9. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 2 mm以下の黄橙色軽石を含む</p> <p>10. 褐灰色シルト質土 (10YR4/1) 2 mm以下の黄橙色軽石を含む
鉄分を含む</p> |
|--|---|

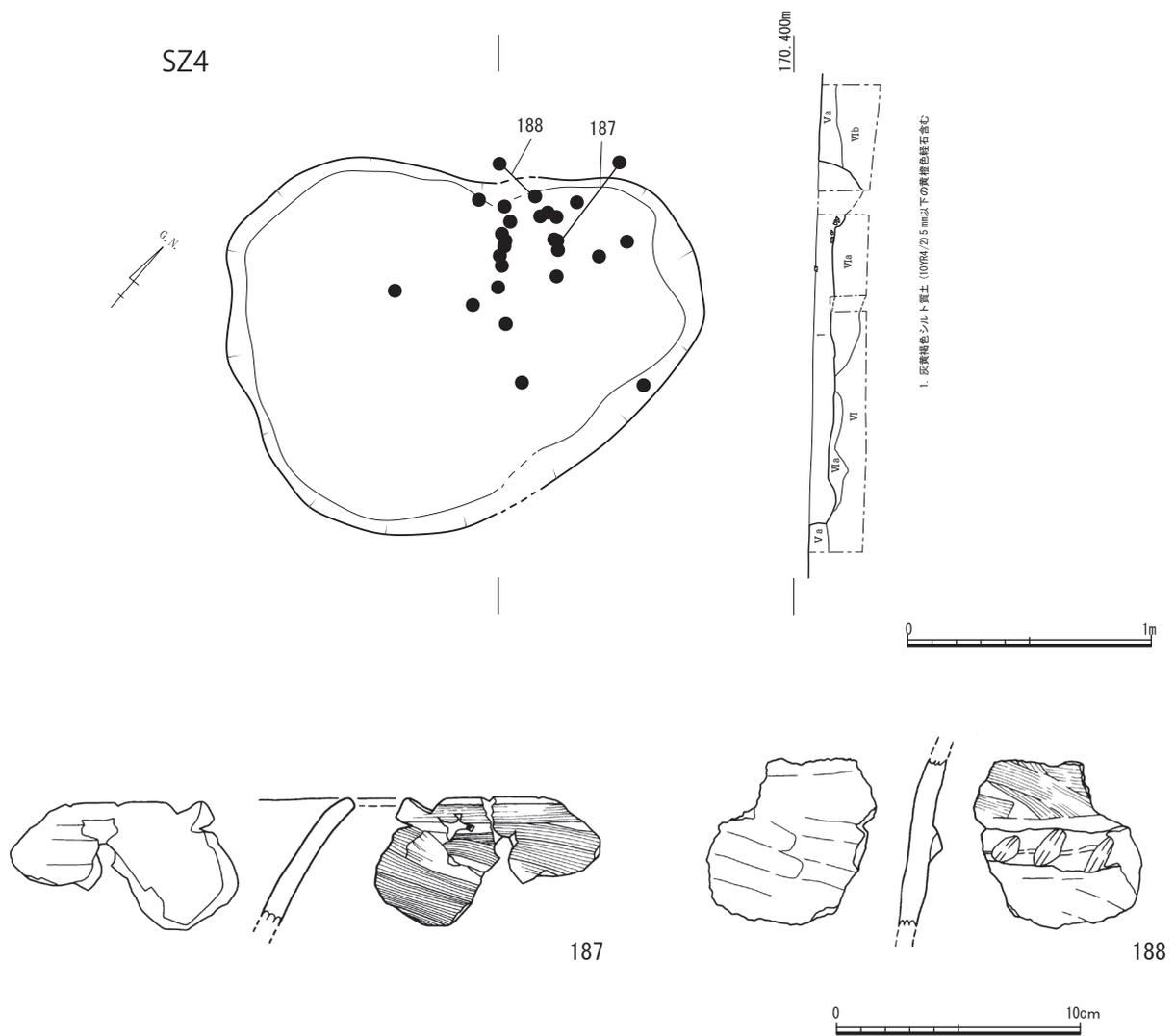
170.000m



第 41 図 古墳時代～古代検出 SC 実測図⑥ (S=1/30)



第 43 図 古墳時代～古代検出 SZ 実測図②及び遺構内出土遺物実測図 (S=1/20、2/3、1/3)



第 44 図 古墳時代～古代検出 SZ 実測図③及び遺構内出土遺物実測図 (S=1/30、1/3)

圧痕が検出され、圧痕部分には原体と思われる丸い土塊が残存していた。土塊については、種実の可能性を考え同定分析を実施したが、植物に由来する物質や痕跡は認められなかった（第 3 章第 3 節）。

184 は頸部～胴部片で、ナデ調整を施す。胴部がくの字状に屈曲し、口縁部は外反ぎみに広がる。土器の形状・胎土から、別時期の流れ込みの可能性はある。185 は口縁部が外傾し、頸部にキザミ目突帯を持つ。キザミ目部分には僅かに布目圧痕が残る。突帯貼付後、横方向にナデを施す。外面は横～斜め方向のハケメ、内面は横方向の工具ナデである。口径は 33cm、器高は残存で 37.7cm を測る。186 はスクレイパーで遺構中央付近より出土した。

遺構の南西側のピット底面から土師器片 2 点が出土しており、185 と同一個体と思われる。

SZ4

Va 層で土器が密集したことで検出した。サブトレンチで確認したところ、浅い落ち込みを確認したため、遺構として調査を行った。2.0 × 1.5m で楕円状の平面形を呈する。187 は口縁部で外傾する。外面にはハケメを持つ。188 は胴部片で、キザミ目突帯を持つ。

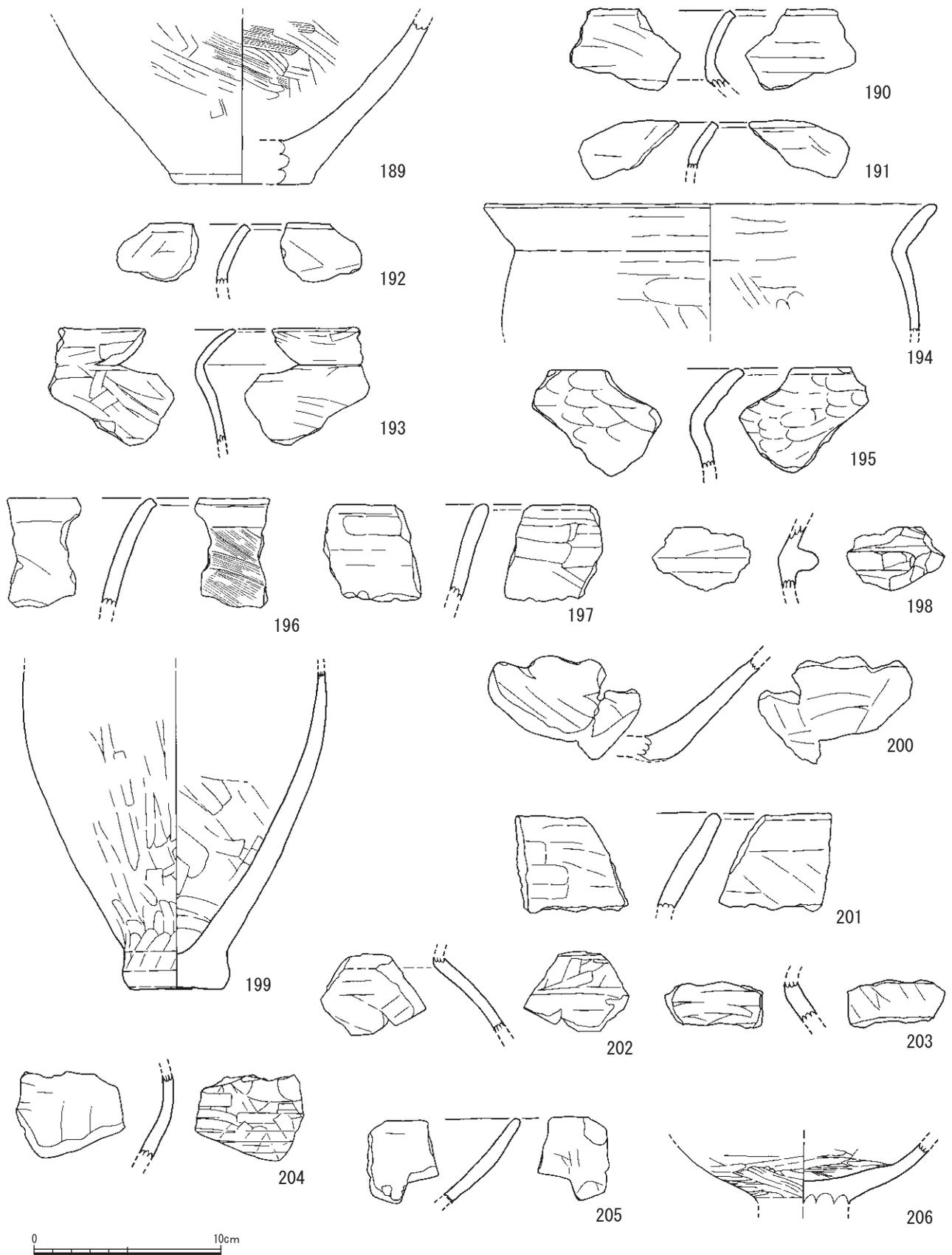
第8表 古墳時代～古代検出遺構内出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測No.					
				口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面	内面	石英	長石	白色鉱物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鉱物	赤色鉱物	軽石	砂粒	外面			内面				
182	甕	胴部	SC1	—	—	—	橙 5YR 6/6	にぶい褐 7.5YR 5/4	2		1						2							ナデ	工具ナデ		232
183	甕	胴部	SC1	—	—	—	橙 7.5YR 6/4	にぶい黄橙 10YR 6/3	2		1	2												ナデ	ナデ	黒変あり	231
184	鉢	頸～胴部	SZ1 E-4 E-5	—	—	—	にぶい黄橙 10YR 6/3	灰黄褐 10YR 6/2			1	1											3	ナデ	ナデ		20
185	甕	口縁～胴部	SZ1	377	—	330	橙 5YR 7/6	にぶい橙 7.5YR 7/4																ナデ、ハケ	ナデ、工具ナデ		19
187	甕	口縁部	SZ4 D-3	52	—	—	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	3			2												ハケ、ナデ	ナデ、ハケ	内、外側に黒変あり	23
188	甕	胴部	SZ4 D-3	—	—	—	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	3			2												ハケ、ナデ	ナデ	キザミ目突帯	238

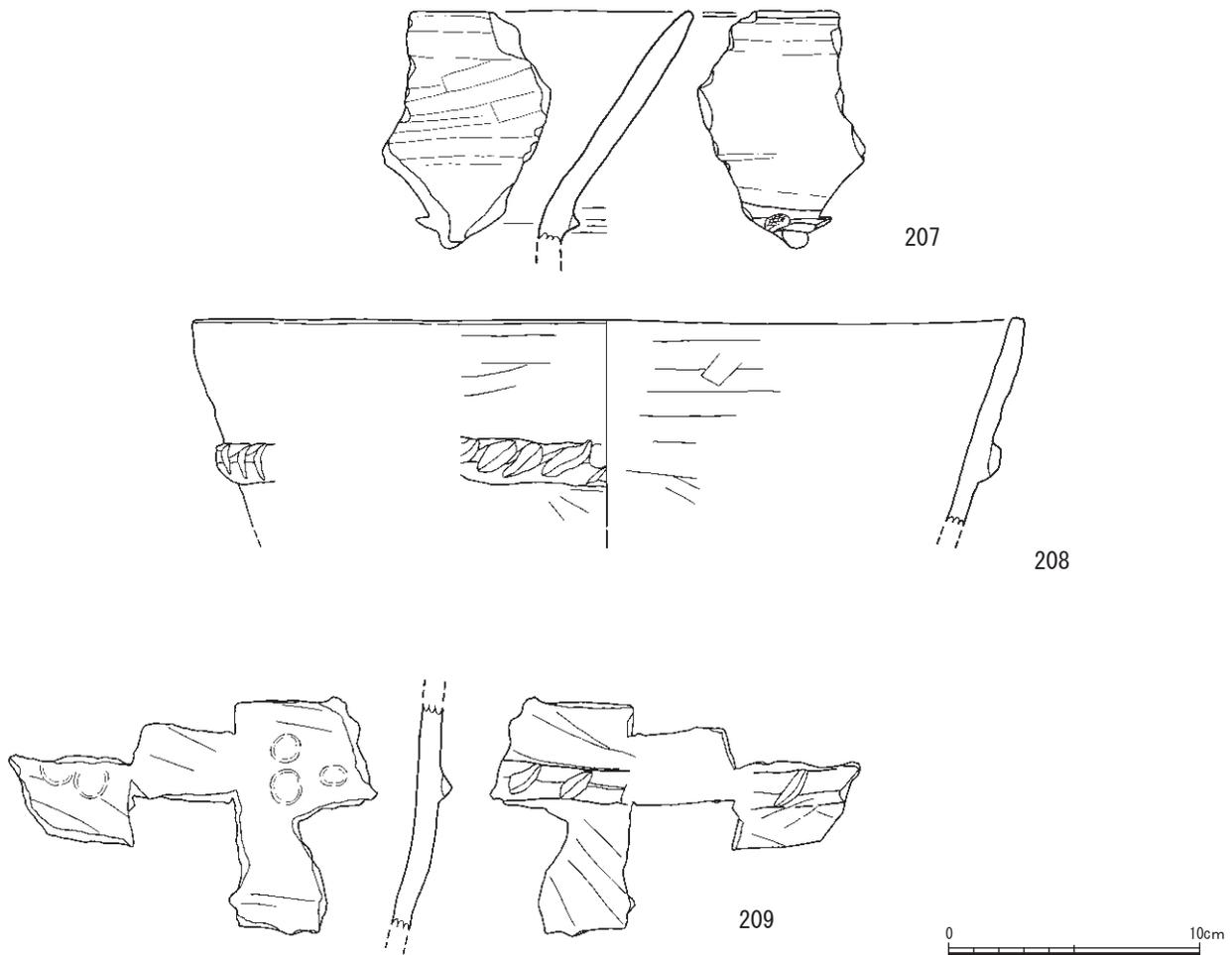
第9表 古墳時代～古代検出遺構内出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	実測No.
186	SZ1	スクレイパー	砂岩	12.75	9.25	3.1	309.1		委託 2-1

4 弥生・古墳時代～古代の遺物



第 45 図 弥生・古墳時代～古代包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第46図 古墳時代～古代包含層出土土器実測図② (S=1/3)

ここではIV～VI層で出土した遺物のうち、弥生時代から古代に相当する土器を報告する。

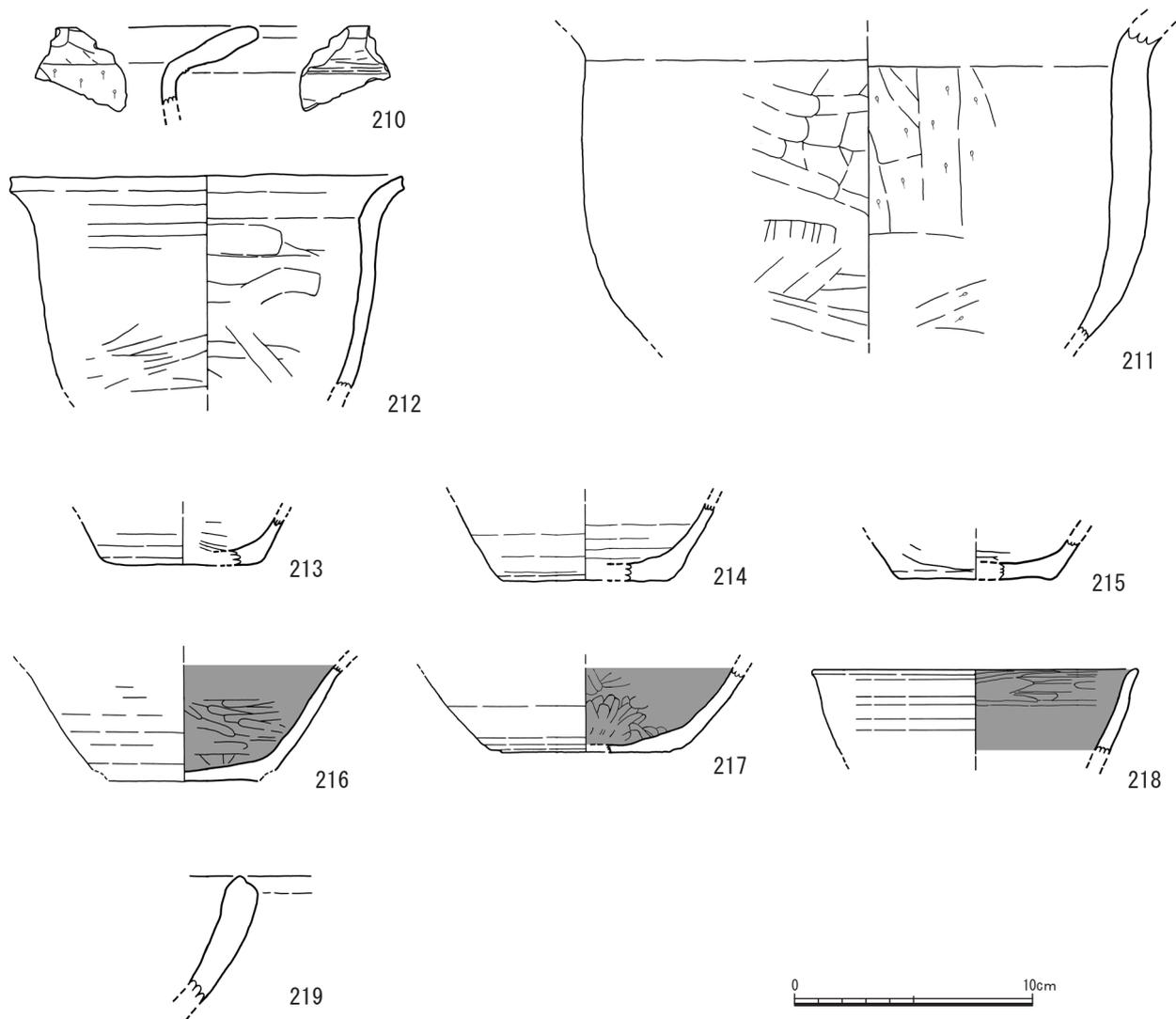
(1) 出土土器について

弥生土器 (189)

189は甕の胴～底部で、底径は復元で78mmを測る。内外面ともナデ及びハケ調整で、内面は一部ミガキを行う。

古墳時代の土師器 (190～209)

190は内外面ともにナデ調整である。頸部が屈曲し、口縁部がやや外反する。191は口縁部片で、やや反る形状である。192は口縁部片で、やや反る形状である。193は口縁～胴部で、口縁部が外反し先端が窄む。194は口縁～胴部片で、口縁部が外傾する。口径は反転復元で、241mmである。195は口縁～頸部片で口縁部が外傾する。内外面ナデ調整である。196は外傾する口縁部片で外面をハケで調整する。197は口縁部片でナデ調整を施す。198は甕の頸部付近で突起を持つ。199は底～胴部片で、内外面に工具ナデ、ナデを施す。底径は復元で50mmである。内面は広範囲に黒変し、外面には少量のススが付着する。200は底部片である。201は壺の口縁部である。202・203は壺の頸部付近でナデ調整を施す。204は壺の胴部片である。205は高坏の口縁部片で、調整はナデである。206は高坏の坏部で、丁寧なナデ調整を施す。207は口縁部で外傾する。頸部付近に布痕を持つキザミ目突帯を持ち、突帯部分は横ナデを行う。208は口縁部片で、復元口径328mmである。209は口縁部付近の破片で、キザミ目突帯を持つ。キザミ部分には微かに布痕が残る。



第 47 図 古墳時代～古代包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

古代の土師器 (210～219)

210 は口縁～頸部片で、口縁部外面がやや膨む。内面の頸部から下部はケズリを行う。211 は頸～胴部片で、内面はケズリを施す。外面頸部付近を中心に黒変する。212 は口縁～胴部片で、内外面ともナデを施す。外面には僅かにススが付着する。213 は坏の底部で復元底径は 68mm を測る。214 は坏の底部で底径は反転復元で 74mm を測る。215 は坏の底部で底径は反転復元で 70mm を測る。216 は黒色土器碗の底部で底径 65mm を測る。高台部分が欠損する。217 は黒色土器碗の底部で復元底径は 80mm を測る。高台部分が欠損する。218 は黒色土器碗の口縁部片で、復元口径 135mm である。219 は製塩土器の口縁部片で、内外面ともに調整は摩耗している。

第10表 弥生・古墳時代～古代包含層出土土器観察表

掲載番号	器種	部位	出土地点	法量			色調		胎土										文様及び調整		備考	実測No.	
				口径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	外面	内面	石英	長石	白色鉱物	輝石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鉱物	赤色鉱物	軽石	砂粒	外面			内面
189	甕	底部	C-3	89	78	—	橙 7.5YR 6/4	橙 7.5YR 6/6	3		3	1					2		2	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ、ミガキ		224
190	甕	口縁～頸部	O-6	40	—	—	浅黄橙 7.5YR 8/4	浅黄橙 7.5YR 8/4			1	1						4	ナデ	ナデ		176	
191	甕	口縁部	O-6	24	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4			1						1		1	ナデ	ナデ	黒変あり(口唇部)	183
192	甕	口縁部	N-6	31	—	—	浅黄橙 7.5YR 8/6	橙 5YR 7/6	1								1		4	ナデ	ナデ		184
193	甕	口縁～胴部	O-3	62	—	—	橙 5YR 7/8	にぶい黄橙 10YR 7/4	2			1						1	2	ナデ	ナデ		181
194	甕	口縁～胴部	O-3	68	241	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/3	2		1	1							1	ナデ	ナデ		180
195	甕	口縁～頸部	O-3	52	—	—	橙 5YR 7/6	にぶい橙 7.5YR 7/4	2	3							3		1	ナデ	ナデ		182
196	甕	口縁部	D-3	59	—	—	橙 7.5YR 6/6	橙 7.5YR 6/6	2			1					2			ハケメ、ナデ	ナデ		24
197	甕	口縁部	—	51	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい橙 7.5YR 7/3	2			1							1	ナデ	ナデ		229
198	甕	頸部	E-5	—	—	—	橙 7.5YR 6/6	橙 7.5YR 7/6	2			1						3	ナデ	ナデ		227	
199	甕	胴～底部	D-3	170	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	3			1					2		2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ		179
200	甕	底部	N-6 O-6 P-7	25	—	—	橙 7.5YR 7/6	明黄褐 10YR 7/6		1	1	2					1		4	ナデ	ナデ		186
201	壺	口縁部	E-5	—	—	51	にぶい黄橙 10YR 7/3	にぶい黄橙 10YR 7/3	2			1					1			ナデ	ナデ		218
202	壺	頸部	E-5 E-6	41	—	—	橙 7.5YR 7/6	にぶい黄橙 10YR 7/4	3			2								ナデ	ナデ		216
203	壺	頸部	Q-5	22	—	—	明赤褐 5YR 5/6	橙 7.5YR 6/6	1									1		ナデ	ナデ		174
204	壺	胴部	P-3	46	—	—	橙 7.5YR 6/6	にぶい褐 7.5YR 6/3	3		1	2					2		1	ナデ	ナデ		109
205	高坏	口縁部	O-4	44	—	—	橙 2.5YR 6/6	橙 5YR 6/6	3	3		2					2			ナデ	ナデ		175
206	高坏	坏部	O-5 P-5	33	—	—	橙 5YR 6/6	橙 7.5YR 6/6	3								2		1	ナデ	ナデ	黒変あり	173
207	甕	口縁～頸部	C-3	94	—	—	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/3	3	1	1	2								工具ナデ	工具ナデ	黒変あり、組織痕	222
208	甕	口縁部	D-3	82	—	328	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい橙 10YR 7/4	1			1								ナデ	ナデ	黒変あり、キザミ部分組織痕	217
209	甕	胴部	E-5 E-6	90	—	—	にぶい黄橙 10YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 6/3	1			1	1				1		1	ハケ	指オサエ、ナデ	黒変あり、キザミ部分組織痕	225
210	甕	口縁部	E-4	33	—	—	橙 2.5YR 7/6	橙 2.5YR 7/6	2	3									3	ナデ	ケズリ、ナデ		228
211	甕	胴部	O-5	133	—	—	橙 7.5YR 7/6	橙 7.5YR 7/6	2		2	1					2			ナデ	削り、ナデ	黒変あり、スス付着、胴部最大径234mm	106
212	甕	口縁～胴部	P-6	90	—	164	にぶい橙 7.5YR 7/4	にぶい黄橙 10YR 7/4	1		1	1							1	ナデ	ナデ		178
213	坏	坏部	O-4	20	68	—	橙 5YR 7/6	橙 5YR 7/6	2			1					2			回転ナデ	回転ナデ		191
214	坏	坏部	O-3	32	74	—	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6	1		1	1								回転ナデ	回転ナデ	黒変あり	190
215	坏	坏部	O-4	16	70	—	橙 5YR 7/6	橙 5YR 7/6	1		2						1	2		回転ナデ	回転ナデ		192
216	椀	坏部	O-3	48	65	—	橙 5YR 7/6	にぶい黄橙 10YR 7/2	3								2	1		回転ナデ、ヘラケズリ	ミガキ、ナデ	内黒	188
217	椀	坏部	O-3	35	80	—	にぶい橙 7.5YR 7/4	黒褐 7.5YR 3/1	1		1						1			回転ナデ	ミガキ	内黒	189
218	椀	口縁部	N-7	36	—	135	にぶい橙 7.5YR 6/4	黒 7.5YR 6/4	1		1									回転ナデ	ミガキ	内黒	187
219	—	口縁部	O-3	55	—	—	橙 5YR 6/6	橙 5YR 6/6			1						1	1		—	—		193